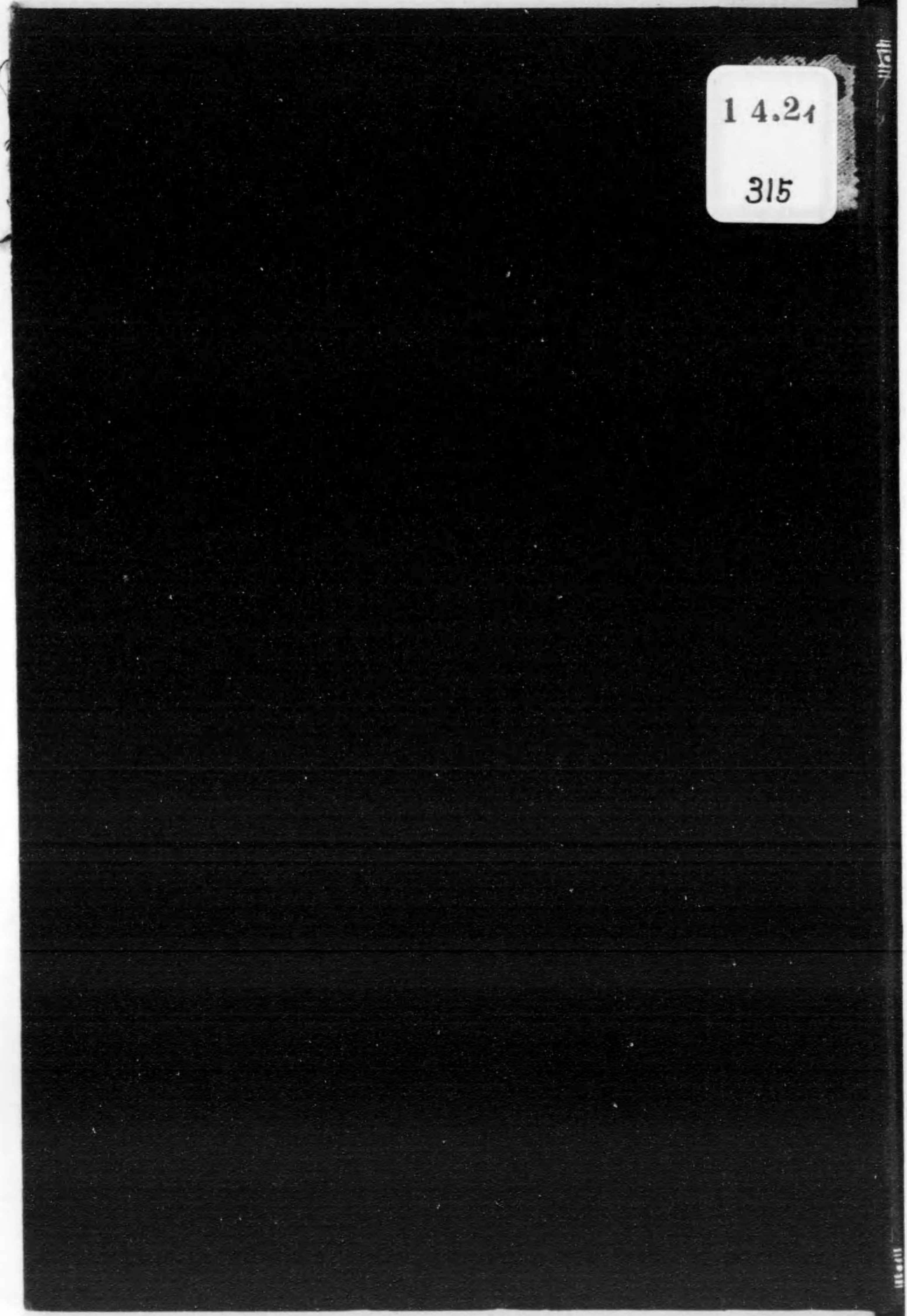


14.24
315

始



1421
315

大正十四年五月

大正十三年度業務功程

群馬縣立農事試驗場

大正十三年度群馬縣立農事試驗場業務功程

目次

一、試驗並ニ調査ニ關スル事項

◎種藝部

第一、水 稻

- 一、耕種梗概 一
- 二、品種豫備試驗 二
- 三、品種試驗 六
- 四、品種見本試驗 八
- 五、品種對多肥抵抗力試驗 九
- 六、純系淘汰試驗 〇
- 七、水稻未固定種育成試驗 一
- 八、豊凶考照試驗 二
- 九、種子熟期別試驗 四
- 一〇、水稻直播法試驗 四
- 一一、苗代播種期對本田多肥料試驗 五
- 一二、苗代播種期對本田增肥深耕應用試驗 六

二三、水稻分蘗數及伸長程度調査

- 一四、分蘗力試驗 一七
 - 一五、多肥料對插秧法試驗 一八
 - 一六、多肥料對耕鋤深淺試驗 一八
 - 一七、肥料用量對鋤深淺試驗 一九
 - 一八、石灰施用量試驗 二〇
 - 一九、促肥素肥効試驗(附グァノ肥効試驗) 二〇
 - 二〇、稻作追肥試驗 二一
 - 二一、畜力除草機使用試驗 二二
 - 二二、波狀栽培試驗 二二
 - 二三、裏作對多收法試驗 二二
- 第二、陸 稻
- 一、耕種梗概 二四
 - 二、品種豫備試驗 二五
 - 三、品種試驗 二六
 - 四、純系淘汰試驗 二八
 - 五、多收穫栽培試驗 二八
- 第三、大 豆
- 一、耕種梗概 二八
 - 二、品種豫備試驗 二八
 - 三、品種試驗 二八
 - 四、純系淘汰試驗 二八
 - 五、多收穫栽培試驗 二八

大正
15. 3. 9
丙 癸

- (2) 栽培時期試驗 六九
- (3) 種薯切斷試驗 六九
- (4) 除糞法試驗 七〇
- (5) 多收法試驗 七〇
- (6) 秋薯及春薯收量比較試驗 七〇
- (二) 甘藷ニ關スル試驗
 - (1) 品種試驗 七一
 - (2) 插苗程度試驗 七一
 - (3) 苗取置試驗 七一
 - (4) 苗切斷位置試驗 七一
 - (5) 株間廣狹試驗 七二
 - (6) 植付時期試驗 七二
 - (7) 追肥試驗 七二
 - (8) 食味試驗 七二
- (三) 里芋ニ關スル試驗
 - (1) 品種試驗 七二
 - (2) 植付法試驗 七三
- (四) 胡蘿蔔ニ關スル試驗
 - (1) 肥料試驗 七三
 - (2) 栽培法試驗 七三

六九 六九 七〇 七〇 七〇 七一 七一 七一 七二 七二 七二 七二 七二 七二 七三 七三

- (五) 葱頭ニ關スル試驗
 - (1) 播種期試驗 七三
 - (2) 肥料試驗 七三
 - (3) 移植試驗 七三
 - (六) 葱ニ關スル試驗
 - (1) 秋植春植比較試驗 七四
 - (2) 肥料試驗 七四
 - (七) 甘藷ニ關スル試驗
 - (1) 寒土當歸軟化栽培試驗 七四
 - (2) 薑ニ關スル試驗 七四
 - (三) 準八瓜ニ關スル試驗 七五
 - (八) 果樹
 - 第一、果樹品種比較試驗 七六
 - 第二、見本栽培 八一
 - 第三、果樹發育調査 八一

七三 七三 七三 七四 七四 七四 七四 七四 七五 七六 八一 八一 八一 八二 八三 八三 八三

三

- 一、耕種梗概 二九
- 二、品種試驗 二九
- 三、純系淘汰試驗 三一
- 四、大豆栽培法試驗 三一
- 五、大豆紫班粒調査 三一
- 六、大豆粒間距離試驗 三一
- 第四、麥類
 - 一、耕種梗概 三二
 - 二、大麥品種豫備試驗 三三
 - 三、大麥品種試驗 三四
 - 四、小麥品種豫備試驗 三六
 - 五、小麥品種試驗 三八
 - 六、裸麥品種試驗 三九
 - 七、燕麥品種見本試驗 四〇
 - 八、純系淘汰試驗 四〇
 - 九、麥豐凶考照試驗 四一
 - 一〇、大麥勞力節約栽培法試驗(畑地) 四二
 - 一一、大麥勞力節約栽培法試驗(水田裏作) 四三
 - 一二、大麥中耕法比較試驗 四四
 - 一三、大麥多收栽培法試驗 四五

- 一四、大小麥乾燥調製對貯藏法試驗 四六
- イ 大麥ノ部 四六
- ロ 小麥ノ部 四七
- 第五、經營法試驗 四八
- 一、收量調査 四九
- 二、經濟調査 五〇
- 第六、水田裏作經營法試驗 五一
- 一、收量調査 五二
- 二、經濟調査 五三
- 第七、蒞蒞試作 五五
- 第八、大麻委託試驗 五六
- 第九、稻田養鯉餌料試驗 五八
- 第一〇、食用蛙飼養 六〇
- 第一一、鮮牛種付 六一
- 第一二、改良農具 六二
- 第一三、氣象觀測 六四
- 第一、蔬 菜 六四
- 第一、馬鈴薯ニ關スル試驗
 - (1) 品種試驗 六八

四六 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五五 五六 五八 六〇 六一 六二 六四 六四 六八

二

- 二、同 參考試驗(其ノ一) 八四
- 三、同 (其ノ二) 八五
- 四、胡瓜露菌病(ベト病)對銅石鹼液並石灰
ホルドウ液効力試驗 八六
- 五、馬鈴薯痲皮病防除試驗 八七
- 六、同 豫除試驗 八七
- 七、麥類葉潛蠅蛹期埋沒驅除試驗 八七
- 八、各種販賣驅蟲殺菌劑ノ効力試驗 八八
- 調査事項
- 一、大正十三年度ニ化性螟蟲發生時期調 八九
- 二、二化性螟蟲卵寄生蜂調査 八九
- 三、稻麴ト品種トノ關係調査 九〇
- 四、小麥ノ品種ト赤澁病トノ關係調査 九一
- 五、馬鈴薯萎縮病トノ關係調査 九一
- 農林省委託麥作病害豫防試驗
- 一、大麥黑穗病及斑葉病豫防試驗 九二
- 二、小麥黑穗病豫防試驗 九三
- 三、麥類赤澁病及白澁病豫防試驗 九三
- 本省依託麥作病害試驗成績ノ考案
- 一、大麥黑穗病及斑葉病豫防試驗 九五

- 二、大小麥赤澁病白澁病豫防試驗 九六
- ◎農藝化學部
- 一、多肥對異態配合試驗 九六
- 二、多肥對倒伏豫防試驗 九七
- 三、肥料分施試驗 九七
- 四、地方維持試驗 九八
- 五、新窒素肥料肥効試驗 九八
- 六、新磷酸質肥料肥効試驗 九九
- 七、肥料肥効増進試驗 九九
- 八、大豆三要素適量試驗 一〇〇
- 九、大豆肥料配合法試驗 一〇〇
- 一〇、トリウム肥効試驗 一〇一
- 一一、促肥素効能試驗 一〇二
- 一二、グアノ肥効試驗 一〇二
- 一三、磷酸アモニア類肥効試驗 一〇三
- 一四、石灰窒素除害試驗 一〇三
- 一五、分蘗速進試驗 一〇三
- 一六、蔬菜肥料試驗 一〇四
- 一七、種子通電試驗 一〇四
- 一八、電氣ト作物生育トノ關係試驗 一〇五

- 一九、經濟的施肥量査定試驗 一〇六
- 二〇、新綠肥裏作試驗 一〇六
- 二一、新綠肥裏作栽培法試驗 一〇七
- 二二、新綠肥採種試驗 一〇八
- 二三、新綠肥見本栽培 一〇八
- 二四、糞糞促熟試驗 一〇八
- 二五、穀類加工試驗 一〇九
- 二六、果實加工試驗 一一三
- 二七、蔬菜加工試驗 一一五
- 二八、販賣肥料價格廉否調査 一一七
- 施肥標準調査
- 一、梗 概 一一七
- 二、原地依託試驗地場所及擔當者 一一八
- 三、收量調査 一二〇
- 四、原地調査 一二〇
- 五、場内ポット栽培試驗成績 一二〇
- ◎作物改良指導地成績
- 一、水稻及裏作小麥 一二二
- 二、水稻及裏作大麥 一二四
- 三、陸稻及裏作大麥 一二五

- 四、甘 藷 一二六
- 五、蔬菜改良指導地 一二七
- 六、馬鈴薯 一三〇
- 七、梨 一三二
- ◎原種圃經營事項
- 原種圃耕種梗概
- 一、水稻原種特性 一三五
- 二、陸稻原種特性 一三七
- 三、麥原種特性 一三九
- 四、甘藷原種 一四〇
- 五、馬鈴薯原種 一四三
- 六、大豆原種 一四四
- 二、種苗配布ニ關スル事項
- (一) 果樹苗木配布 一四五
- (二) 蔬菜種子配布 一四五
- 三、野鼠窒扶斯菌配布 一四六
- 四、講習ニ關スル事項 一四六
- 五、肥料土壤分析鑑定事項 一四八
- 六、成績報告書並ニ印刷物配布 一四八

七、場員出張	一四八
八、鑑定及質問應答	一四九
九、文書往復件數	一四九
一〇、來觀人員	一四九
一一、大正十三年度經費豫算高	一四九
附 錄	
群馬縣立農事試驗場概況	
一、沿革大略	一五一
二、土地及建物	一五一
三、創立以來ノ各年度經費豫算高	一五二
四、職員	一五四

大正十三年度群馬縣立農事試驗場業務功程

一、試驗並ニ調査ニ關スル事項

◎種 藝 部

第一、水 稻

一、耕種梗概

圃場試驗ハ特殊ノ試驗ヲ除ク外總テ次ノ耕種梗概ニ依リ栽培セリ、○苗代整地及施肥、整地ハ十二月三四寸ノ深サニ耕起シ三月上旬ニ至リ馬鍬ニテ縱横ニ耕起シテ土塊ヲ細ニ碎キ播種十日前ニ至リ周圍ノ畔際三尺通ヲ除キテ堆肥及人糞尿ヲ撒布シ能ク耕土ト混和シ置キ播種期ニ至リ畔際二三尺ノ處ニ水ヲ灌キ土ヲ捏ネテ高サ一尺以上ニ畔塗ヲ行ヒ後水ヲ全体ニ灌キ縱横ニ耕起シテ過磷酸石灰ヲ施シ又二三回耕起シ鍬ヲ以テ丁寧ニ均ラシ直ニ水ヲ溝ヘ翌日ニ至リ水ノ清澄ヲ待テ播種ス、○苗床ノ區劃、播幅四尺床間一尺トス、○苗代肥料、反當施用量ハ堆肥三〇〇貫、人糞尿一八〇貫、強過磷酸石灰七貫ニシテ所含ニ窒素三貫四、磷酸二貫八、加里一貫九ナリ、肥料ハ全部元肥トス、○選種、唐箕選ノ後比重選ヲ行フ、粳一、二三、糯一、○八、○浸種日數、七日間、○播種量、苗代一坪當播種量ハ大粒種ニ合小粒種一合五勺ナリ、○播種期、五月十日、○本田整地、麥刈取後直ニ鋤起シ灌水シテ縱横ニ二回耕起シ之ニ堆肥ヲ施シ再ヒ鋤起シタル後肥料ヲ施シ馬鍬ニテ耙耨シ地均ヲ行ヒ插秧スルモノトス、○本田肥料、反當施用量ハ堆肥三〇〇貫、人糞尿一八貫、大豆粕一四貫、過磷酸五貫ニシテ所含ニ窒素二貫六、磷酸二貫、加里二貫二ナリ、肥料ハ

供試品種ハ苗代稻二二號、早生愛國三〇號、大森早生、東郷二四號、金光坊一二號、坊主二本三二〇號、太郎兵衛糯、金佐糯、改良愛國一四號、愛國六號、福龜九二號、國富一四號、穀良都、無芒愛國、羽田、東京坊主、關取廣一一五號、關取金八號、玉錦高一七號、選一二七號、世界一、須賀一本、改良神力、ニシテ合計二二品種ナリ

試驗成績ハ前三ケ年ノ平均ニ據レハ愛國六號主位ヲ占メ改良愛國一四號、須賀一本、東郷二四號、玉錦高一七號、等之ニ順次シ、苗代稻二二號最モ劣レリ尙試驗ヲ繼續シテ結果ヲ究ムヘシ

六、純系淘汰試驗

品種比較試驗ノ結果有望ト認メタルモノ、廣ク栽培セラル、品種中有望ト認メタルモノ並農事試驗場畿内支場ヨリ配布ヲ受タルモノ、内有有望ト認メタルモノニ就キ純系淘汰試驗ヲ施行セリ

1、無芒愛國純系第三年

供試品種ハ一號、六號、一四號、二二號、二四號、二八號、三八號、四〇號、四二號、四四號、五五號、五七號、在來、六二號、六六號、六七號、七〇號、七一號、七二號、七三號、七六號、七七號、七八號、七九號、七二號、一〇二二三系統ナリ

試驗成績ハ一號最モ優秀ニシテ反當收量三石一斗八升ヲ示シ在來種ノ反當收量二石四斗八升ニ比シ七斗ノ増收ナリ、七二號、七三號之ニ順次シ、最モ劣レルハ六二號ニシテ反當收量一石九斗一升ニ過サレハ最多最少ノ差ハ實ニ一石二斗七升ニ達セリ

2、羽田純系第四年

供試品種ハ二八號、三六號、五五號、六一號、在來、六七號、五四號ノ七系統ナリ
試驗成績ニケ年ノ平均ニ據レハ六七號最優秀ニシテ反當收量二石六斗六升九合ヲ示シ成績最モ不良ナル在來種ノ反當收量一石九斗二合ニ比シ七斗六升七合ヲ増セリ

3、金佐糯純系第五年

供試品種ハ一七號、一八號、二四號、在來、二五號、三七號、六一號ノ七系統ナリ
試驗成績前三ケ年ノ平均ニ據レハ反當收量最モ多キハ一七號ナレトモ收量並品質ヲ綜合シテ成績最モ良好ナルハ二四號ニシテ反當收量二石一斗三升六合ニ達シ、在來種ノ反當收量一石九斗二升一合ニ比スレハ二斗一升五合ヲ増加シ品質良好ナルヲ以テ原種トナセリ

七、水稻未固定種育成試驗

(第一年)

農商務省農事試驗場畿内支場ヨリ配布ヲ受タル水稻未固定種ヲ栽培シ本縣ノ風土ニ適スル優良品種ヲ發見シ併セテ之カ固定ヲ計ラントス

畿内支場ヨリ配布ヲ受ケ栽培セル品種ノ名稱

P4 晚三三號	P4 大場 早生	P4 早生 神力	P4 早生 二二號	P4 八 反 草	P4 早生 六七號
P5 晚三三號	P5 短 神 力	P5 伊 太 利 RR	P5 伊 太 利 RS	P6 高 野 坊 主	P7 大 場
F4 早二二×早六七、一七系統(四、一七、一八、二五、三二、四六、四九、五七、六〇、七九、八四、八六一一五、一三八、一七一、一八五、二二三)	F4 大場早×晚三三、七系統(二四〇、二六〇、二八三、三一〇三四六、三五三、三六三)	F4 八反草×早神力、九系統(三七八、三八〇、三九四、四〇二、四一五、四二三四三〇、四四五、四四六)	F5 伊太利RS×早神力、四系統(六七、一一五、一六六、二〇五)	F5 伊太利RS×短神力、四系統(七、九、二三、三九)	F5 伊太利稻×晚三三、五系統(三〇一、三四八、三五八、四〇四、四七六)
F6 高野坊主×大場、二系統(六二、一四一)	右品種ヲ栽培セル結果優良ト認メタル左記各品種ヲ選抜シ栽培セントス				
P5 晚三三號	P5 大場 早生	P5 早生 神力	P5 早生 六七	P6 晚三三號	P6 短 神 力
P6 伊 太 利 RR	P7 高 野 坊 主	P7 大 場			

F5大場早×晚三三(三三〇號六系統、三四六號九系統、三六三號一〇系統、二六〇號五系統、二四〇號九系統) F5早二二×早六七(四號一〇系統、一七號一〇系統、一八號八系統、二五號七系統、三二號五系統、四六號七系統、五七號一〇系統、七九號九系統、八四號九系統、八六號六系統、一一五號七系統、一三八號九系統、一七一號九系統、一八五號八系統、二二三號一〇系統) F5八反草×早神力(三七八號一〇系統、三八〇號九系統、四〇二號一系統、四二三號五系統、四四五號五系統、四四六號一系統) F6伊太利RS ×早神力(六七號四系統、F6伊太利RS×短神力(三九號五系統) F6伊太利稻×晚三三(三四八號八系統、四〇四號四系統) F7高野坊主×大場(六二號六系統)

八、豊凶考照試驗

明治三十四年以來ノ繼續ニシテ大正元年ニ至リ更新ヲ行ヘリ、本試驗ハ毎年引續キ同一水田ニ同種類ノ早中晚稻三種類宛ヲ同一方法ニヨリ栽培シ以テ其ノ年ノ豊凶ヲ考照セントスルモノナリ、其ノ成績左ノ如シ

種	類	大正十三年		平		年	比較	増減
		丈	數	丈	數			
早稻	三種平均	二、〇二	二二*	二、二七	二三*	△	△	△
中稻	三種平均	一、七六	一六	一、九六	一九	△	△	△
晚稻	三種平均	一、八六	二六	一、九七	三三	△	△	△

備考 △印ハ減ヲ示ス
苗代期中氣候概ネ不良ナリシヲ以テ移植後天候回復シタルモ株張伸長共良好ナラス、尙多少螟蟲發生シタルヲ以ツテ平年ニ比シ生育稍不良ナリ

二、二月十日(九月一日調)

品	種	大正十三年		平		年	比較	増減
		丈	數	丈	數			
早稻	三種平均	三、九四	二二*	四、〇七	二三*	△	△	△
中稻	三種平均	四、〇六	一九	四、二三	二〇	△	△	△
晚稻	三種平均	三、六六	一九	三、九二	三三	△	△	△

備考 △印ハ減ヲ示ス
大暑後氣候概ネ良好ナリシモ乾燥ニ失シ加フルニ多少螟蟲ノ發生ヲ見尙出穂期ノ氣候曇天勝ニシテ出穂期ヲ幾分遅延セシメタルニヨリ作況平年ニ比シ稍不良ナリ

三、秋分(九月二十三日調)
二百十日以後暴風無ク氣候概ネ適順ナリシヲ以テ株張稍少ナケレト稻ノ粒着稍多クシテ作況平年ニ比シ稍良好ナリ

種	類	大正十三年		平		年	比較	増減
		丈	數	丈	數			
早稻	三種平均	四、一三	二〇*	三、九九	二〇、五	△	△	△
中稻	三種平均	四、一三	一九	四、一三	一九、六	△	△	△
晚稻	三種平均	四、二五	一八	四、三三	一九、七	△	△	△

備考 △印ハ減ヲ示ス

四、大雪

種類	大正十三年		平均		比較	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
早稻三種平均	二、七二	三、八五三	二、四四五	三、八二二	〇、二五六	三、一
中稻三種平均	二、七三九	三、九〇七	二、五三六	三、六五九	〇、一九三	四、八
晚稻三種平均	二、七二六	三、八九〇	二、五九八	三、八四一	〇、二一八	四、九

稻作期間ヲ通シ苗代期中ハ氣候概ネ良好ナラザリシモ移植後天候回復シ殊ニ暴風雨ナク氣候適順ナリシ爲早稻ハ平年ニ比シ一割四厘、中稻ハ七分五厘、晚稻ハ四分六厘ノ增收ヲ示セリ

九、種子熟期別試験

稻種子ノ成熟程度カ稻作栽培上發芽成育等ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤヲ選一、農場關取、改良豊年、ノ三品種ニ就キ各乳熟期、黃熟期、過熟期ノ三期ニ區別シ試験セリ
本試験三ヶ年ノ平均成績ニ依レハ三品種中改良豊年種及農場關取種ニアリテハ、黃熟若クハ過熟ノ種子成績良好ニシテ選一種ニアリテハ黃熟若クハ乳熟種子成績最モ良好ナルヲ以テ未タ統一シタル結論ヲ得ス尙試験ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

一〇、水稻直播法試験

裏作大小麥ノ作條間ニ水稻ヲ直播シタル場合收量ニ以如ナル影響ヲ及ホスヤヲ知ランカ爲左記方法ニヨリ試験セリ
肥料ノ反當施用量ハ堆肥三〇〇貫、豆粕一四貫、強過磷酸石灰五貫、磷安一貫、硫加一貫、下肥十八貫、所含三要素量ハ窒素三貫、磷酸二貫四、加里二貫ニシテ内堆肥三〇〇貫、豆粕七貫、磷安一貫、過磷酸二貫

五、硫加一貫、元肥トシ其他ハ麥刈取期及七月上旬ノ二回ニ追肥ス

試験區別	畦幅	株間	播種量	播種期	發芽	稈備	反當玄米重量	玄米一升重量	備考
大麥跡	一尺三寸ト七寸ノ交互	八寸五分七厘	三升二合	五月七日	五月三日	三、一〇〇	二、三三〇	三、九〇	元肥ヲ施シ合土シテ十粒宛点播シ苗ノ成長後一株五本宛トス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	同	同	同	二、九五	二、四五〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	三、三〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升二合	同	同	三、二〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	三、〇〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升二合	同	同	二、八〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	二、六〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	二、五〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	二、四〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	二、三〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	二、二〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	二、一〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	二、〇〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	一、九〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	一、八〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	一、七〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	一、六〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	一、五〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	一、四〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	一、三〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	一、二〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	一、一〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	一、〇〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	〇、九〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	〇、八〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	〇、七〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	〇、六〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	〇、五〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	〇、四〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	〇、三〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	〇、二〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
小麥跡	同	同	三升	同	同	〇、一〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸
大麥跡	同	同	三升	同	同	〇、〇〇	二、三三〇	三、八	元肥ヲ施シ間土シテ條播ス耕土ノ深サ四寸

備考 供試品種ハ愛國六號ニシテ參考區ハ經營法試驗跡八區ヲ充當シ各區共一本植トナシ之カ平均成績ヲ求メタリ

前表ニ據レハ早播區ノ成績ハ何レモ標準區ニ比シ敢テ遜色ナキノミナラス小麥跡ノ如キハ反テ增收ヲ示セリ以上ハ未タ一ヶ年ノ試験成績ニ過サレハ今後試験ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

一一、苗代播種期對本田多肥料試驗

本田ニ於テ多肥料ヲ施ス場合播種期ノ早晚ハ稻作多收穫ニ對シ如何ナル關係アルヤヲ知ランカ爲左記方法ニヨリ試験セリ

苗代一坪當肥料用量ハ (イ) 早播區、元肥ニ堆肥一貫、下肥三百五十匁、磷酸五十匁、黑灰百匁、強過磷酸二十五匁ヲ施シ、追肥トシテ苗四寸位ニナリタル時磷安二十匁ヲ水ニ溶シ葉ニ掛ラヌ様施用シ苗七八寸ニ伸長シタル時下肥六十匁ヲ水ニ稀釋シ撒布ス、所含三要素量ハ窒素一八匁、磷酸二三匁、加里一八匁ナリ第一回追肥ノ際除草ヲ行ヒ一寸四方一本位ニ間引シ第二回ノ追肥ト共ニ第二回ノ除草ヲ行フ (ロ) 普通播區、

凡ラ當場普通法ニヨル
 本田一反步當肥料用量ハ堆肥四〇〇貫、磷酸七貫、豆粕七貫、強磷五貫、蛹粕五貫、下肥五〇貫、灰類二八貫、骨粉五貫、硫加三貫、石灰三〇貫、所含三要素量ハ窒素四、五貫、磷酸五、八貫、加里六、四貫ニシテ灰類ハ成ル可ク黒灰トシテ施シ時期ハ石灰ト同時若クハ插秧前ナリ

試驗區別	苗代		本		出穂成熟	稈長	反當玄米收量	
	播種期	坪當播種量	畦幅	株間株數			本數	十三年正平均
早播區	五月十日	一、八	一尺	四寸三分	八四株	一本	九月九日	二、二四〇
普通播區	五月十日	一、五	一尺	一尺	三六株	二本宛 三株寄	九月十日	二、一七〇

備考 供試品種ハ選一二七號ナリ、早播區ノ插秧ニ際シテハ成ル可ク分蘖苗ヲ使用シ根部ノ土ヲ落サ、ル様丁寧ニ苗取ヲ行ヒ作條ニ斜ニ植付タリ、其他ハ兩區共凡テ當場普通法ニヨル
 前表ノ成績ニ依レハ早播區ハ普通播區ニ比シ五斗八升三合餘ノ增收ナリ

一一、苗代播種期對本田增肥深耕應用試驗

水田ヲ深耕シテ多肥料ヲ施シ之ニ早播苗ヲ移植シタル場合ニハ普通作ニ比シテ幾何ノ增收アルヤヲ知ランカ爲左記方法ニヨリ試驗セリ
 苗代一坪當肥料用量ハ (イ) 多肥深耕早播區ノ肥料ハ苗代播種期對本田多肥料試驗ニ同シ (ロ) 標準區ノ肥料ハ當場普通法ニ供ル
 本田一反步當肥料用量ハ (イ) 多肥深耕早播區、堆肥五〇〇貫、磷安一〇貫、豆粕一〇貫、強磷七貫、蛹粕七貫、灰類三〇貫、骨粉五貫、硫加四貫、石灰三〇貫、所含三要素量窒素五、六貫、磷酸七、一貫、加里七、五貫ニシテ灰類ハ成ル可ク黒灰トシテ施シ時期ハ石灰ト同時若クハ插秧前ナリ (ロ) 標準區、當場普通肥料ヲ使

用ス

耕鋤ノ深サ (イ) 多肥深耕早播區、七寸 (ロ) 標準區、當場普通法

試驗區別	苗代		本		出穂成熟	稈長	反當玄米收量	
	播種期	坪當播種量	畦幅	株間株數			本數	十三年正平均
多肥深耕早播區	五月十日	一、八	一尺	四寸三分九厘	八四株	一本	九月九日	二、二四〇
標準區	五月十日	一、五	一尺	八寸五分七厘	四二株	五本	九月五日	二、一七〇

備考 供試品種其他ハ凡テ苗代播種期對本田多肥料試驗ニ準ス
 前表ノ成績ニ依レハ兩區共收量ハ略大差無キモノ、如シ尙試驗ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

一三、水稻分蘖數及伸長程度調査

水稻ノ插秧期ヨリ開花期ニ至ル分蘖ノ状態ヲ調査センカ爲前年度ヨリ引續キ大森早生、改良愛國一四號、愛國六號、關取金八號ノ四品種ヲ使用シ一品種十二株宛ニ對シテ毎日草丈及莖數ノ平均ヲ調査シタルニ前年度ト略同様ノ結果ヲ得タリ

一四、分蘖力試驗

水稻ノ早中晩及品種ニヨリ分蘖力ヲ異ニスルカ故ニ之ヲ試驗シテ適當ニ一株當植付本數ヲ決定スルト共ニ豐凶考照試驗ノ參考ニ資センカ爲左記品種ニ就キ插秧法ハ一坪四二株一本植トナシ、毎月五日、二十五日、十五日ノ三回、草丈及分蘖數ヲ各品種三株宛調査セリ

關取	須賀一本	羽田糯	黒澤稻	改良は號	鈴木稻	大槻早生選一
幾早一二	幾早二一	幾早一八一	幾早一九六	國富愛國玉錦	大森早生	信州早生
幾早一二	幾早二一	幾早一八一	幾早一九六	國富愛國玉錦	大森早生	信州早生

一五、多肥料對插秧法試驗

多肥料ヲ施シタル場合如何ナル插秧法カ最モ有利ナルヤヲ知ランカ爲肥料反當堆肥三〇〇貫、石灰三〇貫、下肥二六貫、大豆粕一四貫、硫安三、五貫、蒸骨粉七貫、硫加三貫、強磷酸一八貫、木灰一五貫、蛹粕一〇貫、所含三要素量窒素四、七貫、強磷酸六、九貫、加里四、四貫ヲ施シ左記九區ニ就キ試驗セリ

試驗區別	畦	幅	株間	株數	本數	反當收量		
						大正十三年	前四ヶ年平均	平均
標準區	一	八寸五分七厘	四	二株	五本	二七.七	二七.九	三〇.三
普通區	同	同	同	同	五本	二七.六	二七.七	二九.二
寄株區	同	同	同	同	二本宛二株寄	二九.四〇	二九.九	二九.七
二本區	同	同	同	同	二本宛	二九.〇〇	二九.九	二九.八
作條區	一尺二寸	六寸	六	〇株	二本宛作條	二九.〇〇	二九.九	二九.三
八十株區	一尺二寸	四寸五分	八	〇株	一本	二九.〇〇	二九.九	二九.三
百廿株區	同	三寸	一	二〇株	一本	二九.〇〇	二九.九	二九.三
三十六株區	一尺二寸	九寸五分七厘	四	二株	二本宛二株寄	二九.〇〇	二九.九	二九.三
寄株區	一尺三寸五分	八寸五分七厘	四	二株	二本宛二株寄	二九.〇〇	二九.九	二九.三

一六、多肥料對耕鋤深淺試驗

供試品種ハ愛國六號ニシテ前表ニヨレハ標準區最モ優レルカ如シ、尙試驗ヲ繼續ニシテ其ノ結果ヲ究ムヘシ
多肥料ヲ施シタル場合耕鋤ノ深淺ハ稻作ニ對シ如何ナル關係アルヤヲ知ランカ爲普通肥料ノ約五割増量即チ堆肥四五〇貫、大豆粕二貫、下肥二七貫、強過磷酸七貫、石灰三〇貫、所含三要素量窒素三、九貫、強磷酸三、〇貫、加里二、三貫ヲ施シ試驗セリ

試驗區別	反當玄米收量			裏作大麥收量			裏作小麥收量		
	大正十三年	前七ヶ年平均	平均	大正十三年	前三ヶ年平均	平均	大正十三年	前三ヶ年平均	平均
四寸區	二二.七	二二.七	二二.七	四.〇	三.〇	三.三	一.二	一.四	一.五
七寸區	二二.〇	二二.三	二二.一	三.〇〇〇	三.一八七	三.一四五	一.一	一.二	一.三
一尺區	二二.〇	二二.三	二二.一	三.八六六	三.三七八	三.五〇七	一.四	一.五	一.六

前表ニ據レハ四寸區ニ比シ七寸區ハ玄米六升八合大麥一斗二升九合小麥二斗八升八合一尺區ハ玄米一斗二升七合大麥一斗七升一合小麥七升一合ノ增收ナリ

一七、肥料用量對耕鋤深淺試驗

耕鋤ノ深淺並ニ之ニ伴フ肥料用量ノ多少カ水稻作ニ及ホス影響ヲ知ランカ爲左記方法ニ依リ耕鋤ノ深サヲ增加スルニ伴ヒ漸次肥料用量ヲ増加シテ試驗セリ
反當肥料用量 (イ) 四寸區、堆肥三〇〇貫、豆粕一四貫、強磷酸七貫、下肥三六貫、硫加一貫、所含三要素量窒素二、九貫、強磷酸二、三貫、加里二、二貫 (ロ) 七寸區、堆肥四〇〇貫、下肥七〇貫、豆粕一四貫、蛹粕一〇貫、強過磷酸二〇貫、硫加三貫、所含三要素量窒素四、二貫、強磷酸四、七貫、加里四、二貫、(ハ) 一尺區、堆肥五〇〇貫、下肥一〇〇貫、豆粕一四貫、蛹粕一〇貫、強過磷酸二五貫、硫加七貫、所含三要素量窒素六、四貫、強磷酸七、一貫、加里五、八貫

試驗區別	出穂	成熟	稈長	反當玄米收量			玄米一升重		
				大正十三年	前二ヶ年平均	平均	大正十二年	大正十三年	平均
四寸區	八、二四	二、一	三、四	二二.七	二二.七	二九.〇	一、五八七	三、五	
七寸區	八、二四	二、一	三、四	二二.〇	二二.三	二九.〇	一、六六七	三、五	
一尺區	八、二四	二、一	三、四	二二.〇	二二.三	二九.〇	一、六六七	三、五	

前表ニ據レハ四寸區ニ比シ七寸區ハ玄米四升八合小麥八升大麥四斗七升六合、一尺區ハ玄米四斗二升八合大麥三斗一升六合ヲ増シ小麥一斗三升四合ヲ減セリ

一八、石灰施用量試驗

明治三十九年以來ノ繼續ニシテ當場普通肥料中大豆粕ノ一部分及人糞尿ニ代フルニ石灰ヲ施用スルノ得失並ニ跡作ニ及ホス影響ヲ知ラムトスルモノニシテ普通肥料區(堆肥三〇〇貫、大豆粕一四貫、人糞尿一八貫、強過磷酸五貫)基肥區(堆肥三〇〇貫、大豆粕七貫、強過磷酸五貫)及基肥ニ石灰二十五貫、五十貫、七十五貫、百貫加用ノ六區ニ就キ試驗セリ其成績左ノ如シ

區別	玄米收量		大麥收量		小麥收量	
	平均	前六ヶ年	平均	前六ヶ年	平均	前七ヶ年
普通肥料	二、七〇〇	二、六〇九	二、六七〇	三、一〇五	一、三〇五	一、六八二
基肥ニ石灰二〇貫加用	二、八四〇	二、五三三	二、五八六	三、一〇七	一、四九〇	一、五三七
基肥ニ石灰五〇貫加用	二、六八〇	二、五三四	二、五三〇	三、〇〇六	一、五九二	一、五二六
基肥ニ石灰七五貫加用	二、七〇〇	二、五九四	二、六〇〇	三、一〇六	一、六〇〇	一、八七五
基肥ニ石灰一〇〇貫加用	二、七〇〇	二、六〇七	二、七〇〇	三、一〇六	一、七〇〇	一、八七五
平均	二、七〇〇	二、六〇九	二、六七〇	三、一〇五	一、三〇五	一、六八二

前表ニ據レハ石灰ヲ連用スルモ敢テ地力ニ消耗ヲ來サ、ルノミナラス反テ増收セシヲ見ル即普通肥料區ニ比シ石灰百貫加用區ハ玄米一斗五升七合大麥六斗二合小麥二斗八升二合ヲ増セリ、故ニ基肥トシテ堆肥三百貫内外ヲ施用スル場合ニ相當量ノ石灰ヲ施用スレハ極メニ有効ナルカ如シ

一九、促肥素肥効試驗(附グアノ肥効試驗)

促肥素ノ肥効ノ有無及多少並ニグアノ、肥効ヲ査定センカ爲左記四區ニ就キ施行セリ

イ、標準區 反當施肥量、堆肥三〇〇貫、人糞尿一八貫、大豆粕一四貫、過磷酸石灰一〇貫、硫酸加里三貫、所含三要素量窒素二、八貫、磷酸二、七貫、加里三、〇貫トス

ロ、促肥素區 標準區ノ肥料ニ對シ促肥素ヲ反當二升加用スルモノニシテ植代ノ時撒布セリ、ハ、磷酸少肥促肥素加用區、標準區ノ肥料中過磷酸石灰七貫ヲ減少シ外ニ促肥素反當二升加用セリ、ニ、グアノ區、反當施肥量堆肥三〇〇貫、人糞尿一八貫、大豆粕一三貫、硫酸三貫、グアノ一〇貫、所含三要素量窒素二、九貫、磷酸二、二貫、加里三、五貫ナリ

試驗區別	出穂	成熟	稈長	反當收量			一升重量
				前年	平均	大正十三年	
標準區	八、二四	二、一三	三、三〇	二、五八〇	二、三三四	二、六〇七	三七四
促肥素區	八、二五	二、一三	三、三五	二、五八〇	二、五四八	二、五五〇	三七〇
磷酸少肥促肥素加用區	八、二五	二、一三	三、七〇	二、七六〇	二、五八九	二、六八五	三七〇
グアノ區	八、二五	二、一三	三、五〇	二、二六〇	二、五九八	二、八九	三七〇

前表ニケ年平均ノ試驗成績ニ依レハ、グアノ區最モ優位ヲ示メ磷酸少肥促肥素加用區之ニ亞ケリ、尙試驗ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

二〇、稻作追肥試驗

肥料ハ準備苦クハ價格ノ關係或ハ他肥料トノ混合ヲ避ケル必要上元肥ニ施用シ得ラレサル場合アリ、此際速効肥ノ一部ヲ追肥トシ其効果ニ幾何ノ差異アルヤヲ驗セントス

試驗區別

反當施肥標準 各要素共二貫五百匁宛ニシテ其施肥方法次ノ如シ

イ、標準區 堆肥二〇〇貫、豆粕一四貫、硫酸五貫、過磷酸一〇貫、硫酸三貫五百匁ヲ全部元肥トス、

ロ、追肥區 堆肥二〇貫、豆粕一四貫、硫安一貫、過磷酸三貫、硫加一貫ヲ元肥トシ、硫安四貫、過磷酸七貫、硫加二貫五百匁ヲ全部混合撒布シ其時期ハ七月二十日トス

試驗區別	出穂	成	熟	稈	長	反當收量	一升重量
標準區	八、三	八、三	二、五	三、五	二、四〇七	二、四〇三	三、六〇
追肥區	八、三	八、三	二、五	三、五	二、四〇三	二、四〇三	三、六〇

前表ハ一ヶ年ノ成績ニ過サレハ未タ確定スル能ハサルモ標準區追肥區何レモ其成育狀況並收量ニ於テ大差ナキカ如シ尙試驗ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

二二、畜力除草機使用試驗

農商務省ヨリ水稻ノ生産費就中勞力ノ低減ヲ計ランカ爲岡山縣立農事試驗場ノ考案ニ係ル畜力利用水田除草機ノ貸與ヲ受ケタルニヨリ之カ効果ヲ檢シ併テ各種除草方法ノ比較ヲ行ハントス

區別	耕種梗			概		除草回数及時期			
	畦幅	株間	本數	反別	第一回 (七月十七日)	第二回 (七月廿三日)	第三回 (七月卅一日)	第四回 (八月六日)	
畜力除草機使用區	一尺四寸	八寸五分七厘	五本	三畝	機械ヲ用ヒ東西畦ヲ取ル	同	同	同	
人力除草機使用區	一尺一寸	八寸五分七厘	五本	一畝	大野式除草機ヲ用ヒ東西南北畦ヲ取ル	同	同	同	
人力除草區(在來法)	一尺	八寸五分七厘	五本	一畝	蟹爪打チナス	蟹爪打直シ	手取	手取	

試驗成績

區別	反當勞力				工程 (一日十時間)				收量
	一回	二回	三回	四回合計	一回	二回	三回	四回平均	
畜力除草機	牛一頭三十分	牛一頭三十分	五時三十分	五時三十分	男一人約	男一人約	男一人約	男一人約	二、九〇
人力除草機	男一人三十分	男一人三十分	四時三十分	四時三十分	男一人約	男一人約	男一人約	男一人約	三、〇〇
人力除草區(在來法)	五時	五時	五時	五時	男一人約	男一人約	男一人約	男一人約	三、一〇

前表ノ成績ハ試驗年數僅カ一ヶ年ニ過サレハ未タ確定スル能ハサルモ畜力除草機ハ工程大ニシテ勞力ヲ節減シ得ルノミナラズ收量ニ影響ヲ及ボサ、ルニヨリ耕地面積ノ大ナル所ニテ鮮牛ヲ使用セル地方ニ於テ之ヲ使用セハ頗ル有利ナルカ如シ尙試驗ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

二二、波狀栽培法試驗

熱期品質等略相等シク草丈異ルニ品種ヲ二畦毎ニ交互ニ栽培シタル場合ト各品種ヲ夫々能粹ニ栽培シタル場合トノ生産力ノ相違ヲ檢セントス

試驗區別	反當收量	玄米一升重量
一、波狀栽培區 (選一及關取ヲ二畦宛交互ニ栽培セルモノ)	三、〇六〇	三、八〇
二、標準區 (選一二七號ヲ栽培セルモノ)	二、九八〇	三、七六
三、標準區 (關取金八號ヲ栽培セルモノ)	二、六五〇	三、八三

前表ハ未タ一ヶ年ノ試驗成績ニ過サレハ確定シ難ケレトモ波狀栽培區ハ標準區ノ關取金八號種ニ比シ四斗一升、選一、二七號種ニ比シ八升兩種ノ平均ニ比シテ二斗四升五合ノ增收ヲ示セリ

二、三、裏作對多收法試驗

稻作ヲ行フニ當リ如何ナル裏作ヲ爲シタル場合最モ多收ナルヤヲ知ランカ爲左記三區ニ就キ試驗セリ
 肥料ハ反當堆肥三〇〇貫、石灰二〇貫、木灰一〇貫、下肥一八貫、蛹粕一〇貫、豆粕一五貫、蒸骨粉一〇貫
 強過磷酸一五貫、硫酸加里五貫、硫酸二貫ニシテ所含三要素量ハ窒素四貫六百多、磷酸六貫九百多、加里四
 貫八百多ナリ

試驗區別	試驗方法	反當玄米收量			裏作大麥收量		
		十三年正平均	前四年平均	平均	十三年正平均	前四年平均	平均
休閑區	耕鋤ハ夏冬共寸トシ冬作ハ休閑ス	三、四九六	三、三三三	三、三三三			
大麥畦立播區	秋麥播前二尺置ニ幅及深一尺方南向北ノ溝ヲ作 稻藁及石灰ヲ鋤込ミ稻ニ利用セシム、麥ハ幅 三尺南北高畦ヲ作リ其上ニ二條播トス、夏作ノ 耕起ハ深サ二尺トス	三、二七九	三、〇三三	三、一〇三	四、一三三	三、五九五	三、五四五
普通作區	夏冬作共普通法	三、一〇〇	二、七六二	二、八六八	三、三七一	三、一三三	三、一八九

第一、陸 稻

一、耕種梗概

特殊ノ試驗ヲ除キ總テ次ノ耕種法ニ據リ栽培セリ、○畦幅、二尺、○選種、粳一、〇八、糯一、〇五ノ比重液
 ヲ以テ比重選ヲ行フ、○播種量、一反步三升乃至三升五合トス、○播種期、五月下旬、○除草及中耕、第一
 回六月中旬、第二回七月上旬、第三回七月下旬、○肥料、反當施用量ハ堆肥二〇〇貫、豆粕四貫、磷安五貫
 下肥五四貫、所含三要素量ハ窒素二、二貫、磷酸一、五貫、加里一、三貫ニシテ下肥ハ全量ヲ二分シ六月下旬

七月中旬ノ二回ニ追肥シ其他ノ肥料ハ全部元肥トス

二、品種豫備試驗

各品種ヲ豫メ栽培シ以テ優良ナル品種ノ選擇ヲ容易ナラシメンカ爲左記二八品種ニ就キ試驗セリ其成績左ノ
 如シ

品種出名	穗	成熟	稈長	芒長	反當收量			重量
					大正十三年平均	前年平均	最近三年平均	
黑大郎	八、三〇	一〇、三三	三、七	九寸	〇、七九	三	一、二七	三、七
丙早生	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
保村早生	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
北海糯	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
尾內糯	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
白芒愛國	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
大邱稻	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
後性藤藏糯	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
陸羽九號	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
同三三號	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
陸羽七號	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
凱旋糯(茨城)	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
大畝糯(山口)	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
戰捷(埼玉)	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
陸羽一五號	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇
同 一八號	八、三〇	一〇、三三	三、三	八寸	〇、三九	三	一、一五	三、八〇

四、純系淘汰試驗

縣内外ヨリ蒐集セル品種中品種試驗ノ結果有望ト認タルモノニ就キ純系淘汰試驗ヲ施行セリ

1、山ノ井 純系第四年

供試品種ハ一號、三號、一〇號、一七號、一八號、一九號、二一號、在來ノ七系統ナリ
試驗成績ニケ年ノ平均ニ依レハ一九號最優秀ニシテ反當收量一石九斗一合ヲ示シ成績最モ不良ナル一號ノ反當收量一石七斗四升五合ニ比シ一斗五升六合ヲ増セリ據テ來年度ニ在リテハ本試驗ノ成績ニ依リ一號、一七號、一九號、二一號、在來ノ五系統ヲ取り繼續試驗ヲ行ハントス

2、尾 張 純系第五年

供試品種ハ三八號、七四號、七九號、三六號、在來ノ五系統ナリ、試驗成績ニケ年ノ平均ニ據レハ七九號最優秀ニシテ反當收量二石二斗八升三合ニ達シ在來種ノ反當收量一石八斗五升六合ニ比シ四斗二升七合ヲ増セリ

3、滿鮮種 純系淘汰第二年

供試品種ハ昨年度栽培植株數千五百株中ヨリ選抜セル、一號乃至三三號及在來種ノ三四系統ニシテ本年度ニ在リテハ比較調査ノ結果純系九號、一一號、一五號、一六號、一七號、一九號、二〇號、二四號、二二號、三〇號、三三號及在來ノ一二系統ヲ選抜シ來年度以降收量比較試驗ヲ施行シテ之カ適否ヲ檢セントス

五、多收穫栽培試驗

陸稻ノ多收ヲ圖ランカ爲左記方法ニ依リ試驗セリ (イ)標準區ノ耕種法ハ凡テ當場普通法ニ依ル (ロ)多收穫栽培區、耕鋤ノ深サハ七寸トシ、肥料ハ反當堆肥三〇〇貫、下肥五〇貫、蛹粕五貫、豆粕五貫、木灰一〇貫、強燐五貫、硫加四貫、燐安一〇貫、所含三要素量ハ窒素三、七貫、磷酸四、一貫、加里四、一貫ニシテ下肥ハ全量ヲ二分シ六月下旬及七月中旬ノ二回ニ追肥ス其他ハ凡テ當場普通法ニ依ル

試驗區別	出 穂 成 熟	反 當 玄 米 收 量			一 升 重 量
		大正十三年	前二ケ年平均	平均	
標 準 區	八、八 _日 八、八 _日	一、七九六 _日	一、三三六 _日	一、四八九 _日	三六四 _日
多 收 裁 培 區	八、八 _日 八、八 _日	一、五五六 _日	一、六七二 _日	一、六七二 _日	三六四 _日

本試驗ノ成績ニ依レハ多收穫栽培區ハ標準區ニ比シ一斗八升二合ノ增收ヲ示セリ

第三、大 豆

一、耕種梗概

特種ノ試驗ヲ除キ總テ次ノ耕種ニ據リ栽培セリ、
○整地、播種前土地ヲ丁寧ニ耕鋤シ充分乾燥スルヲ待チテ土塊ヲ碎キ地均ヲナス、間作ニアリテハ作條ニ倣ヒ同一方向ニ畦ヲ立テ播種スルモノトス、
○畦幅、二尺、
○選種、平盆選ニ依リ粒形整正ナルモノヲ選ヒ取ル、
○肥料、肥沃地ニアリテハ反當木灰一五貫、過磷酸七貫、硝膏地ニアリテハ腐熟堆肥一〇〇貫、木灰一〇貫、過磷酸四貫ヲ用ユ、但シ元肥トナシ追肥ヲ施サス、
○播種量、反當二升乃至三升、
○播種期、休耕地ハ五月中旬、麥作間ハ五月下旬トス、
○播種法、播條ヲ作リ元肥ヲ施シ土ヲ混シ播種ス、小粒ハ三寸、中粒ハ五寸、大粒ハ七寸ノ距離ニ二列互ノ目一粒播トス、
○中耕及除草、第一回六月中旬(中耕及除草)第二回七月上旬(中耕及除草)第三回七月下旬(除草)第四回八月中旬(除草)

二、品種試驗

前年來ノ繼續ニシテ大豆ノ品種ヲ廣ク蒐メ當地方ノ風土ニ適スル良種ヲ選定セントスルモノニシテ十九品種ニ就キ試驗セリ、其成績左ノ如シ

品種名	成	熟	稈	反當		米		重	一	升	大	粒	小
				前年平均	最近三年平均	最近五年平均	同上收量						
栃木	九、二八	二、九	一、三〇	一、四〇六	一、三二〇	一、四〇二	二	三、四六	大	大	大	大	大
改其	九、二九	二、〇	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	大	大	大	大	大
借金	九、二九	二、〇	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	大	大	大	大	大
鬼	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
地	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
赤	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
鈴	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
白	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
比	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
還	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
白	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	小	小	小	小	小
四	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
白	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
生	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
水	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
上	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
地	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
晚	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中
牛	九、三〇	二、三	一、三〇	一、三九七	一、三三三	一、四〇九	二	三、四六	中	中	中	中	中

備考 本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均年數ヲ示ス、五ヶ年平均ハ最近七ヶ年間ニ於ケル最豊最凶ヲ除キ五ヶ年平均ヲ示セリ、平均收量等級ハ一石五斗以上ヲ一等トシ以下一斗ヲ降ル毎ニ一級ヲ下ク

三、純系淘汰試験

本試験ノ成績ニ依リ熟期收量品質等ヲ綜合シテ優等種ト認ムヘキハ借金なし、鬼裸、白裸、晩越後等ナリ
品種比較試験ノ結果成績最モ良好ト認メタル諸品種ニ就キ純系淘汰試験ヲ施行シ收量及品質共ニ優良ナル系統ヲ撰擇セリ

1、鬼 裸 純系第五年

供試品種ハ二號、七號、八號、一五號、一九號、在來ノ六系統ナリ、試験成績三ヶ年ノ平均ニ依レハ七號最モ優良ニシテ反當收量一石二斗七升七合ニ達シ成績最不良ナル一九號ノ反當收量九斗四升五合ニ比シ三斗三升二合ヲ増セルニ依リ原種トナセリ

2、借金なし 純系第五年

供試品種ハ一號、二號、在來及一五號ノ四系統ニシテ試験成績三ヶ年ノ平均ニ依レハ在來種、最優秀ニシテ反當收量一石四斗六合ニ達シ成績最モ不良ナル一五號ノ反當收量一石八升二合ニ比シ三斗二升四合ヲ増シ品質亦良好ナルヲ以テ今後モ從來ノ如ク在來種ヲ原種トナシ之カ普及ヲ圖ラントス

四、大豆栽培法試験

大豆ノ栽培法ニ關シ主トシテ肥料配合ニヨル効果ヲ驗知センカ爲、標準區無機配合區、有機配合區、堆肥石灰配合區ノ四區ニ分チ試験ヲ行ヒタルニ發芽不良加フルニ鳥蟲害ヲ被リ正確ナル結果ヲ擧クルコトヲ得ス

五、大豆紫斑粒調査

大豆ニ對シ紫斑粒ノ發生スルハ寄生物ノ作用ニ依ル病的現象ト稱セラル、モ、種子ノ紫斑ノ有無ニ依リ其發生狀態ニ果シテ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルヲ知ランカ爲メ、白色ノ種子、幾分紫色ヲ呈セル種子、半紫色ヲ呈セル種子、全部紫色ヲ呈セル種子、ノ四區ニ就キ二ヶ年ニ亘リ其子實ノ斑点發生狀況ヲ檢シタルニ子

實ノ斑点ニ對シ殆ト影響ヲ及ホサ、ルモノノ如シ
六、大豆粒間距離試験
 大豆ノ播種ニ際シ粒間距離ノ長短即チ、反當播種量ノ多少カ其生育狀態並收量ニ及ホス影響ヲ知ランカ爲借
 金なし、鬼裸ノ二品種ニ就キ試験シタルニ發芽不良加フルニ鳥蟲ノ被害ヲ被リ正確ナル結果ヲ擧クルコトヲ
 得ス

第四、麥類

一、耕種梗耕

麥類試験ハ特別ノモノヲ除ク他總テ次ノ耕種法ニ依リ栽培セリ、○整地、大豆跡地ハ十月中旬南北ニ馬耕ヲ
 行ヒ同月下旬馬鍬ニテ土塊ヲ破碎シ播種前畦幅二尺ノ距離ニ東西ニ作條ヲ設ケ水稻裏作地ハ水稻刈取後直チニ
 鋤起シ土塊ヲ粉碎シ畦幅二尺ノ距離ニ作條ヲ設ク、○肥料、甲、大麥及裸麥、反當肥料用量ハ堆肥三〇〇貫
 豆粕六貫、過磷酸石灰五貫、下肥五四貫、所含三要素量ハ窒素二、四貫、磷酸二、七貫、加里二、一貫ナリ、
 乙、小麥、反當肥料用量ハ堆肥二五〇貫、豆粕六貫、強過磷酸五貫、下肥五四貫、所含三要素量ハ窒素二、二
 貫、磷酸二、四貫加里一、八貫ナリ、而シテ甲乙何レノ場合ニモ陸稻跡及水田裏作ニハ大豆粕四貫勿ヲ増施ス
 ルモノトス、○選種、大麥ハ一、二三、小麥及裸麥ハ一、二三ノ比重液ニヨリ比重選ヲ行フ、○病害豫防麥奴
 及斑葉病豫防ノ目的ヲ以テ大麥、小麥、裸麥、共石灰硫黃合劑加用冷水温湯浸法ヲ行フ、○播種量、反當大
 麥四升乃至四升五合、小麥及裸麥三升乃至三升五合、○播種法、特別ノ場合ヲ除ク外ハ條播ヲ行フ、○播種
 期、大麥十一月上旬、小麥及裸麥十月下旬、○追肥第一回十二月乃至一月、第二回二月、○踏付、第一回十
 二月、第二回一月、第三回二月乃至三月、○中耕、第一回十二月、第二回二月、第三回三月下旬、○土入、
 第一回四月上旬、第二回四月中旬、第三回四月下旬、○收穫期、黃熟期ニ刈取ル

二、大麥品種豫備試驗

品種試験ノ結果ヲ正確ニシテ優良品種ノ發見ヲ容易ナラシメンカ爲左記三十七品種ニ就キ試験セリ、其ノ成
 績左ノ如シ

品 種 名	出 穂	成 熟	稈 長	芒 長	反 當		收 量		重 一 升 品 質
					十三年正	前年平均	最近三ヶ年平均	同上前位	
白 麥 一 號	四月五日	六月七日	四〇.三	二.九	三.五五五	三.六三三	三.八七	一.八	上
白 麥 二 號	四月六日	六月八日	三.六	一.五	三.五五五	三.一八四	三.六三	一.八	上
關 取 一 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.五	五.四〇〇	四.七〇	四.七〇	一.三	上
關 取 二 號	四月三日	六月五日	二.九	一.五	五.〇九	四.六三	四.六六	一.四	上
關 取 三 號	四月三日	六月五日	二.九	一.五	五.〇九	四.六三	四.六六	一.四	上
關 取 四 號	四月三日	六月五日	二.九	一.五	五.〇九	四.六三	四.六六	一.四	上
關 取 五 號	四月三日	六月五日	二.九	一.五	五.〇九	四.六三	四.六六	一.四	上
交 野 一 號	四月三日	六月五日	三.七	一.〇	四.六〇	三.三〇	三.六七	一.四	中
交 野 二 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
交 野 三 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
交 野 四 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
交 野 五 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン 一 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン 二 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン 三 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン 四 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
ゴ ー ル デ ン メ ロ ン 五 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
改 良 大 麥 一 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
改 良 大 麥 二 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
改 良 大 麥 三 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
改 良 大 麥 四 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
改 良 大 麥 五 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
關 取 一 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
關 取 二 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中
關 取 三 號	四月三日	六月五日	三.〇	一.八	四.八〇	三.八七	四.一五	一.四	中

畿内	七三號	四、三〇	六、九	三、九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
虎ノ尾	一號	四、二七	六、九	三、六〇	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
關取	一號	四、三三	六、五	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
三德	一號	四、三三	六、五	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
虎ノ尾	一號	四、三三	六、五	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
關取	一號	四、三三	六、五	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
豊年×備前早生	二號	四、三六	六、七	三、八〇	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
竹林×白夢乙	一號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白夢×水晶	八三號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白夢×白夢	一七號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
關取	二六號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
關取	九號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	二四號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	二二號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	二一號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	一三號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	三八號	四、三三	六、七	三、七九	四、〇	三、四五	1	三、一四〇	三、八	中
白シカラ	在來	四、三五	六、九	四、〇	三、二	四、二六	3	四、四一八	四、六	中

備考 ○本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均年數ヲ示ス、○收量順位ハ四石九斗以上ヲ第一位トシ以下一斗ヲ減スル毎ニ一階級ヲ下ク

三、大麥品種試驗

前年來ノ繼續ニシテ内外多數ノ品種ヲ蒐集シ傍ラ純系淘汰並ニ人工交媒ニ依リテ育成シタル新品種ヲ栽培シ其性状品質收量等ノ優劣ヲ比較シ以テ當地方ノ風土ニ適應スル良種ヲ選定センカ爲左記十九品種ニ就キ試驗セリ、其成績左ノ如シ

品種名	出穂	成熟	稈長	芒長	反當收量			重一量升	品質
					十三年正	前年平均	最近三ヶ年平均		
甲州六石	四月二日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	中
牛芒八號	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
備前早生五號	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
白夢六號	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
ゴールテンメロン	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
改其大麥	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
珍林一號	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
竹林四號	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
五畝	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
辨慶	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
彌右衛門	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
白種	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
岡山	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
水尾	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
水尾	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
奥州	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
シユキロト	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	上
シユハリ	四月三日	六月四日	三、八五	一、九	四、〇	6	四、三〇	二、八〇	下

關取田二號	四、二四	六、五	三、全	一、五	五、〇〇	四、三三	四、八八	四、四三	五	二、九	上
白ヨシカラ	四、五	六、九	四、二〇	三、五	四、五〇	四、四三	四、七七	四、四三	五	三、〇	中

備考 ○本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均數年ヲ示ス、○五ヶ年平均ハ最近七ヶ年ニ於テ最豊最凶ヲ除キ五ヶ年ノ平均ヲ示セルモ試驗年數六ヶ年ニ達シタルモノハ最豊最凶ヲ除キタル四ヶ年ノ平均ヲ示セリ、○收量順位ハ四石八斗以上ヲ第一位トシ以下一斗ヲ減メル毎ニ一階級ヲ下ク

本試驗ノ成績ニヨリ品質、收量、稈長、熟期等ヲ綜合シテ優良種ト認ムヘキハ半芒、備前早生、白麥、竹林關取等ナリ、半芒ハ稈長中位早熟ニシテ品質收量共ニ佳良ナリ、備前早生ハ稈稍長ケレトモ品質良好ニシテ收量多シ、白麥ハ收量中位ナレトモ品質良好ニシテ縣下大來中ノ白眉タリ、竹林及關取ハ稈短ク多收穫及跡作ニ便ナリ、故ニ以上ノ五種ヲ原種ト定メタリ、「ゴールデンメロン」ハ收量少ナケレトモ麥酒醸造用トシテ最モ適當ナリ

四、小麥品種豫備試驗

西ヶ原農事試驗場並ニ畿内支場ヨリ送附ノモノ、廣ク他府縣ヨリ蒐集シタルモノ、及當場ニ於テ純系淘汰人工交媒等ニ依リ育成シタル新品種ニ就キ品種豫備試驗ヲ施行シ、以テ品種比較試驗ノ結果ヲ正確ニシ、優良品種ノ發見ヲ容易ナラシメンカ爲左記二十四品種ニ就キ試驗セリ、其成績左ノ如シ

品 種 名	出 穂 成 熟 稈 長 芒 長	反 當 收 量		重 一 量 升 品 質
		大 十 三 年 正 前 年 平 均	最 近 三 ヶ 年 平 均	
穗 揃 幾 一 號	四、二七	一、〇	二、一〇	三、三
穗 揃 幾 二 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
穗 揃 幾 三 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
穗 揃 幾 四 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 四 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 五 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 六 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
白 小 麥 幾 五 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
白 小 麥 幾 六 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 一 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 B	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 B	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 分 系 一 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
福 島 早 生	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
赤 だ る ま 坊 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
白 ホ ロ 崎 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
カ ナ 産 小 麥	五、八	一、一	二、一〇	三、三
白 キ ヲ ス 幾 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
白 キ ヲ ス 幾 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
伊 賀 筑 后 幾 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
伊 賀 筑 后 幾 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
笑 出	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三

品 種 名	出 穂 成 熟 稈 長 芒 長	反 當 收 量		重 一 量 升 品 質
		大 十 三 年 正 前 年 平 均	最 近 三 ヶ 年 平 均	
穗 揃 幾 五 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
穗 揃 幾 六 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 四 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 五 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
畿 内 四 ノ 六 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
白 小 麥 幾 五 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
白 小 麥 幾 六 號	四、二七	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 一 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 B	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 三 號 B	五、一	一、一	二、一〇	三、三
西 ヶ 原 分 系 一 號 A	五、一	一、一	二、一〇	三、三
福 島 早 生	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
赤 だ る ま 坊 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
白 ホ ロ 崎 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
カ ナ 産 小 麥	五、八	一、一	二、一〇	三、三
白 キ ヲ ス 幾 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
白 キ ヲ ス 幾 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
伊 賀 筑 后 幾 一 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
伊 賀 筑 后 幾 二 號	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三
笑 出	四、二〇	一、一	二、一〇	三、三

備考 ○西ヶ原一號Aノ分系ハ發育不良ニシテ尙出穂期遅ク實用ニ適セサルヲ以テ之ヲ廢棄セリ、○本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均年數ヲ示ス、○收量順位ハ二石五斗以上ヲ第一位トシ以下一斗ヲ減スル毎ニ一階級ヲ下ク

五、小麥品種試驗
大麥品種試驗ト同様ナル目的ノ下ニ左記十九品種ニ就キ試驗セリ、其成績左ノ如シ

品種名	出穂	成熟	稈長	芒長	反當收量				重一量升	品質
					十三年正	前年平均	最近三年平均	最近五年平均		
白坊主美四一號	五月五日	六月四日	三、八	二、九	二、六〇	1	二、八〇	二、六八	三、四	中
赤三	五月三日	六月二日	四、〇	二、一	二、五七〇	22	二、九〇	二、四六	三、六	上
赤一五號	四月三日	六月二日	二、九	一、四	二、八〇〇	11	二、三三	二、四六	三、六	中
坊主スネキリ	四月九日	六月二日	三、七〇	一、八	二、九〇〇	5	二、八〇	二、五八	三、七	中
コホ	五月二日	六月二日	四、〇	一、八	二、四〇〇	11	二、六〇	二、五八	三、四	中
細選	五月二日	六月二日	四、二	一、三	二、三〇〇	17	二、五二	二、三九	三、八	上
資選	五月五日	六月二日	四、三	一、三	二、三〇〇	20	二、五七	二、二七	三、六	中
東京坊主	五月一日	六月二日	三、三	一、二	二、六二〇	22	二、六七	二、五八	三、八	中
柳窪	五月三日	六月二日	三、九	一、二	二、七〇〇	16	二、六四	二、四七	三、八	中
三州小島	五月三日	六月二日	四、〇	一、三	二、四〇〇	11	二、五八	二、四七	三、六	中
江島	五月八日	六月二日	三、七	一、九	二、二九〇	20	二、三〇	二、二九	三、六	中
赤だるま	五月二日	六月二日	四、一〇	一、八	二、八〇〇	11	二、七〇	二、八二	三、七	中
赤だるま	四月六日	六月二日	四、二	一、六	二、五〇〇	11	二、五九	二、六七	三、八	中
赤國穂	四月六日	六月二日	四、三	一、六	二、九七〇	11	二、四九	二、四七	三、六	中
改早生	四月三日	六月二日	三、五〇	一、三	二、六〇〇	10	二、三三	二、四〇	三、五	中
赤坊主高三四號	四月三日	六月二日	三、八〇	一、一	二、七〇〇	6	二、七七	二、六九	三、七	上
赤樂關	五月二日	六月二日	三、〇	一、一	二、六〇〇	7	二、六四	二、五八	三、六	中

備考 ○本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均年數ヲ示ス、○五ヶ年平均ハ最近七ヶ年ニ於テ最豊最凶ヲ除キ五ヶ年平均ヲ示セルモ試験年數六ヶ年ニ達シタルモノハ最豊最凶ヲ除キタル四ヶ年平均ヲ示セリ

○收量順位ハ二石八斗以上ヲ第一位トシ以下一斗ヲ減スル毎ニ一階級ヲ下ク

本試験ノ成績ヲ綜合シテ優良種ト認ムヘキハ新田早生、だるま、赤坊主、白坊主及スネキリ等ニシテ原種トナセリ、赤三尺、邑樂關取等ハ普通ノ肥培法エテハ收量多カラサレドモ短稈ニシテ多肥ニ耐ユルヲ以テ多收栽培ニ適シ跡作ヲ爲スニ便ナリ

六、裸麥品種試驗

前年來ノ繼續ニシテ裸麥ノ六品種ニ就キ其性狀、收量、品質等ノ優劣ヲ比較シ以テ優良品種ヲ選定セントス其成績左ノ如シ

品種名	出穂	成熟	稈長	芒長	反當收量				重一量升	品質
					十三年正	前年平均	最近三年平均	最近五年平均		
屋根裸	四月六日	六月六日	三、六	三、〇	三、五〇〇	15	三、〇七	三、三九	三、七	中
小川	四月二日	六月三日	三、三	一、八	三、二七〇	22	三、二七	三、二九	三、七	上
天王寺	四月二日	六月三日	三、三	二、八	三、二七〇	22	三、二七	三、二九	三、七	上
郡益	四月二日	六月三日	三、三	二、八	三、二七〇	22	三、二七	三、二九	三、七	上
薄皮	四月二日	六月三日	三、三	二、七	三、二七〇	22	三、二七	三、二九	三、七	上
豊年	四月二日	六月三日	三、三	一、八	三、二七〇	22	三、二七	三、二九	三、七	上

備考 本表中平均欄ノ肩ニ附セル數字ハ平均年數ヲ示ス

本試験ノ成績ニヨリ收量、品質、熟期、稈長等ヲ綜合シテ優良ト認ムルハ、小川豊年及薄皮ノ三種ナリ、屋

根柢ハ收量多ケレトモ品質良好ナラス、天王寺、郡益ノ二種ハ品質良好ナレトモ稈長クシテ倒伏シ易ケレバ收量少ク跡作ヲ爲スニ不便ナリ

七、燕麥品種見本試驗

燕麥品種選擇ノ參考ニ資センカ爲メ左記九品種ニ就キ試驗セリ、肥料ハ反當堆肥百貫、強過磷酸五貫ヲ元肥トシテ施シ、十二月十日播種シ、三月下旬迄ニ二回ノ中耕及踏壓ヲ行ヘリ、出穂期ハ何レモ六月上旬ニシテ七月中旬ニ刈取ヲ爲ス、其品種名左ノ如シ

- 一、グアーシニヤン、ウキンター
- 二、アメリカン、ビュータイ
- 三、カリホルニヤ
- 四、ダーニツシ、アイランド
- 五、ゴールドデン、コイン
- 六、クライデス、デール
- 七、オレゴン
- 八、ホワイト、チャンピオン
- 九、ビクトリヤ、ブライス

八、純系淘汰試驗

麥類ノ各品種中、收量、品質、熟期、栽培面積等ヲ綜合シテ比較的良好ト認メタルモノニ就キ純系淘汰試驗ヲ施行シテ優良ナル純系ヲ選出セントス

(甲) 純系淘汰收量比較試驗

1、小麥新田早生純系 第五年
供試品種ハ三號、七號、三六號、五七號、六三號、九一號、在來ノ九系統ナリ、試驗成績三ヶ年ノ平均ニ據レハ反當收量最モ多キハ七號ニシテ反當收量二石八斗五升二合ニ達シ成績最モ不良ナル在來種ノ反當收量二石七斗八合ニ比シ一斗四升四合ヲ増セリ

2、小麥坊主スネキリ純系 第五年
供試品種ハ九號、一四號、二〇號、五三號、六〇號、八二號、在來ノ九系統ナリ、試驗成績三ヶ年ノ平均ニ據レハ反當收量最モ多キハ八二號ニシテ反當收量二石八斗三升三合ニ達シ在來種ノ反當收量二石五斗三升ニ

比シ三斗三合ヲ増セリ

(乙) 純系淘汰第一年試驗

農商務省農事試驗場ヨリ配布ヲ受ケタル小麥西ヶ原種ハ稈強剛ニシテ草丈強ク多肥ニ耐ユレトモ、熟期晚キニ過キ跡作ニ不便ナルノミナラス收量多カラサルヲ以テ之ヲ改良センカ爲メ純系淘汰ニ着手シ本年度栽植ノ九百株ニ就キ出穂期、莖數、草丈、穗長、穗重、總重等ノ各項目ヲ調査シ四十四系統ヲ選抜セリ

九、麥豊凶考照試驗

明治三十四年以來引續キ同一ノ土地ニ於テ大麥、小麥及裸麥ノ各三種類宛ヲ毎年同一ノ方法ニヨリ栽培シ以テ其年ノ豊凶ヲ考照シ來レリ、然レトモ之カ供試品種ハ現在一般當業者ノ栽培ニ係ルモノト著シク異ルモノアルニヨリ、大正十二年以降廣ク縣下ニ栽培セラル、大小裸麥各三種類宛ヲ選擇シテ試驗區ノ更新ニ着手セリ、其成績左ノ如シ

(甲) 豊凶考照試驗

生育狀況、十月三十一日播種シ十一月十日發芽セリ各期ニ於ケル調査狀況左ノ如シ

(1) 春分 (三月二十一日調)

	大正十二年		平年		比較	
	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
大麥三種平均	1,000	1,930	1,010	1,460	△	△
小麥三種平均	1,070	2,240	1,090	1,630	△	△
裸麥三種平均	980	1,950	930	1,520	△	△
備考					△印ハ減ヲ示ス	

播種當時ノ氣候適順ニシテ發芽整一ナリ、其後降雨雪極メテ少ク乾燥ニ失シタルモ生育ハ平年ニ比シ稍良好ナリ

(2) 立夏 (五月六日調)

春分以後ハ氣候概ネ適順ニシテ伸長株張共ニ良好ナリ、出穂期ハ大麥裸麥ハ平年ト同様ニシテ、小麥ハ二日早ク作況平年ニ比シ稍良好ナリ

(3) 大暑 (七月廿三日調)

種 類	大正十三年		平 年		比 較	
	收 量	一 升 重 量	收 量	一 升 重 量	收 量	一 升 重 量
大麥三種平均	四、二六	二、六六	三、九二	三、〇〇	三、九二	一、四〇
小麥三種平均	二、四七	三、三六	二、三〇	三、三二	一、三六	五
裸麥三種平均	三、一四	三、六四	二、九七	三、八一	一、六七	一、五

備考 △印ハ減ヲ示ス

麥作期間ヲ通シ氣候概ネ適順ナリシヲ以テ、麥ノ生育稍良好ニシテ平年ニ比シ大麥七分四厘、小麥六分、裸麥五分六厘ヲ増セリ

一〇、大麥勞力節約栽培法試驗 (畑地)

本年度ノ新設ニ係ルモノニシテ大麥ノ栽培ニ當リ成ル可ク人力ニ代フルニ畜力ヲ以テシ可及的牛馬耕ヲ行ヒ之ニ依リ節約シ得タル經費ト收穫高トヲ比較シ以テ其損益ヲ明ニセントス

肥料ノ反當施肥用量ハ堆肥三〇〇貫、豆粕一〇貫、硫加二貫、強過磷酸一〇貫、下肥五四貫ニシテ所含三要素量ハ窒素二、九貫、磷酸二、七貫、加里二、五貫ナリ、下肥ハ三等分シテ元肥及十二月、二月ノ三回ニ分施

セリ、供試品種ハ白麥六號ナリ、本試驗反當收量少キハ氣候濕潤ニ過キ倒伏來セル爲ナリ

試驗區別	畦 幅	畦 向	播種量 (反當)	出 穂	成 熟	稈 長	反當收量	一 升 重 量	備 考
勞力節約栽培區	二、五	南	北	五	升	四、二六	六、九	三、八〇	耕起ヨリ地均ラシ畦立、中耕等出來得ル限リ馬ヲ利用ス
標準區	二、〇	東	西	四	升	四、二五	六、七	三、〇六	耕種法ハ特ニ記載セル事項以外ハ凡テ當場普通法ニヨル

前表ニ據レハ勞力節約栽培區ハ標準區ニ比シ僅々一升八合ノ減收ニ過ス、然ルニ其反當所要勞力ハ標準區ニ比シ約二人ヲ減少シ得ルニヨリ極メテ有利ナルカ如シ、尙試驗ヲ繼續シテ其結果ヲ究ムヘシ

一一、大麥勞力節約栽培法試驗 (水田裏作)

水田裏作ニ際シ如何ナル方法ニ依リ勞力ヲ節約セハ收益最モ大ナルヤヲ知ランカ爲左記四區ニ就キ試驗セリ反當肥料用料ハ畑地大麥勞力節約栽培法試驗ニ同シ

試別區別	整 地	播 種	種 類	管 理
一、間作區	稻ノ刈取前ナルニヨリ整地ハ行ハス淺ク中耕シテ播キ溝ヲ設ク	畦ノ方向、南北、畦幅、二尺株間、七、八寸、播種量、反五升播種期、十一月十三日 播種法、種子ト肥料ト混シタルモノヲ其儘點播シ覆土セス	畦ノ方向、南北、畦幅、二尺播種期、十一月十九日 播種法、元肥ヲ施シタル上ニ直ニ接	刈取後ハ出來ル丈早ク(十二月七日打起シ十二月十五日中耕)作條ノ間ヲ打起シ中耕シテ播條ノ四方ニ土塊ヲ寄セ寒風ヲ防ク、二月廿四日ニ至リ條向ノ土塊ヲ碎キ第一回ト同一ノ方向ニ中耕シテ播條ノ東方ニ土ヲ寄セ三月廿九日ニ至リ終耕ヲ行フ、下肥ハ三分シテ三四ニ施シ其他ハ普通法ニヨル
二、溝播區	稻刈取後播種スヘキ部分ニ作條ヲ待テテ播種ス	畦ノ方向、南北、畦幅、二尺播種期、十一月十九日 播種法、元肥ヲ施シタル上ニ直ニ接	畦ノ方向、南北、畦幅、二尺播種期、十一月十九日 播種法、元肥ヲ施シタル上ニ直ニ接	間作區ニ同シ

三、撒播區
 水稻刈取後幅六尺方向南北
 ノ播キ床ヲ設ク踏切ハ一尺
 トナシ踏切ノ部分ハ刈取後
 直チニ打起シ乾燥セシム
 床幅、六尺、踏切、一尺
 播種期、十一月十九日
 播種法、先ツ肥料ヲ撒布シ次ニ接子
 ナ撒播シ最後ニ踏切ノ土ヲ
 薄ク覆テス
 中耕ハ行ハス
 追肥ハ十二月廿日及二月廿日ノ二回
 ニ行フ、生育ノ狀況ニ應シ適宜鎮壓
 土入等ヲ行フ

四、標準區
 凡テ當場普通法ニ準ス、播種期ハ十一月廿五日トス

未タ一ヶ年ノ試験ニ過サルヲ以テ確タル結果ヲ得サレトモ第二區即チ刈取後播種區ノ如キハ在來法即チ標準
 區ニ比シ劣ラサル成績ヲ得タルヲ以テ、來年度ニ在リテハ更ニ試験區ヲ増加シ、直播ノ有利ナル方法ヲ發見
 シ、以テ勞力ノ節減ヲ圖ラントス

一、大麥中耕法比較試驗

麥作栽培ヲ行フニ當リ中耕法ハ普通法ト畜力法ト何レカ有利ナルヤヲ檢センカ爲左記方法ニヨリ試験セリ
 試驗區別 ○普通中耕區、手鋤ニテ中耕ス、○馬中耕區、適當ナル中耕犁ヲ以テ馬耕セリ

試驗區別	出穗期	成熟期	稈長	芒長	反當收量			一升重量
					大正十三年	前二ヶ年	平均	
普通中耕區	四月二日	六月四日	二、七九	一、七	二、七四	二、七九	二、七〇	三三
馬中耕區	四月三日	六月四日	二、六〇	一、八	二、七九	二、五二	二、四〇	三四

備考 肥料及栽培法ハ當場普通法ニ準ス、供試品種ハ關取出二號ナリ
 前表ニ據レハ普通中耕區ノ方收量多シ、然レトモ之カ成績ヲ綜合的ニ打算スレハ收量ニ於テ馬中耕區ハ手鋤
 中耕區ニ比シ一斗ノ減收ナルモ作業工程ニ於テ馬中耕ハ手鋤中耕ノ約五倍ニ達シ人夫ニ於テ一人以上減ス故
 ニ小農家ノ麥作付反別二三反ニ過スシテ麥價高ク自家勞力ニ餘裕アル場合ニハ、手鋤中耕ニヨリ收量ヲ増加

セシムルヲ可トスレトモ、五六反歩以上麥ノ作付ヲ行フ農家ニアリテハ、高キ勞銀ヲ支拂ヒ中耕ニ日數ヲ要
 スルトキハ、僅少ノ減收ヲ避クルカ爲多數ノ人夫ヲ要シ多數ノ勞銀ヲ支拂フコト、ナリ、却テ收支相償ハサ
 ルコトアルヲ以テ、畜力ヲ利用シ餘力ヲ他ノ作業ニ融通スルヲ可トス

一、大麥多收栽培法試驗

多肥料ヲ施シ土入ヲ適當ニ行ヒタル場合幅廣播法ト普通法トハ何レカ有利ナルヤヲ知ランカ爲メ左記方法ニ
 ヨリ試験セリ

(イ) 幅廣播區 ○畦幅、三尺 ○播幅、一尺二寸 ○畦ノ方向、南北 ○播種量、三升 ○播種法、肥
 料ヲ施シ間土シタル上ニ撒播ス播キ溝ノ深サハ約二寸トス ○肥料、反當施用量ハ堆肥四〇〇貫、下肥一二
 貫、木灰二〇貫、餅粕五貫、大豆粕一〇粕、蛹粕五貫、強磷一五貫ニシテ所含三要素ハ量窒素四、八貫、磷
 酸六、〇貫、加里四、六貫ナリ、下肥ハ元肥五〇貫十二月月中旬四〇貫、三月上旬三〇貫ノ三回ニ分施シ、蛹粕
 ハ二月中旬ニ追肥トシテ施シ他ハ全部元肥トス ○土入及鎮壓ハ略左記ノ順序ニ依リ行フ

回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	合計
時期	十一月中旬	十二月中旬	二月中旬	三月上旬	三月下旬	四月上旬	四月下旬	
土入ノ厚サ	三分	四分	七分	一寸	一寸	一寸	一寸	
鎮壓	行フ	行フ	行フ	踏分ヲ爲ス				
備考	追肥第一回	追肥第二回	追肥第三回					

(ロ) 標準區、○畦幅、二尺 ○畦ノ方向、東西 ○播種量、反三升 ○播種法、當場普通法ニ據ル ○肥
 料、施用量ハ幅廣播區ト同様ニシテ施用法ハ下肥ヲ除キ全部元肥トシ木灰ハ播種後撒布ス、種子ハ肥料ニ直
 接セサル様間土ヲナス、下肥ハ之ヲ三分シテ元肥三〇貫、十二月四五貫、二月四五貫ニ分施ス ○管理、中

耕ハ、第一回十一月月中旬日蔭、第二回十二月中旬日向、第三回一月中旬日向、第四回三月中旬日蔭ノ四回ニ行フ、土人ハ常場普通法ニ據リ生育狀況ニ應シ適宜施行ス、鎮壓ハ生育狀況ニ應シ適宜施行ス

試験區別	出穂期	成熟期	稈	長芒	長	容	反	當	收	量
幅廣播區	四月四日	六月六日	三、四五	一、五	三、六	三、四	三、六	一、七	一、〇	二、九
標準區	四月三日	六月五日	三、二三	一、九	三、四	三、五	一、〇	一、六	一、〇	二、九

備考 供試品種ハ關取田二號ニシテ名區共十月廿九日播種セリ

前表ニ據レハ兩區共氣候ノ關係上徒長ヲ來シ倒伏シタルヲ以テ何レモ收量少シ然レトモ幅廣播區ハ標準區ニ比シ容量ニ於テ一斗七升一合、重量ニ於テ三貫四百匁ノ增收ナリ、尙試験ヲ繼續シテ結果ヲ究ムヘシ

一四、大小麥乾燥調製對貯藏法試驗

大小麥ノ刈取調製ニ際シ、其乾燥法ノ良否カ、貯藏中ノ變化ニ對シテ及ホス影響ノ如何ヲ知ランカ爲メ、大小麥共各九區ニ分チ、供試材料ハ一區當リ刈取時ノ總重量、藁付ノ儘ニテ各十貫匁宛ヲ取り、之ヲ試驗シタルニ其成績左ノ如シ

イ、大麥之部

試験區別	容量	重量	重一	同		貯	後	調	査
				容	重				
一、直拔	席干無シ	二、二八	三、二〇	二、五	三、八	最	下	正味二八	蟲
	同一日	一、〇四	二、八〇	二、六	二、二	下	下	一、〇	害
	同三日	〇、九三	二、六〇	二、四	二、八	中	下	三、〇〇	多

ロ、小麥之部

試験區別	容量	重量	重一	同		貯	後	調	査
				容	重				
二、地干三日	席干無シ	二、一一	三、一〇	二、六	二、七	二、四	下	三、〇〇	多
	同一日	一、〇一	二、九〇	二、六	二、九	上	上	三、一〇	極
	同三日	〇、九二	二、八〇	二、五	二、九	中	上	三、〇〇	少
三、架干十日	席干無シ	二、〇九	二、九〇	二、八	二、八	二、四	上	三、〇〇	極
	同一日	〇、八九	二、四〇	二、三	二、八	上	上	三、〇〇	極
	同三日	〇、八八	二、三〇	二、二	二、八	上	上	三、〇〇	同

試験區別	容量	重量	重一	同		貯	後	調	査
				容	重				
一、直拔	席干無シ	三、〇六	三、三〇	三、六	三、六	三、六	下	一、四	多
	同一日	〇、八三	三、〇八	三、六	三、〇	三、三	中	一、四	少
	同三日	〇、八二	三、〇〇	三、五	三、〇	三、七	上	一、五	極
二、地干三日	席干無シ	二、八四	三、二〇	三、四	三、四	三、三	下	一、四	多
	同一日	〇、七七	二、九〇	三、三	二、八	三、三	上	一、五	精
	同三日	〇、七六	二、九〇	三、三	二、八	三、三	上	一、五	精
三、架干十日	席干無シ	二、七六	三、一〇	三、〇	三、〇	三、三	下	一、四	多
	同一日	〇、七六	二、九〇	三、三	二、八	三、三	上	一、五	精
	同三日	〇、七六	二、九〇	三、三	二、八	三、三	上	一、五	精

備考 ○供試品種ハ大麥關取田二號、小麥スネキリ一五號ナリ ○刈取月日ハ、大麥五月三十日、小麥六月十九日ニシテ刈取後ハ所定ノ乾燥ヲ終了スルト同時ニ調製ヲ行ヒ直チニ俵装シ倉庫ニ貯藏セリ ○貯藏後ノ調査月日ハ九月廿二日ナリ

前表ニ依レハ容量及重量ノ變化、品質、價格等ヲ綜合シ大麥ニアリテハ地干三日、蔗干三日ヲ可トシ、小麥ニアリテハ直扱蔗干三日ヲ可トス

第五、經營法試驗

畑作物ノ經營ヲ行フニ當リ如何ナル作物ヲ、如何ナル順位ニヨリ作付セハ單位面積ヨリ最モ多額ノ收益ヲ舉ケ得ルヤヲ知ランカ爲前年度ヨリ引續キ左記八區ニ分テ試驗セリ、其成績左ノ如シ

試驗區別	作物名	品種名	播種期	播種量	畦幅株間	收穫期	備考
第一區 (標準區)	大麥	白麥	十一月十日	四、五斗	二尺	六、九日	從來當場ノ專ラ行ヘル普通ノ作付順次ナリ
	陸稻	長柄早生	五月廿五日	三、五斗	同	二〇、三	
第二區 (標準區)	小麥	新田早生	十一月四日	三、〇斗	二尺	六、三日	同右
	大豆	借金なし	六月五日	三、〇斗	二尺	九、七	
第三區	大麥	關取	十一月十日	二、三斗	四尺	六、五日	大麥ト蠶豆トハ一畦毎ニ交互作付ナセリ
	蠶豆	於多福	同二十日	三、五斗	四尺	七、二	
第四區	大麥	關取	十一月十日	三、〇斗	三尺	六、五日	大麥ノ作間ニ胡瓜ト里芋トチ一畝宛交互ニ混植ス
	胡瓜	青大筋成	五月廿五日	三、五斗	三尺	七、二	
第五區	小麥	スネキリ	十一月四日	二、五斗	五尺	六、二日	小麥ト甘藍トハ一畦毎ニ交互作付ナセリ
	甘藍	太白	三月廿一日	四、〇斗	二尺五寸	一〇、二	
第六區	京菜	アメリカン	九月下旬	五、〇斗	一尺	四、一日	
	馬鈴薯	ウオランダ	三月十七日	二、二斗	一尺	六、二	
第七區	陸稻	夜ノ雪糶	五月廿五日	四、〇斗	二尺	九、三日	
	陸稻	夜ノ雪糶	十月二十日	一、〇斗	一尺二粒宛	五、二	
第八區	小麥	新田早生	十一月四日	三、〇斗	二尺	六、三日	玉蜀黍ハ大豆ノ作條間ニ適宜点
	玉蜀黍	八條種	六月五日	〇、一斗	混作トス	九、二	
大豆	借金なし	六月五日	三、〇斗	二尺	九、七		

備考 反當肥料用量及所要勞力ハ前年度ト同様ニシテ耕種方法ハ大略當場普通法ニ依ル
 收量調査

生産物種類	大正十三年度			前年			二ヶ年平均			備考
	收量	單價	金額	收量	金額	收量	金額	金額		
一、大麥	三、六斗	一石一四、五〇	三、六〇〇	三、六斗	三、六〇〇	三、六斗	三、六〇〇	三、六〇〇		
子實	一、〇斗	一〇、〇〇	一、〇〇〇	一、〇斗	一、〇〇〇	一、〇斗	一、〇〇〇	一、〇〇〇		
小計	四、六斗	一四、五〇	四、六〇〇	四、六斗	四、六〇〇	四、六斗	四、六〇〇	四、六〇〇		

一、ザイトウキツケン	第六區			第五區			第四區		
	合	一、馬鈴	二、陸稻	一、小麥	二、甘藷	三、甘藷	一、大麥	二、胡瓜	三、里芋
		小藪	子	子	子	子	子	子	子
一、五〇〇,〇〇〇	一、六〇〇,〇〇〇	二、三〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫	一貫
四、五〇〇,〇〇〇	二、五〇〇,〇〇〇	一、二〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
一、五〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
四、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
ザイトウキツケン	ハ發育不良ニシケン								

一、ザイトウキツケン	第三區			第二區			第一區		
	合	一、大麥	二、蠶豆	一、小麥	二、大豆	合	二、陸稻	子	子
		小藪	子	子	子	子	小藪	子	子
一、五〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一〇貫	一貫	一貫	一貫	一貫
四、五〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
一、五〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
四、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	四、〇〇〇,〇〇〇
ザイトウキツケン	ハ發育不良ニシケン								

蠶豆ハ播種期遅キニ失シ尙肥料不足セル爲成育真シカ

第六區	第七區	第八區
油 菜	大麥 撒播	小麥 撒播
晚生	關取	新田早生
愛國六號	愛國六號	愛國六號
苗床九月中旬 定植十一月十日	十一月十五日	十一月十五日
第一區ニ同シ	第一區ニ同シ	第一區ニ同シ
三六〇〇本 二尺一尺	二五 升	二四 升
第一區ニ同シ	第一區ニ同シ	第一區ニ同シ
六二五 一〇二四	六八 一〇二四	六二五 一〇二四
	大麥ハ畦幅六尺踏切一尺五寸ノ床面ニ播種ス	小麥同右

備考 反當肥料用量及所要勞力ハ前年度ト同様ニシテ耕種方法ハ當塲普通法ニ依ル

收量調査

生産物種類	大正十三年度		前年		二ヶ年平均		備考
	收量	金額	收量	金額	收量	金額	
第一區							
一、大麥	一石一四、三〇〇	一、九七三	一、一五三	一、八四〇	一、二六二	三、九九五	
二、田豆	一石一〇、〇〇〇	一、四七〇	一、〇〇〇	一、三三〇	一、一三〇	三、三六五	
三、水稲	一石一〇、〇〇〇	一、四七〇	一、〇〇〇	一、三三〇	一、一三〇	三、三六五	田豆ハ成育良好ナラス
合 計	三石二四、三〇〇	三、九一三	二、一五三	三、一七〇	二、三九二	一〇、七〇〇	
第二區							
一、紫雲英	一石一〇、〇〇〇	一、四七〇	一、〇〇〇	一、三三〇	一、一三〇	三、三六五	
二、水稲	一石一〇、〇〇〇	一、四七〇	一、〇〇〇	一、三三〇	一、一三〇	三、三六五	
合 計	二石二〇、〇〇〇	二、九四〇	二、〇〇〇	二、六六〇	二、二六〇	六、七三〇	

第七區	第六區	第五區	第四區	第三區
一、大麥	一、油菜	一、甘	一、葱頭	一、小麥
二、水稲	二、水稲	二、水稲	二、水稲	二、豌豆
三、水稲	三、水稲	三、水稲	三、水稲	三、水稲
合 計	合 計	合 計	合 計	合 計
一石一四、三〇〇	一石一四、三〇〇	一石一四、三〇〇	一石一四、三〇〇	一石一四、三〇〇
一、九七三	一、九七三	一、九七三	一、九七三	一、九七三
一、一五三	一、一五三	一、一五三	一、一五三	一、一五三
一、八四〇	一、八四〇	一、八四〇	一、八四〇	一、八四〇
二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二
三、九九五	三、九九五	三、九九五	三、九九五	三、九九五
一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇
一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇
六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇
二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二
一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
三、三六五	三、三六五	三、三六五	三、三六五	三、三六五
一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇
一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇
二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇	二、二六〇
六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇	六、七三〇
二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二	二、三九二
一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇	一、一三〇
三、三六五	三、三六五	三、三六五	三、三六五	三、三六五
一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇	一〇、七〇〇

豌豆ハ播種期遅キニ過キ成育不良ナリ

第八區	第一區		第二區		第三區		第四區	
	一、小麥	二、水稻	合計	合計	合計	合計	合計	合計
子實	一、八四四	一、九四〇	三、七八四	三、七八四	三、七八四	三、七八四	三、七八四	三、七八四
子實計	一石	一石	三石	三石	三石	三石	三石	三石
合計	二、七八四	二、七八四	七、五六八	七、五六八	七、五六八	七、五六八	七、五六八	七、五六八

經濟調查

試驗區別	大正十三年		前年		平均	
	收入之部	收支差引	收入之部	收支差引	收入之部	收支差引
第一區	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九
第二區	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九
第三區	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九
第四區	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九	三、七八四	△ 一〇、九九

第八區	第七區		第六區		第五區		第四區	
	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計
小麥撒播	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
水稻	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合計	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

備考 前表ノ支出ハ種子代肥料代及勞銀代ノミヲ計上シ、土地資本利子、公租公課等ハ計算ニ加ヘス、△印ハ差引損失ヲ示セリ

本試驗ノ成績ニ依レハ本年度ニ在リテ各種作物ヲ通シ最モ收益額多キハ第五區甘藍作ノ反當百貳拾四圓五拾錢ニシテ第四區、第一區、第五區等ノ水稻作之ニ順次シ收益最モ少キ第六區油菜作ノ損失反當壹圓參拾五錢ニ比スレハ收益ノ差ハ百貳拾五圓八拾五錢ニ達セリ、而シテ表裏作ヲ綜合シ收益額ノ最モ多キハ第五區甘藍水稻、ノ反當百拾九圓拾錢ニシテ第四區葱頭、水稻、第七區大麥撒播、水稻、第一區大麥、田豆、水稻、第二區紫雲英、水稻、第八區小麥撒播、水稻、第六區油菜、水稻、等之ニ亞キ最多最少ノ差ハ百參拾圓九拾

放養後十日間ハ給餌セス、其後八月十五日迄ハ飼粕及大豆粕共ニ粉碎シテ與ヘ以後ハ其儘投與ス、投與回数ハ毎日午前中一回トス

收容時ニ於ケル鯉兒ノ發育狀況

試驗區別	胸圍			體長			體重			收容數	收容量	增肉量	一尾ノ增肉量	減耗數	減耗率
	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均						
第一區	三、五	二、七	三、二	五、二	三、九	四、八	二、五	一、九	二、二	二、五〇	二、四四	八、九六	三、三〇	二、七	二、九
第二區	三、六	二、七	三、一	五、三	四、〇	四、七	二、六	一、七	二、二	三、三〇	三、三〇	九、九六	三、三〇	二、二	二、一

收支調査

試驗區別	收入ノ部			支出ノ部			計	差引
	收容數	收容量	同上價格	餌料	種鯉	人夫賃(子供反六人)		
第一區	二畝歩	二、五〇	六、三〇	一、二七	七、五〇	一、〇〇	三、八七	二、四三
第二區	二畝歩	二、五〇	六、三〇	一、二七	七、五〇	一、〇〇	三、八七	二、四三
第一區	一畝歩	一、二五	三、一五	〇、六三	三、七八	〇、五〇	一、九二	一、二五
第二區	一畝歩	一、二五	三、一五	〇、六三	三、七八	〇、五〇	一、九二	一、二五

前表ニ依レハ反當收益第一區拾貳圓七拾四錢、第二區拾參圓四拾錢ニシテ別ニ兩區共人夫賃六圓ヲ收メ加フニ養鯉地ハ無放養地ニ比シ水稻ノ收量多キノミナラス飼養日數ハ僅カニヶ月ニ過サルヲ以テ養鯉事業ハ各種農業中利廻最モ良好ナルモノ、一ニ屬スルコト明ナリ

第一〇、食用蛙飼養

大正十二年度ニ於テ滋賀縣立農事試驗場ヨリ配布ヲ受タル食用蛙ヲ引續キ飼用中ニシテ其後多少散逸シ若シ

クハ斃死シタルモノアレト殘餘ノモノハ何レモ略順調ニ成育シツ、アリ本年一月ヨリ十二月ニ至ル飼育狀況ヲ示セハ左ノ如シ

一、飼養地ノ構造、面積、水深、(イ)構造 水ニ接スル週圍ハ全部石垣ニシテ用水ハ水路ヲ經テ水門ヨリ流入シ排水門ヨリ流出ス、池ノ南方及東方ニハ池ヨリ約六尺ヲ隔テ、事務室及倉庫アリ北及西ハ垣ニ接シ池ノ周圍ニハ櫻松其他ノ大小樹數本アリテ日光ノ池面ニ直射スルヲ防ク、池ノ周圍ハ別ニ高サ六尺ノ竹籬ヲ建テ蛙ノ逸出ヲ防止セリ、(ロ)面積 十三坪、(ハ)水深 最深キ部分ハ滿水時ニ於テ約四尺ナレトモ大部分ハ滿水時ニ於テ約二尺乃至三尺ナリ、水底ハ厚サ約五寸乃至一尺ノ泥土ニテ被ハル

二、飼養匹數 約三〇匹

三、使用水ノ種類 河水

四、毎月々曜日ニ於ケル午前十時ノ池水溫度

月	日	溫度	月	日	溫度	月	日	溫度	月	日	溫度
一	月	三、二	三	月	三、七	五	月	四、二	七	月	四、七
二	月	三、八	四	月	三、八	六	月	四、三	八	月	四、八
三	月	三、八	五	月	三、九	七	月	四、四	九	月	四、九
四	月	三、九	八	月	四、一	一〇	月	四、六	一	月	五、一
五	月	四、一	九	月	四、二	一	月	四、七	二	月	五、二
六	月	四、二	一〇	月	四、三	三	月	四、八	四	月	五、三
七	月	四、三	一	月	四、四	五	月	四、九	五	月	五、四
八	月	四、四	二	月	四、五	六	月	五、〇	六	月	五、五
九	月	四、五	三	月	四、六	七	月	五、一	七	月	五、六
一〇	月	四、六	四	月	四、七	八	月	五、二	八	月	五、七
一一	月	四、七	五	月	四、八	九	月	五、三	九	月	五、八
一二	月	四、八	六	月	四、九	一〇	月	五、四	一〇	月	五、九
一三	月	四、九	七	月	五、〇	一一	月	五、五	一一	月	六、〇
一四	月	五、〇	八	月	五、一	一二	月	五、六	一二	月	六、一
一五	月	五、一	九	月	五、二	一三	月	五、七	一三	月	六、二
一六	月	五、二	一〇	月	五、三	一四	月	五、八	一四	月	六、三
一七	月	五、三	一一	月	五、四	一五	月	五、九	一五	月	六、四
一八	月	五、四	一二	月	五、五	一六	月	六、〇	一六	月	六、五
一九	月	五、五	一三	月	五、六	一七	月	六、一	一七	月	六、六
二〇	月	五、六	一四	月	五、七	一八	月	六、二	一八	月	六、七
二一	月	五、七	一五	月	五、八	一九	月	六、三	一九	月	六、八
二二	月	五、八	一六	月	五、九	二〇	月	六、四	二〇	月	六、九
二三	月	五、九	一七	月	六、〇	二一	月	六、五	二一	月	七、〇
二四	月	六、〇	一八	月	六、一	二二	月	六、六	二二	月	七、一
二五	月	六、一	一九	月	六、二	二三	月	六、七	二三	月	七、二
二六	月	六、二	二〇	月	六、三	二四	月	六、八	二四	月	七、三
二七	月	六、三	二一	月	六、四	二五	月	六、九	二五	月	七、四
二八	月	六、四	二二	月	六、五	二六	月	七、〇	二六	月	七、五
二九	月	六、五	二三	月	六、六	二七	月	七、一	二七	月	七、六
三〇	月	六、六	二四	月	六、七	二八	月	七、二	二八	月	七、七
三一	月	六、七	二五	月	六、八	二九	月	七、三	二九	月	七、八
三二	月	六、八	二六	月	六、九	三〇	月	七、四	三〇	月	七、九
三三	月	六、九	二七	月	七、〇	三一	月	七、五	三一	月	八、〇
三四	月	七、〇	二八	月	七、一	三二	月	七、六	三二	月	八、一
三五	月	七、一	二九	月	七、二	三三	月	七、七	三三	月	八、二
三六	月	七、二	三〇	月	七、三	三四	月	七、八	三四	月	八、三
三七	月	七、三	三一	月	七、四	三五	月	七、九	三五	月	八、四
三八	月	七、四	三二	月	七、五	三六	月	八、〇	三六	月	八、五
三九	月	七、五	三三	月	七、六	三七	月	八、一	三七	月	八、六
四〇	月	七、六	三四	月	七、七	三八	月	八、二	三八	月	八、七
四一	月	七、七	三五	月	七、八	三九	月	八、三	三九	月	八、八
四二	月	七、八	三六	月	七、九	四〇	月	八、四	四〇	月	八、九
四三	月	七、九	三七	月	八、〇	四一	月	八、五	四一	月	九、〇
四四	月	八、〇	三八	月	八、一	四二	月	八、六	四二	月	九、一
四五	月	八、一	三九	月	八、二	四三	月	八、七	四三	月	九、二
四六	月	八、二	四〇	月	八、三	四四	月	八、八	四四	月	九、三
四七	月	八、三	四一	月	八、四	四五	月	八、九	四五	月	九、四
四八	月	八、四	四二	月	八、五	四六	月	九、〇	四六	月	九、五
四九	月	八、五	四三	月	八、六	四七	月	九、一	四七	月	九、六
五〇	月	八、六	四四	月	八、七	四八	月	九、二	四八	月	九、七

五、成長度 體長。最高七、九釐、最低七、六釐、體量。最高四五瓦、最低三九瓦、體長ハ頭部ノ先端ヨリ尻端迄ニシテ前記ノ數字ハ七月廿八日現在ノ調査ニ係ルモノトス

六、成蛙食餌ノ種類及概量 夜間誘蛾燈ヲ点シテ昆蟲ヲ誘致シ別ニ蛆ヲ發生セシメテ蠅ヲ誘引スル爲池ノ周圍處々ニ飼粕魚粕等ヲ放置セリ、尙コガネ蟲及蠶蛾ヲ時々池水面ニ撒布シ與ヘタリ

七、冬眠ヨリ目覺タル日時及水温 四月七日 溫度 一四度

八、冬眠ヲ初メタル日時及水温

十月廿七日

温度

一二、五度

第一一、鮮牛種付

當場ニ於テハ役畜トシテ農馬鮮牛各一頭ヲ飼育シ旁ラ民間ノ希望者ニ對シ鮮牛ノ種付ヲ施行センカ爲大正十二年十二月二十日種牝牛検査ヲ受ケ大正十三年三月十四日以降牝牛五拾壹頭ニ對シテ種付ヲ行ヒ其内不胎數ハ僅ニ九頭ニ過スシテ他ハ全部受胎シ本年内既ニ牝牯二頭ヲ産出セリ

第一二、改良農具

昨年度ニ於テハ三馬力ゼット式石油發動機及一馬力半輕便螺線水車各一臺ヲ購入シテ之カ普及宣傳ニ努メ尙講習講話等ニ依リ各種優良動力機及附屬改良農具ノ普及獎勵ニ努メタリ

本年度ニ於テハ貳千壹百圓ヲ投シテ農具陳列室ヲ新設シ、一馬力半電動機一臺ヲ裝置スルト共ニ「スプライホキール牽曳機壹臺ヲ購入シ、其他各種優良農具ヲ陳列シテ之カ實演貸與等ヲ行ヒ、尙前年度ト同様講習講話其他ノ方法ニ依リ各種優良農具ノ普及ヲ獎勵セリ

第一三、氣象觀測

農作物ト氣候トノ關係調査ノ資ニ供センカ爲メ本場水田貳驗地ノ中央ニ觀測所ヲ設置シ毎日午前十時ニ觀測ヲ行ヘリ、大正十三年氣象觀測概要ハ左ノ如シ

大正十三年度氣象表

月日	旬次	空氣			降雨量	蒸發量	天氣			最多風向	田地中溫度			用水溫度	田水溫度	水深
		最高	最低	平均			晴	曇	雨		一粉	二粉	一尺			
一月	中	五、三	一、三	三、三	—	—	三	—	—	北	—	—	—	—	—	—
	上	三、三	—	—	—	—	—	—	—	北	—	—	—	—	—	—
	下	五、三	—	—	—	—	—	—	—	北	—	—	—	—	—	—

六月	五月				四月				三月				二月					
	平均	下	中	上	平均	下	中	上	平均	下	中	上	平均	下	中	上	平均	下
二〇、六	二二、三	二〇、九	一八、六	一七、八	一八、四	一九、八	一九、〇	一七、八	一六、一	一六、九	一六、六	一四、六	一四、六	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇	一三、〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九、四	八、八	九、六	九、九	九、九	九、四	九、八	九、八	九、六	八、九	八、八	八、八	八、八	八、八	八、八	八、八	八、八	八、八	八、八
三、三	三、九	二、八	三、一	三、一	三、七	四、〇	二、〇	一、九	三、七	四、八	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
三、三	四、二	二、八	三、一	三、一	四、五	四、〇	五、六	三、八	三、七	四、八	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
三	二	—	—	—	六	二	三	—	六	四	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇	五	四	—	—	九	九	四	六	一	六	七	三	三	三	三	三	三	三
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同	同	同	南東	南東	南東	西北	同	南東	南	南東	同	南	同	同	同	同	同	同
二四、二	三、七	二、一	三、七	三、三	三、七	三、一	三、六	三、三	三、〇	三、六	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
一八、三	一八、三	一八、三	一八、一	一八、一	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三	一八、三
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七、四	一八、五	一七、一	一五、八	一五、八	一三、五	一四、〇	一〇、三	一四、七	一二、一	一三、六	一二、六	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二	一〇、二
一五、九	一七、二	一五、三	一五、五	一五、五	一三、九	一四、一	一二、八	一三、七	一一、四	一二、八	一一、六	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九	九、九
一五、八	一八、三	一六、一	一四、八	一四、八	九、〇	一三、〇	一二、九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

供試蔬菜施肥料

作物名	反當肥料		追肥	三要素量		價額
	元	量		窒素	磷酸加里	
馬鈴薯	堆100貫、大15、過3、米5、木30	過4貫、磷2貫、人6貫	2.4	3.8	17.24	
甘藷	堆100、大15、過3、米5、木30	過4貫、磷2貫、人6貫	2.9	3.3	17.04	
里芋	堆100、大15、過3、米5、木30	過5、磷3、人50	3.6	4.0	14.50	
胡蘿蔔	堆100、大15、過3、米5、木30	過5、磷3、人50	4.6	3.3	14.00	
葱頭	堆100、大15、過3、米5、木30	過5、磷3、人50	6.6	3.0	11.00	
葱	堆100、大15、過3、米5、木30	過5、磷3、人50	6.6	3.0	11.00	
甘藍	堆100、大15、過3、米5、木30	過5、磷3、人50	6.5	2.4	10.00	

(一) 馬鈴薯ニ關スル試驗
 (1) 品種試驗 各地ノ品種ヲ蒐集シ特性、收量等ヲ調査比較シ當地ニ適スル良種ヲ選定セントス

品名	形狀	外皮色	大正十三年		前年收量	三ヶ年平均收量	品質
			反當薯收量	反當莖葉量			
アイリローリス	圓扁	淡乳赤	6.6	2.0	5.6	5.4	中
スノーフレキ	長扁	乳白	6.4	2.0	4.5	5.9	上
ホワイトシチ	扁圓	黃白	5.4	2.1	3.6	4.5	中
新種赤目	扁長	白色芽紫	3.2	2.1	5.5	4.7	上
メ	扁長	黃白	2.8	2.1	3.6	3.6	上

相澤	一號	二號	三號	四號	五號	六號	七號	八號	九號	十號
ハルモンド	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
ニユーセン	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
ノザン	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
アメリカン	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
アメリカン	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
アメリカン	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁
ヘルモンド	圓	圓	長	扁	扁	扁	扁	扁	扁	扁

備考 植付三月一日、收穫七月十一日、各種共收量少キハ萎縮病及斑葉病ノ發生甚シキニ依ルセリ
 (2) 栽植時期試驗 植付ノ時期カ收量ニ及ホス影響ヲ知ランカ爲アメリカンウオンドー早生種ニツキ試驗セリ

區別	植付月日	反當		收計		量		最大一個重量
		薯	莖	薯	莖	薯	莖	
一區	二月二十五日植付	3,100	1,600	4,700	876,000	25,000	5.0	
二區	三月六日植付	3,100	1,600	4,700	876,000	25,000	5.0	
三區	三月十六日植付	3,100	1,600	4,700	876,000	25,000	5.0	
四區	三月二十六日植付	3,100	1,600	4,700	876,000	25,000	5.0	
五區	四月五日植付	3,100	1,600	4,700	876,000	25,000	5.0	

右成績ニ依レハ植付早キ程收量増加ノ傾向アルモノ、如シ(大薯ハ七匁以上 小薯ハ七匁未満トス)
 (3) 種薯切斷試驗 種薯ノ大小及切斷カ收量ニ及ホス關係ヲ知ランカ爲アメリカンウオンドー早生種ニヨリ試驗セリ、試驗方法及成績 種薯三十匁ノ二等分反當八百九十八匁一芽切ノモノ、反收七百九十匁ニシテ前者百八匁ノ多收ヲ示セリ尙試驗ヲ繼續シ結果ヲ究メシトス(一芽切ハ種薯三十匁ノモノヲ使

用セリ

(4) 除糞法試験 除糞數ヲ異ニシツノ收量ニ及ホス差異ヲ知ランカタメア、メリカンウオンダー種ニツキ試験ス栽植ハ三月一日、收穫ハ七月十一日トシ七夕以上ヲ大以下ヲ小トシテ調査セリ

試験區別	反當			計	反當	最大個重量
	大	粒	小			
一、除糞ナ行ハス	11000	210,000	6500	76500	110,000	3100
二、除糞ナ行ヒ一本立トス	11000	210,000	11000	500,000	110,000	1100
三、除糞ナ行ヒ二本立トス	17000	340,000	11000	480,000	110,000	1100
四、除糞ナ行ヒ三本立トス	12000	260,000	11000	470,000	110,000	1100
五、除糞苗ヲ植付タルモノ	12000	260,000	11000	470,000	110,000	1100

右成績ニ依レハ除糞苗ヲ使用シタルモ相當收量アルヲ認メタリ依テ種薯繁殖上必要ナリ

(5) 多收法試験 アメリカンウオンダー種ニツキ試験セリ、植付三月一日、收穫七月十一日

試験成績 標準區、反收、八百三十九貫、三段植區反收九百三十貫ニシテ後者七十四貫ノ多收ヲ示セリ然レ共三段植區ニ於テハ肥料及種薯約三倍使用スルヲ以テ經濟的多收法ニハ適セス

(6) 秋薯及春薯收量比較試験

秋種薯及春種薯トニ於テソノ特性、及收量ニ及ホス影響ヲ知ランカタメ、アメリカンウオンダー種ニヨリ試験セリ、

試驗成績 秋種薯使用ハ反收六百八十貫、春種薯使用反收四百七十九貫、ソノ差二百〇一貫ニシテ且ツ前者ハ小粒少ク、粒形均一ニシテ優良ナリ、依テ馬鈴薯春種ニ際シテハ秋取薯ヲ使用スルヲ可トス

(二) 甘藷ニ關スル試験

(1) 品種試驗 各地ノ品種ヲ蒐集シ特性、收量等ヲ調査比較シ當地ニ適スル良種ヲ選定セントス

品種名	形狀	外皮色	大正十三年			品質	品種名	形狀	外皮色	大正十三年		
			個數	重量	莖葉量					前年收量	三年平均收量	個數
太白	長	淡紅	10000	760	570	太赤	短紡錘	帶紅白	10100	660	520	
大正白	短紡錘	帶紅白	9900	570	580	花赤	狀不正瓶	淡紫	12700	780	580	
潮州	稍長	淡紫	9700	850	730	三度	紡錘	乳白	10200	580	550	
四下	短紡錘	帶紅白	13700	890	1060	紅赤	紡錘	紅	10200	580	550	
坂下	短紡錘	淡紅	13700	890	1060	花魁	紡錘	紅	10200	580	550	
東京白	短紡錘	帶紅白	8800	660	520	玉一號	短紡錘	紅	8800	660	520	

花魁埼玉一號ハ苗ノ都合ニ依リ六月廿一日植付他ハ五月十九日植付、十一月十二日收穫

(2) 挿苗程度試驗 挿苗ノ程度カ特性、收量ニ及ホス關係ヲ知ランカタメ紅赤種ニツキ試験セリ

試驗成績 苗三節土中ニ埋メタルモノハ反收六百五貫ニシテ五節ノモノハ九百五貫、尙三ヶ年ノ平均ニ依レハ前者ハ六百四十七貫、後者ハ六百六十三貫ナリ、試驗ノ結果ニ依リ前者ハ後者ニ比シ收量ハ比較的少量ナレ共諸ノ形一般ニ大ナリ

(3) 苗取置試驗 苗取置期間ノ長短ニヨリソノ收量ニ及ホス影響ヲ知ランカタメ紅赤種ニヨリ試験セリ

○挿取タル當日植付 反收六百四十五貫、三ヶ年平均六百七十五貫、○三日間取置後植付 反收六百三十四貫、三ヶ年平均六百六十七貫、○五日間取置後植付 反收六百十貫、三ヶ年平均六百四十六貫 右成績ニ依レバ挿取當日植付ノモノ收量多ク三日間取置ノモノ之レニ次ク然レ共植付當日ノ天候及ソノ年ノ氣候如何ニ依リ一定セサルモノ、如シ

(4) 苗切斷位置試驗 苗切斷ノ位置ニヨリ特性及收量ニ及ホス關係ヲ知ランカタメ紅赤、太白兩種ニツキ

試験ヲ行ヒ試験繼續中ナリ

試験方法ハ採取ノマ、其部五分切除、切苗、基部、中央部、先端部、使用ノ五區トス

(5) 株間廣狹試験 株間ノ廣狹カ收量ニ及ホス影響ヲ知ランカタメ紅赤種ニツキ試験セリ

試験方法及成績 株間ハ六寸、一尺、一尺二寸ノ三區トナシ畦幅ハイスレモ二尺五寸トス、ソノ成績ハ

株間狹キ程收量ハ増加スレ共諸ノ大サハ之レニヨリ株間廣キ程大ナリ、然シテ株間一尺カ收量及諸ノ形

ニ於テ最モ適當ト認メタリ

(6) 植付時期試験 植付ノ早晚カ收量ニ及ホス影響ヲ知ランカタメ紅赤種ニツキ試験セリ

試験方法及成績 植付時期ハ五月十日、五月二十五日、六月九日トナシソノ成績ニヨレバ五月十日植付

收量最モ多ク、六月九日植付收量最モ少シ要スルニ植付時期ハ五月上中旬ヲ最モ適當トス

(7) 追肥試験 甘藷栽培上、基肥ノミノモノト追肥ヲナセルモノトニ於テソノ品質、收量ニ如何ナル差異

アルヤヲ知ランカタメ紅赤種ヲ用ヒテ試験ヲナセリソノ結果ニ依レハ全部基肥トナシタルモノノ收量多キ

ヲ認メタリ、尙試験ヲ繼續シソノ結果ヲ究メントス

(8) 食味試験 肥料ノ種類ニ依リ甘藷ノ食味ニ如何ナル差異アルヤヲ知ランカタメ試験繼續中ナリ

里芋ニ關スル試験

(1) 品種試験

品 種 名	反當 植付量		反當 收量	
	親 芋	子 芋	親 芋	子 芋
唐ノ芋	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
文 語	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
六月芋	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
大阪白	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
三州早生	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
赤 柄	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
土 垂	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇
八ッ頭	四〇〇	四〇〇	七〇〇	七〇〇

前年 平均 收量	賞 質		賞 質		賞 質		賞 質		賞 質	
	親上、子中	親中、子中	親下、子中	親中、子中	親中、子中	親中、子中	親下、子中	親上、子中	親上、子中	
八九三	一〇〇元	九〇元	一〇〇元	九〇元	一〇〇元	九〇元	一〇〇元	九〇元	一〇〇元	

(2) 植付法試験 植付法ヲ異ニスル時ハソノ生育、状態及收量ニ如何ナル差異アルヤヲ知ランカタメ本年

度ヨリ試験ニ着手セリ供試品種ハ、大坂白トス

試験方法 横、立(芽ヲ上ニス)、倒(芽ヲ下ニス)ノ三通ノ植付法トシ試験繼續中ナリ

(四) 胡蘿蔔ニ關スル試験

(1) 肥料試験 肥料カ其ノ收量ニ及ホス關係ヲ知ランカタメ朝日種ニツキ試験セリ

試験方法及成績 標準區、七百二十一貫、加里少量區六百七十貫、加里多量區七百二十貫、石灰加用區

七百六十貫ニシテ石灰加用區收量最モ多ク標準區之レニ次ク、尙試験ヲ繼續シテ結果ヲ究メントス以上

ハ反當ノ收量ヲ示セルモノナリ收穫ハ十二月五日

(2) 栽培法試験 栽培法ヲ異ニスルハ收量ニ如何ナル差異アルヤヲ知ランカタメ朝日種ニツキ試験セリ

試験方法及成績 畦幅二尺、株間四寸區六百六十七貫、畦幅一尺五寸株間四寸區七百七十三貫、畦幅一尺

株間五寸區八百二十一貫ニシテ畦幅一尺株間五十區反收四十八貫ノ增收ニシテ最モ良好ナリ

(五) 葱頭ニ關スル試験

(1) 播種期試験 葱頭播種ノ適期ヲ知ランカタメ、エローグロゴダンバース種ニツキ試験セリ

試験方法及成績 九月二十日播區反收千四百二十五貫、九月二十七日播區千二百八十三貫、十月四日播

區千二百九十九貫ニシテ早播ト晚播ニ於テハソノ差反收百二十六貫ナリ、然レ共播種當日ノ天候及播種

前後ノ土地ノ乾濕等ニヨリ差異ヲ生スルモノハ尙試験ヲ繼續セントス

(2) 肥料試験 葱頭ニ對スル二、三ノ特種肥料ノ肥効ヲ驗知センカタメ試験ヲ開始シ試験繼續中ナリ

(3) 移植試驗 從來氣候ノ寒冷ナル地方ニ於ケル葱頭栽培ハ直播カ球ノ發育良好ニシテ移植ハ之レニ反シ

成績不良ナルカ故ニ常ニ直播法ニ依レルモ晚近之レヲ水田裏作ニ利用スルニ至リタルヲ以テ移植法ニ依レル栽培法ヲ研究セントシ試験ヲ開始シ試験繼續中ナリ

(六) 葱ニ關スル試験 根深葱栽培ニ當リ地下水高キトコロニ於テ往々腐敗シ易キ爲メ之レカ適當ナル栽培方法ヲ驗知センカタメ根深種ニツキ試験セリ

試驗方法及成績 深植區反收八百四十五貫、淺植區七百十三貫ニシテソノ差百十二貫ナレ共淺植區ニナストキハ地下水高キトコロニ於テモ腐敗僅少ナリ

(七) 甘藍ニ關スル試験 (1) 秋植、春植比較試驗 サクセツシヨシ種及中野早生種ニツキ試験セルニソノ成績ニ依レハ秋植ノモノ一般ニ收穫期早ク從ツテ高價ニ販賣シ得殊ニ採種セントスル場合ニ於テハ收穫期早キホト良好ナリ、(2) 肥料試驗、甘藍ニ對スルニ、三ノ肥料ノ効果ヲ驗知センカタメ、サクセツシヨシ種ニツキ試験セリ、試驗方法、標準區、石灰十貫加用區、石灰三十貫加用區、促肥素一貫加用區、加里多量區(硫加五貫加用)ノ五區尙試驗繼續中ナリ

(八) 寒土當歸軟化栽培試驗 十月十六日全都莖ヲ切り取り十月十六日根株ヲ掘り取り之レヲ東西十八尺幅二尺深サ二尺ノ軟化窖ニ株ト株ト密接シテ並へ後土ヲ篩ヒカケ地上一尺位ノ高サニ盛り上ケ藪ヲ覆フ試驗成績、試驗ハ本田一畝歩ニシテ收穫ハ十一月二十八日、十二月二十九日、三月二日、四月十五日ノ四回ニシテ總收量二十九貫ニシテ價格四拾六圓五拾錢ナリ

(九) 薑ニ關スル試験 肥料用量試驗、薑ノ肥料ニ對スル三要素ノ適量ヲ知ラントシ茅根種ニツキ試験セリ

試驗區別	反當三要素量		反當收量	備考
	窒素	磷酸加里		
第一區 標準區	四貫	四貫	四七二貫	〔試驗ニ供用セル肥料種類ハ人糞尿、大豆粕、強過磷酸、木灰、磷酸アムモニア、硫酸加里トス〕
第二區 磷酸多量區	四貫	七貫	四〇四貫	
第三區 加里多量區	四貫	四貫	三九八貫	

試驗區別及成績

以上成績ニ依レハ第二區收量最多ク第三區之レニ次ク尙試驗繼續中ナリ

(二) 隼人瓜ニ關スル試驗 栽培法ヲ研究スルト共ニ特性ヲモ知ラントス、二月四日直徑八寸ノ鉢ニ植付ケ温室内ニ置ク四月二十九日定植ス、肥料ハ一本當リ基肥トシテ堆肥四貫、大豆粕一貫、過磷酸三百匁、木灰五百匁トシ追肥トシ過磷酸二百匁、木灰二百匁、人糞尿六貫匁(三回ニ分施)ヲ使用セリ、定植後ハ炭俵ノ如キモノニテ圍ヲナシ風ノ被害ヲ防キ蔓ノ伸長ニ伴ヒ棚ヲ造リ葡萄セシム

試驗成績 十月十八日ヨリ十一月十三日ニ至ル間風ノ爲七ケ三百九十匁落果セシメソノ成績良好ニシテ十一月十五日ノ收穫ニ於テ個數七百三十個、重量五十四貫八百匁、莖葉量三十四貫ナリ(以上ノ成績ハ三本ノ總計ニシテ内一株ハ前年株ノ越年シタルモノナリ) 參考トシテ最大一個ノ特性ヲ記載ス

重量、百七十二匁、長サ五寸五分、周圍最大部一尺、最小部六寸六分、幅最大部三寸三分、最小二寸五分

第一、果樹

果樹反當施肥量表

肥料各樹類	梨		葡萄		桃		苹果		櫻		柿		洋梨		栗		枇杷	
	一四年	二年	一五年	四年	一五年	四年	一五年	一五年	一五年	四年	一五年	一六年	四年	一四年	一四年	一四年	一四年	
堆肥	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	
大豆粉	75	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

上	海桃	一、四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一七	九、二	九、二	二、九	一、四、一〇	空
銀	密桃	一、四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	八、六	八、二五	六、三	二、五、三、四、五	空
土	密水	一、五、三	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	八、三	八、一八	四、〇	一、八、三、六、七	空
離	密水	一、五、三	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	七、四	八、二	二、七、四	一、八、三、六、七	空
ア	シユン	一、四、〇	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	七、〇	七、二	二、七、四	一、二、〇、〇	空
ア	シユン	一、四、〇	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	七、〇	七、二	二、七、四	一、二、〇、〇	空
ブ	スメ	一、六、六	四、一〇	四、一〇	四、一〇	四、一三	七、〇	七、二	二、七、四	一、二、〇、〇	空

生育調査 (樹幹四年)

品 種 名	樹 幹 ノ	開 花 期			品 種 名	樹 幹 ノ	開 花 期				
		開	盛	落			開	盛	落		
田中早生	四、四	四、九	四、一〇	四、一五	日 月 桃	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
橋 早 生	四、四	四、九	四、一〇	四、一五	大 正 早 生	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
旭 水 密	四、三	四、九	四、一〇	四、一五	大 鳥 早 生	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
東 雲 水 密	四、三	四、九	四、一〇	四、一五	傳 十 郎	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
小 林 水 密	四、三	四、九	四、一〇	四、一五	早 生 水 密	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
深 瀬 早 生	四、三	四、九	四、一〇	四、一五	早 生 傳 十 郎	四、三	四、一〇	四、一五	四、一七	四、一八	四、二〇
カ ー ル マ ン	四、三	四、九	四、一〇	四、一五							

備考 本年ヨリ收穫ヲ始メタリ
 (四) 苹果、明治四十四年左記品種ヲ蒐集シ反當七十五本ニ植付シ整枝法ハ自然形トナシ各品種ノ特性ヲ調査セルモ綿蟲其他病蟲ノ被害アリシ爲品種ニ依リテハ完全ナル調査不可能ナルモノアリ之レカ害蟲驅除ヲ便ニシ且枝梢ニ日光及風通ヲ良好ナラシメンカタメ中央部ノ直立主枝ヲ剪去シ準盃狀形ニ變更セルニ最近ニ至リ各品種トモ完全ナル花芽ノ着生ヲ見ルニ至レリ、然レトモ本年度ハ五月下旬ノ降雹ニテ被害甚大始ン

(五)

ト完全ナル果實ノ收穫ヲ見ルコトヲ得サリキ
 日ノ本、祝、紅紋、紅玉、クーパーズアーリー、紅魁、中畑、國光、小錦、セントローレンス、柳玉
 櫻 桃
 那翁、黃玉、大紫、福壽、珊瑚ノ五品種ヲ明治四十四年反當七十五本ニ植付シ自然形仕立トナシ之カ各品種ノ特性及收量等ヲ調査シツ、アリ、本年度ニ於テ樹幹ノ最モ太キハ黃玉種ノ二尺四寸八分、細キハ那翁ノ一尺二寸ナリ、開花最モ早キハ那翁種及大紫種ノ四月十六日トス之レカ結實ノ有無ハ開花中ノ寒氣又ハ暴風雨等ニ關係アルモノ、如キモ當場ニ於テハ常ニ黃玉種ノ成績優良ナルハ開花遅キカ故ニ寒害ヲ受クルコト少キニ依ルモノ、如シ而シテ本年ハ昨年ニ比シ收穫多カリシモ五月下旬ノ降雹ノタメ被害ヲ受ケシモノアリ、尙大正十一年農商務省園藝試驗場ヨリ寄贈ノ左記品種ヲ改植シ之レカ品種ノ特性及收量等ヲ調査セントス
 チャブマン、ラモンオリバ、エルトン

生育及收穫調査

品 種 名	樹 幹 ノ	開 花 期			收 穫 期		個 數	一 本 平 均 收 量	最 大 一 個 重 量	品 質
		開	盛	落	始 期	終 期				
大 紫	一、六、〇	四、六	四、六	四、一五	六、一	六、一	二、三三	一、八〇	上	
那 翁	一、〇、一	四、六	四、六	四、一五	六、一	六、一	二、三三	一、八〇	上	
黃 玉	二、四、八	四、八	四、八	四、一五	六、一	六、一	二、三三	一、八〇	中	
福 壽	一、五、七	四、〇	四、三	四、一五	六、一	六、一	二、三三	一、八〇	中	

備考 品質昨年ニ比シ劣リシハ降雹及降雨ニ關係セリ
 參考 調査

品種	收穫	月日	上		下		價額		合計	備考
			個數	重量	個數	重量	上	下		
黃玉 樹齡十四年 (一本ニ付)	第一回	五月六日	二三五	九、五〇〇	四二五	一、四八〇	五、七〇〇	七、一八〇	五月下旬ニ於ケル降電ノ被害少ク加フルニ降前期收穫シ終リシタメ最量多ク且價額高シ	
	第二回	五月九日	二四三	一、七五〇	六二〇	一、五五〇	八、八八〇			
	第三回	六月一日	二九六	二、四九〇	六二六	一、四七〇	一〇、七六〇			
	第四回	六月三日	二〇〇	一、九〇〇	八九〇	一、七五〇	一〇、七六〇			
	第五回	六月三日	九六六	三、〇〇〇	五〇〇	一、八二〇	一、七七一			
計			一、一七三	六、四二二	二、五八一	一、八八二	三三、四四五			
大紫 樹齡十四年 (一本ニ付)	第一回	六月一日	六七五	一、四七五	二二五	一、九〇〇	一、九〇〇	五月下旬ニ於ケル降電及其後ノ降雨ノタメ最量減少且單價低廉ナリ		
	第二回	六月六日	一〇〇〇	一、〇一六	二六六	三、五五六	〇、〇〇〇			
	第三回	六月六日	一、七〇三	一、四九二	四一九	五、四五六	〇、〇〇〇			
計			三、三七八	三、九八三	七二〇	一〇、九一六	一、九〇〇			
那翁 樹齡十四年 (一本ニ付)	第一回	六月三日	一、五七五	二、七〇〇	八八八	六、二二〇	一、一五五	降電ノ被害及降雨ノタメ最量減少且價額低廉ナリ		
	第二回	六月九日	四八六	六〇〇	一、一五五	一、〇九〇	二、〇九九			
	第三回	六月九日	二、〇〇〇	二、七〇〇	九三三	一、一七四	九、七四			
計			四、〇六一	五、四〇〇	二、〇七六	八、四八二	一、〇八二			
合計	第一回	六月一日	三三三	三、三三三	一四七	一、四四五	六、三三三	〇、三三八	降電ノ被害及降雨ノタメ最量減少且價額低廉ナリ	
第二回	六月九日	三三三	三、三三三	一四七	一、四四五	六、三三三	〇、三三八			
計			六六六	六、六六六	二九四	二、九〇〇	一二、六六六	〇、七六六		

(六) 柿、明治四十四年富有、天神御所、甘百目、天龍坊、禪寺丸、富士、衣紋、身不知種等ヲ反當七十五本ニ植付シ自然形仕立トナシ各種ノ特性ヲ調査中ナルモ甘柿ニテハ富有、天神御所、甘百目、澁柿ニテハ堂上蜂屋等成績良好ナリ

(七) 洋梨、明治四十三年左記品種ヲ蒐集シ反當七十五本ニ植付シ整枝法ハ「ピラミット」形トナシ各品種ノ特

性、收量等ヲ試験調査中ナリ、然ルニ栽培距離ノ狭キト病虫害ノ多キタメ昨年ヨリ中央ノ直立主枝ヲ剪去シ準盆狀形ニ變更セリ、從來ノ調査ニ依レハ、バートレット種ハ結果モ良好ニシテ品質亦可良ナリ、キーフアー種ハ結實良好ニシテ收量多キモ品質稍劣レリ

品種 バツスクラツサン、ラブランス、オノンダカ、バートレット、キーフアー、ボレーアーデー、ホワイトドワイアンヌ、ボレーデー、ボレーデユブイオン

二、見本栽培 斯業改良ノ資ニ供セムカ爲左記品種ヲ栽培ス

李ハ寺田、市成、万左衛門、西田、鹿兒島米桃、梅ハ養老、豊後、小梅、柑橋ハ温州、バレンシアレート、マルチースブラット、無花果ハホワイトゼノア、カリホルニアブラック、ブラウンターキー、桃ハ油桃(プレコースドクロンセル)柿ハ次郎、飯台、葡萄ハ甲州、梨ハ市原早生、土佐錦、今村秋、栗ハ豊多摩早生、銀寄、鹿ノ爪、トゲナシ栗、早生丹波、五月栗、極早生大盆栗、早生五月栗、大盆栗、長兵衛、枇杷ハ田中、改良田中、大唐、茂木

三、果實發育調査 左記果實ノ發育ヲ調査シ施肥時期ノ關係ヲ研究セムトス

○調査方法 果實ノ母指大トナリシ時ヨリ之カ周囲及高サヲ五日目毎ニ調査ス、○供試品種 桃ハ魁、天津、銀桃、梨ハ獨逸、長十郎、早生赤

桃及梨生育調査表 (一號ヨリ五號迄ノ平均)

調査月日	桃之部			梨之部		
	魁	天	津	早	赤	獨
六月一日	一、二四	一、五八	三、三三	〇、八五	二、三三	〇、六六
六月五日	一、三九	一、七三	三、七四	〇、七五	二、四二	〇、八五
六月十日	一、四八	一、七七	三、九三	〇、八〇	二、六一	〇、八九

八、二九	八、二四	八、一九	八、一四	八、九	八、四	七、三〇	七、二五	七、二〇	七、一五	七、一〇	七、〇五	七、〇〇	六、九五	六、九〇	六、八五	六、八〇	六、七五	六、七〇	六、六五	六、六〇	六、五五	六、五〇	六、四五	六、四〇	六、三五	六、三〇	六、二五	六、二〇	六、一五	六、一〇	六、〇五	六、〇〇	五、九五	五、九〇	五、八五	五、八〇	五、七五	五、七〇	五、六五	五、六〇	五、五五	五、五〇	五、四五	五、四〇	五、三五	五、三〇	五、二五	五、二〇	五、一五	五、一〇	五、〇五	五、〇〇	四、九五	四、九〇	四、八五	四、八〇	四、七五	四、七〇	四、六五	四、六〇	四、五五	四、五〇	四、四五	四、四〇	四、三五	四、三〇	四、二五	四、二〇	四、一五	四、一〇	四、〇五	四、〇〇	三、九五	三、九〇	三、八五	三、八〇	三、七五	三、七〇	三、六五	三、六〇	三、五五	三、五〇	三、四五	三、四〇	三、三五	三、三〇	三、二五	三、二〇	三、一五	三、一〇	三、〇五	三、〇〇	二、九五	二、九〇	二、八五	二、八〇	二、七五	二、七〇	二、六五	二、六〇	二、五五	二、五〇	二、四五	二、四〇	二、三五	二、三〇	二、二五	二、二〇	二、一五	二、一〇	二、〇五	二、〇〇	一、九五	一、九〇	一、八五	一、八〇	一、七五	一、七〇	一、六五	一、六〇	一、五五	一、五〇	一、四五	一、四〇	一、三五	一、三〇	一、二五	一、二〇	一、一五	一、一〇	一、〇五	一、〇〇	〇、九五	〇、九〇	〇、八五	〇、八〇	〇、七五	〇、七〇	〇、六五	〇、六〇	〇、五五	〇、五〇	〇、四五	〇、四〇	〇、三五	〇、三〇	〇、二五	〇、二〇	〇、一五	〇、一〇	〇、〇五	〇、〇〇
------	------	------	------	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

◎病 蟲 部

一、大麥腥黑穗病豫防試驗 (繼續二年目)
 ◎目的 本試驗ハ大麥、裸麥腥黑穗病ヲ何如ナル方法ニヨリ豫防シ得ラルルヤヲ知ルニアリ

○沿革 大正十二年度創設。○試驗所在地 利根郡水上村 擔當者 利根郡農會並水上村農會、○耕種概 各區共大豆跡地ヲ五、六寸ニ耕起シテ整地セリ其他ハ普通法ニヨル

甲 種子消毒 第一區、冷水温湯浸法施行後播種セルモノ、第二區、石灰硫黃合劑加用冷水温湯浸法施行後播種セルモノ、第三區、硫酸銅液(硫酸銅五匁ヲ水二升ニ溶解)ニ五分間浸漬後播種セルモノ

乙 土壤消毒 第四區、石灰窒素ヲ反當十五貫匁施用、種子ハ普通塩水選セルモノヲ播付、第五區、木灰又ハ石灰ヲ反當四十貫匁施用、種子ハ同前、第六區、硫黃華ヲ反當四十貫匁施用、種子ハ同前

丙 種子兼土壤消毒 第七區、土壤ニ石灰窒素反當十五貫匁施用ノモノニ冷水温湯浸法ヲナセル種子ヲ播付、第八區、石灰又ハ木灰ヲ反當四十貫匁施用ノモノニ冷水温湯浸法ヲナセル種子ヲ播付、第九區、石灰窒素反當十五貫匁施用ノモノニ石灰硫黃合劑加用冷水温湯浸法ヲナセル種子ヲ播付、第十區、石灰又ハ木灰反當四十貫匁施用ノモノニ石灰硫黃合劑加用冷水温湯浸法ヲナセル種子ヲ播付、第十一區、無豫防

備考 第四、五、六區ニ使用セシ種子ハ豫メ第一區ト同様ニ處理セシモノヲ用ヒ第四區ヨリ五、六、七、八、九、十區ニハ深サ一尺地上ノ高サ四寸内表面積四分ノ一坪ノ亞鉛製框ヲ伏込ム、尙同四、五、六、七、八、九、十區ノ各區ニハ豫メ土壤ニ腥黑穗病孢子ヲ接種シ置キ各種殺菌劑ヲ以テ消毒處理セリ

區名	調查事項	積雪前ノ生育狀況	解雪後ノ生育狀況	出穂月日	成熟月日	本當健全數	同上發病數	健全總本數ニ對スル罹病歩合	坪當收量	同重量上	反當收量
一	良好	同	稍良好	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇
二	同	同	同	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇
三	同	同	同	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇
四	同	同	同	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇
五	同	同	同	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇
六	同	同	同	六、三	七、二	四〇	六	一、二	一、六	四八	五、〇

以上試験ノ結果ヲ見ルニ其成績ニ於テハ特ニ効果著シキモノヲ認メス大同小異ノ感アリ尙試験ヲ重ネ正確ヲ期セントス

初雪十一月十五日、積雪量二寸三分、根雪十二月十三日、積雪量(根雪當時)八寸五分、解雪四月二日、畦幅二尺、播種法 條播、反常播種量五升ノ割、鎮壓 一回十一月一日、二回十一月十二日、土入 一回五月四日、二回五月十四日、追肥 一回十一月十三日、二回四月四日、中耕 一回四月十八日、二回五月三日

二、同 參考試驗 (其ノ一)

本病ノ發生ハ品種ニヨリ發病程度ニ差異アル傾向ヲ有スルヲ以テ先ツ次ノ各品種ニ付接種試驗ヲ行ヒ發病ノ有無多少ヲ調査シタルニ次ノ成績ヲ得タリ、耕種梗概ハ前試驗ト同様トセリ

品種名	調査事項	種雪前ノ生育狀況	凍害ノ有無及解凍後ノ生育狀況	出穂期	成熟期	坪本數	坪本數ニ對スル罹病歩合	坪當收量	同量上	反當收量
白	麥	良好	少シク凍害ヲ被ル	五月四日	六月五日	五三三	一、五七	一、五八	一、七〇	一、七〇
關	取	同	凍害アルヲ認ム	六月三日	六月三〇日	五三三	三、九三	一、八〇	三、〇〇	二、〇〇
竹	林	同	同	六月三日	六月三〇日	二五三	〇、九三	一、八〇	一、〇〇	一、五〇
水	晶	同	同	六月三日	六月三〇日	一六〇	三、三三	一、八〇	一、〇〇	一、五〇
珍	好	同	大部分凍害ヲ被ル	五月五日	六月二日	五三三	一、二二	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
半	芒	同	少シク凍害ヲ被ル	五月六日	六月三日	三三七	三、三五	一、二二	一、〇〇	一、〇〇

白	ヨシ	ガ	ラ	同	同	同	同	同	同	同
五	畝	四	石	同	同	同	同	同	同	同
甲	州	六	石	同	同	同	同	同	同	同
備	前	早	生	同	同	同	同	同	同	同
改	良	大	麥	同	同	同	同	同	同	同
ゴ	ール	デ	ン	同	同	同	同	同	同	同
シ	ユ	キ	ロ	同	同	同	同	同	同	同
在	來	日	本	同	同	同	同	同	同	同

以上試験ノ結果ニヨリ發病割合ニ少ク而ツ收量多カリシハ在來二本三ニシテ甲州六石、水晶、白麥、白ヨシガラ、關取ノ順序ヲ示セリ、尙ゴールデンメロン及シユキロードシユバリーノ二種ハ發病ヲ見サリキ多分本病ニ對スル耐病性ヲ有スルモノナランカ、尙試験ヲ重ネントス

三、同 參考試驗 (其ノ二)

本病ノ發生ハ播種期ノ早晚ニ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ次ノ試驗ヲ行ヒ成績ノ見ルヘキモノヲ得タリ

播種期	調査事項	發芽月日	積雪前ノ生育狀況	凍害ノ有無並程度	成熟月日	坪本數	同被害本數	總本數ニ對スル罹病歩合	坪當收量	反當收量
九月廿七日播	同	十月一日	極メテ良好	無シ	六月廿二日	二七	一	〇、〇〇	一、五	一、五
十月十日播	同	十月十六日	良好	同	同 廿七日	二〇三	三	〇、〇三	一、三	一、三
同 二十日播	同	十一月二日	同	同	同 七月三日	一〇七	一	一、六	〇、九	〇、九
十一月一日播	同	十一月十九日	稍々不良	凍害ヲ被ル	同 十三日	八三	一	一、三	〇、七	〇、七

右試験ノ結果成績優良ナルハ九月二十七日ノ早播區ニシテ播種期ノ遅ル、ニ從テ發病ノ増加並ニ收量ノ減少ヲ見タリ依之本病ハ早播スルコトニヨリ未然ニ豫防シ得ラル、ヲ驗知セリ、尙試験ヲ重ネ正確ヲ期セントス

四、胡瓜露菌病(べト病)對銅石鹼液並石灰ボルドウ液効力試驗

本試驗ハ前年ト同様ノ試驗方法ニヨリ繼續施行セルモノナリ其成績次ノ如シ
 一、藥害ノ有無 イ、銅石鹼撒布區ニアリテハ第一回撒布當時ハ心葉ノミニ極メテ輕微ナル藥害ヲ認メタル
 モ直ニ回復セリ、ロ、石灰ボルドウ液撒布區ニアリテハ銅石鹼液ト同程度ノ藥害ヲ認メタルモ直ニ回復ヲ
 見タリ

六月二十日發病狀況調査ヲナシ尙六月二十八日、七月六日、同十五日、同廿五日ノ五回調査ヲ行ヒタル結
 果次ノ結果ヲ得タリ、而シテ本病ハ收穫顆數及重量ニ大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ本病ハ收穫顆數及重量ヲ
 調査シ各區ノ効力ヲ比較シタリ、尙本病發生ノ輕重ハ總テ觀察ニヨレリ

區名	事項	發病初期	發病ノ多少 及其狀況	被害狀況	生育狀況	收量		
						顆數	重量	一畝平均 重量
一、六匁式銅石鹼液 三回撒布		六月十四日	地葉三葉位發病セルヲ 認ム	僅カニ發病ヲ見タル ノミ	生育良好	140	17.907	127.9
二、三斗式石灰ボ ルドウ液三回撒布		同 十三日	地葉三、四葉發病	全葉半數以上ノ被害 ヲ認メタリ	生育幾分衰フ	100	10.456	53.3
三、六匁式銅石鹼液 四回撒布		同 十四日	地葉四、五葉位迄ノ發 病アルヲ認メタリ	第一區ヨリ被害少シ	生育極メテ良好	133	10.173	64.5
四、三斗式石灰ボ ルドウ液四回撒布		同 十三日	地葉七葉位ノ發病ヲ認 メタリ	第二區ヨリ發病被害 程度著シ	生育著シク衰ヘ タリ	100	10.626	54.9
五、放任無豫防		同 十三日	特ニ發病甚シク殆ント 新梢部ヲ殘シ發病	全葉盡ク發病ヲ認メ タリ	第四區ニ同様	140	8.035	57.3

備考 供試藥劑調製用材料及分量—石灰ボルドウ液ハ三斗等量式、銅石鹼液ハ六匁式(ハヤブサ浮石鹼使
 用)供試品種 青大節成一區五坪半、耕種梗概 本場普通法ニヨル、藥劑撒布時期 第一回撒布、成長
 一尺乃至二尺ノ頃六月十五日、第二回撒布、第一回撒布ヨリ約十日間經過後、六月二十六日撒布、第三

回撒布第二回撒布ヨリ約十日經過後七月六日撒布、第四回撒布—第三回撒布ヨリ約十日經過後十七日撒
 布、本年ハ特ニ各區共蚜蟲ノ發生著カリシ故之カ驅除目的ノタメ各區撒布液一斗ニ付「マルサン殺蟲劑」
 二十匁加用撒布セリ

以上試驗ノ結果ヲ見ルニ成績最モ良好ナリシハ第三區ニシテ次ハ第一、四、二、五ノ順序ヲ示セリ本年度ノ
 成績ハ昨年度成績ト同一ノ結果ヲ得タルコトヨリシテ本病豫防劑トシテハ六匁式銅石鹼四回以上撒布ニテ完
 全ニ豫防ノ目的ヲ達成シ得ルモノト認メラル、因ニ本試驗ハ來年度ヲ以テ完結セントス

五、馬鈴薯痂皮病豫防試驗

本試驗ハ前年ニ引續キ同様ナル方法ニ基キ施行セル結果一般ニ成績思ハシカラス只第三區「フォルマリン」一
 %液處理セシモノニアリテハ僅カニ四%第二區昇永水一時間浸漬ノ五%ノ發病ヲ見發芽整一ナルヲ認メタリ
 他區ハ大同小異ナル成績ニテ見ルベキモノナカリキ尙試驗繼續ノ豫定

六、馬鈴薯痂皮病豫防試驗

本病ノ發生ハ有機質肥料ノ施用ニ關係アル爲メ之ガ試驗施行ノ筈ナリシモ試驗地ノ都合上中止セルモ來年度
 ヨリ實行ノ豫定

七、麥類葉潛蠅蛹期埋沒驅除試驗

(繼續二年)

本試驗ハ昨年度ニ繼續施行セシモノニテ其結果次ノ成績ヲ得タリ

○第一區 供試蛹ヲ全然地表ニ露出セシモノ、○第二區 同上ヲ地表下五分下ニ埋沒セシモノ、○第三區
 同上ヲ一寸下ニ埋沒セシモノ、○第四區 同上ヲ二寸下ニ埋沒セシモノ、第五區 同上ヲ五寸下ニ埋沒セ
 シモノ、○第六區 同上ヲ七寸下ニ埋沒セシモノ、第七區 同上ヲ一尺下ニ埋沒セシモノ、第八區 石灰
 窒素反當十六貫ノ割ニ施用セシモノ

調査事項	施行期日	調査期日		供試成虫同生不發	供試成虫同生不發	調査事項	施行期日	調査期日		供試成虫同生不發	供試成虫同生不發
		開始	終了					開始	終了		
第一區	十月八日	同	同	二〇〇	二〇〇	第二區	十月八日	同	同	二〇〇	二〇〇
第二區	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第三區	同	同	同	二〇〇	二〇〇
第三區	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第四區	同	同	同	二〇〇	二〇〇
同	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第五區	同	同	同	二〇〇	二〇〇
同	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第六區	同	同	同	二〇〇	二〇〇
同	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第七區	同	同	同	二〇〇	二〇〇
同	同	同	同	二〇〇	二〇〇	第八區	同	同	同	二〇〇	二〇〇

試驗ノ結果——成績良好ナリシハ第五、六、七區ニシテ比較的効果ナキハ第二、三、一ノ順序ヲ示セリ昨年
度ノ試驗結果ト相照シ結論スレハ本蟲ノ蛹期驅除ハ地表近ク存在スル蛹ヲ地表下五寸以上ニ埋没スルコトニ
ヨリ防除シ得ラルモノナリ

八、各種販賣驅蟲殺菌劑ノ効力試驗

最近ニ至リ農用殺蟲、殺菌劑トシテ坊間ニ販賣セラル、モノ少ナカラス、當場ハ之カ効力ヲ試驗シ一般營業
者使用ノ參考トセリ

- 一、マルサン殺蟲劑 製造販賣所 神戸市上庄通四、デリス製劑株式会社
- イ、水一斗ニ供試材料ヲ十五匁加用溶解セシモノヲ以テ各種蔬菜類、蚜蟲ニ撒布シタルニ九六%、十匁加
用ノモノニテ七五%ヲ死滅セシメ何等藥害ヲ認メサリキ、除蟲菊石鹼合劑ニ比シ多少死滅時間遅シ
- ロ、本劑ヲ水一斗ニ三十匁加用撒布シタルモノニハ蔬菜類、青蟲、黑蟲、葉蜂類ハ九八%、青椿象ニテ四
三%餘ノ死亡率ヲ得何等藥害ヲ認メサリキ
- ハ、物荒貝驅除 群馬郡車鄉村ニハ以前ヨリ本田ニ物荒貝ノ(綠桑螺、シイノミガヒ)發生少ナカラス之カ
驅除劑トシテ田水ヲ切り本劑ヲ水一斗ニ二十匁加用溶解セルモノヲ使用セシニ殆ント全滅ニ近ク驅除シ
得タリ

調査事項

一、大正十三年度二化性螟蟲發生時期調査 (連絡調査)

月	日	發蛾數		合計	備考	月	日	發蛾數		合計	備考
		雌	雄					雌	雄		
五月	中旬	四	一	五	第一回發蛾初期五月二 十四日 雌一	八月	中旬	二	一	三	第二回發蛾初期八月十五 日 雌六 雄四
同	下旬	二	一	三	第一回發蛾最盛期六月 十八日 雌二 雄一〇〇	同	下旬	三	二	五	第二回發蛾最盛期八月二 十八日 雌八 雄八
六月	中旬	五	二	七	同	同	中旬	三	二	五	第二回發蛾終期九月十三 日 雌二 雄一
同	下旬	三	一	四	同	同	下旬	二	一	三	
七月	中旬	三	一	四	同	同	下旬	二	一	三	
同	下旬	二	一	三	同	同	下旬	二	一	三	
同	下旬	一	一	二	同	同	下旬	二	一	三	
八月	上旬	一	一	二	同	同	下旬	二	一	三	
同	下旬	一	一	二	同	同	下旬	二	一	三	

前表ニ依ツテ見ルニ第一回發生ハ五月二十四日ニ初マリ前年度ニ比シ五日發蛾遅ク六月十八日最盛七月二十
九日最終トナレリ、第二回發生ハ八月十五日ニ初マリ八月二十八日最盛九月十三日最終トナレリ、第一回誘
蛾數ハ第二回ニ比シ割合ニ多ク之レヲ前年度ニ比スレハ第一回及第二回發生共前年度ヨリ稍多キヲ示タリ
而シテ第一回、第二回發生數ヲ見ルトキハ前年度ヨリ稍多キヲ示セリ

二、二化性螟蟲卵寄生蜂調査

當場苗代及本田ヨリ卵塊ヲ採集シ卵寄生蜂ヲ調査セシニ次ノ結果ヲ得タリ

採卵ノ場所	採卵月日	調査卵塊數	卵塊總數	卵塊寄生蜂數	卵塊寄生蜂數	寄生蜂種類別數	備考
苗代	五月	一	一	一	一	赤卵蜂 一	
本田	六月	一	一	一	一	赤卵蜂 一	
苗代	七月	一	一	一	一	赤卵蜂 一	
本田	八月	一	一	一	一	赤卵蜂 一	

苗代	六月十日	三	一、〇〇五	五、七	二〇元	三	三、三	二〇五	四
同	六月廿三日	三〇	三、二六七	一、八三三	一、〇〇三	一、四〇三	四、七元	一、〇〇二	一
本	七月十一日	一五	九三	五五	二九八	三三	三、五	二九八	同
計		五、二〇五	二、九四四	一、二五元	二、〇四八	三、九四	一、五〇四	五〇	同

守生歩合ノ算定、總卵粒數ニ對スル被
寄生卵粒數ノ歩合ヲ示ス

三、稻麴ト品種トノ關係調査

本調査ハ向フ三ヶ年間行ヒ主トシテ當場品種栽培試験地ニ付調査スルモノニシテ本年度ノ成績次ノ如シ
イ、水稻ノ部

免疫性品種ト認メタルモノ——金佐糯(中)信州早生(早)大森早生(早)金光坊(早)幾早九二號(早)幾早二四
(福龜)(早)

抵抗性強キ品種——苗代稻(早)太郎兵衛糯(早)早生愛國(早)東郷(早)國富(中)羽田(中)荒木(中)幾早二四
號(福龜九二)幾早九二號、三二號、一六號、陸羽一三號

抵抗性中庸品種——穀良都(中)愛國六號(中)選一二七號(晚)玉錦高一七號(晚)坊主二本三(早)倉賀野(中)
幾早一一號、同二二號(改愛一四)同五六號同五七號同五七同七〇同七一八三號同無芒愛國(中)

抵抗性弱キ品種——關取新三四號()福山(中)松山坊主(中)關取廣一一五號(中)關取金八號(晚)選一七九
號(中)幾早一四號、四二號、七三號、六九號、七六號、一五八號、一六〇號、西ヶ原一六號

陸稻ノ部
免疫性品種ト認メタルモノ——夜ノ雪糯(中)尾張、沼田關取、保村早生、白鬚、美濃糯(埼玉)當場信州早
生、三重五三號、陸羽一七號

抵抗性強キ品種——凱旋一號、浦三、凱旋糯、東京金子、東京支那糯、臺灣糯、北海糯、尾内糯、陸羽一
二號、千司、陸羽一五號、田邊、早生美濃糯、藤藏糯、浦三二六號、當場金光坊四三號、常陸錦、埼玉關

取、高砂早生

抵抗性中庸品種——都賀、埼玉凱旋、改良國富糯、早不知糯、東京平山、東京戰捷、大畑、戰捷(埼玉)
大畑糯、陸羽三三號

四、小麥ノ品種ト赤澁病トノ關係調査

抵抗性強キ品種——彌右衛門、江島、五畝四石、竹林、珍好、白麥、備前早生、半芒、六郷關取、水晶、
ゴールデンメロン、赤三尺、コボレ

抵抗性中庸品種——ダルマ、辨慶、新田早生、スネキリ、坊主スネキリ、赤ダルマ
抵抗性弱キ品種——細稈、改良早生、赤坊主、邑樂關取

五、馬鈴薯萎縮病ト品種トノ關係調査

本病發生ノ有無多少ハ各品種ニヨリ一様ナラス之カ關係ヲ知ランカ爲メ本場ノ馬鈴薯栽培品種ニ就キ調査シ
タル結果次ノ如シ、因ニ馬鈴薯萎縮病ト稱スルモノニハ次ノ型(タイプ)アリ

1 捲葉型萎縮(リーフロール)葉片ハ葉緣ヨリ上方ニ捲キ上リテ萎縮ス

2 縮葉型同(カーリーツワーフ)葉片ハ不規則ニ縮レテ萎縮ス

3 嵌工型同(モザイック)葉面ニ淡黃色ノ斑紋ヲ生シ萎縮ス

4 斑紋型同(ストリート)葉面莖等ニ褐色斑紋生シテ萎縮シ急激ニ枯凋ス
發病少ナキ品種——アーリーローズ(2)、メークキン(2)、相澤一號(2)、ノーザンスター(2)、アメリ
カンウォンダー(2)、アメリカンウォンダー(2)(早)、ベルモンドゴールドコイン(2)
發病多キ品種——ハルモンドゴールドコイン(2)、ニユウセンチュリー(2)
發病著シキ品種——スノーフレッキー(2)、ホワイトシチー(2)、赤目薯(2)

農林省委託麥作病害豫防試驗

本試驗ハ前年ニ繼續施行セシモノニシテ本年度ヲ以テ試驗ノ完了ヲ見タリ
 本年度ニ對スル試驗成績次ノ如シ、而シテ耕種概要、試驗項目等ハ總テ前年ト同様方法ニヨレル故其繁雜ヲ
 避ケ省略セリ

一、大麥黑穗病及斑葉病豫防試驗

試驗成績

區名	發芽 月日	發芽 狀況	收穫ニ至ル迄 ノ生育狀況	分蘗程度	熟期 狀況	發病 多少	收穫 量	成續 順位
一	三、二六	良好	生育良好ト	良好ナルヲ	一齊	斑二九四	二、九	三
二	三、二六	同	同	同	同	同	二、九	三
三	三、二七	同	同	同	同	同	二、九	三
四	三、二七	同	生育幾分遅ル	同	同	同	二、九	三
五	三、二七	同	生育前區ニ比シ 幾分遅ル	同	同	同	二、九	三
六	三、二七	同	同	同	同	同	二、九	三
七	三、二七	同	同	同	同	同	二、九	三
八	三、二七	同	同	同	同	同	二、九	三
九	三、二八	同	生育非常ニ 遅ル	同	同	同	二、九	三
一〇	三、二八	同	同	同	同	同	二、九	三
一一	三、二八	同	生育良好	同	同	同	二、九	三

以上試驗結果ヲ見ルニ收量ニ於テ第一位ヲ占ムルハ第十八區ニシテ第十區、第十三、第十九ノ順序ヲ示セル
 モ著シキ差違ナク第四區ノ收量少ナキハ收穫後多少ノ鼠害ニヨレリ、無豫防區ヲ除キ各區共黑穗病株ヲ認メ

テ斑葉病ハ夏、秋期豫防區共大ナル逕庭ヲ認メス、尙收量ハ一般ニ秋季豫防ハ夏季豫防ニ比シ比較的增加ノ
 傾向ヲ示セリ

二、小麥黑穗病豫防試驗

區名	發芽 月日	發芽 狀況	收穫ニ至ル迄 ノ生育狀況	分蘗程度	熟期 狀況	發病 多少	收穫 量
一	三、二八	良好	生育良好	良好ナルヲ	一齊	〇	八、七
二	三、二八	同	同	同	同	〇	八、三
三	三、二八	同	同	同	同	〇	七、七
四	三、二八	同	同	同	同	〇	八、三
五	三、二九	發芽少 シク遅ル	前區ニ比シ 幾分劣ル	同	同	〇	八、五
六	三、二九	同	同	同	同	〇	七、八
七	三、二九	同	同	同	同	〇	八、五
八	三、二九	同	同	同	同	〇	八、五
九	三、二九	良好	生育良好	同	同	〇	八、七
一〇	三、二八	同	同	同	同	〇	八、〇
一一	三、二八	同	同	同	同	〇	八、六

以上試驗ノ結果ヲ見ルニ收量ニ於テ第一位ヲ占ムルハ第二十區ニシテ十四區、十六區ノ順序ヲ示セリ其他ハ
 收量、生育狀況等大同小異ニシテ一般ニ夏季ヨリ秋季豫防區收量多シ、本年度ノ結果ヨリスレハ本法ニヨリ
 黑穗病豫防一層確實ナルヲ認メタリ

三、麥類赤澁病及白澁病豫防試驗

藥劑撒布ノ直前ノ生育狀況

大麥ノ部

小麥ノ部

區別	藥劑撒布月日		藥劑撒布前ニ於ケル生育狀況		藥劑撒布月日		藥劑撒布前ニ於ケル生育狀況	
	第一回	第二回	第一回撒布前	第二回撒布前	第一回	第二回	第一回撒布前	第二回撒布前
一	四月廿七日	五月六日	一、七三	二、二二	四月廿七日	五月六日	一、七三	二、二二
二	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
三	五月六日	同	一、七三	二、二二	五月六日	同	一、七三	二、二二
四	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
五	五月十四日	同	一、七三	二、二二	五月十四日	同	一、七三	二、二二
六	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
七	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
八	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
九	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二
十	同	同	一、七三	二、二二	同	同	一、七三	二、二二

藥劑撒付後ノ狀況
 大麥ノ部 (備考記入ハ主トシテ發病初期最盛期ニナセリ) 小麥ノ部

區別	發病初期	發病ノ多少	收穫生育狀況	熱期狀況	收量	發病初期	發病ノ多少	收穫生育狀況	熱期狀況	收量
一	五月廿三日	著シク發生セシメタルヲ認メタリ	同	一齊ニ黃熟	一六、九六	五月廿四日	著シク發生セシメタルヲ認メタリ	同	一齊ニ黃熟	一六、九六
二	同	同	同	同	一六、六五	同	同	同	同	一六、六五
三	五月廿四日	同	同	同	一五、七四	同	同	同	同	一五、七四
四	五月十九日	同	同	同	一五、九二	同	同	同	同	一五、九二
五	五月十八日	同	同	同	一五、九二	同	同	同	同	一五、九二
六	五月廿二日	同	同	同	一五、九二	同	同	同	同	一五、九二

以上試驗ノ結果ヲ見ルニ大小麥各區共ニ生育收量ニ差シタル懸隔ナク發病程度モ亦前年ト同様幾分カ豫防區ニ少ク無豫防區多キヲ認メタルモ兩者ノ間ニ判然タル差異ヲ認メス

本省依託麥作病害試驗成績ノ考察

四ヶ年間試驗ヲ重ネタル成績ヨリ考察スレバ次ノ如シ

一、大麥黑穗病及斑葉病豫防試驗

- イ、本法ノ施行ニヨリ黑穗病ヲ確實ニ豫防スルコトヲ得
- ロ、本法ノ施行ニヨリ幾分斑葉病ヲ豫防シ得ラル
- ハ、本法ニヨリ處理セシ種子ハ發芽、生育狀況及收量等ニ影響スルコト少シ
- 但シ夏季一二〇度液ニ六乃至十時間浸漬陽乾貯藏播種セルモノニアリテハ多少ノ發芽勢發芽率ノ低下セルヲ認ムルモ秋季各温度下ニ處理セシモノハ總テ發芽及發芽勢極メテ良好ニシテ却而發芽促進ノ効ヲ認メタリ
- ニ、故ニ施用時期ハ其等ノ關係上夏季ヨリ寧ロ秋季ヲ適當ト認ム
- ホ、處理スベキ種子ノ分量ノ多少ハ直接温度ノ遲速並ニ發病如何ト密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ

試驗區別	施肥方法	水		稻		大		麥		肥料數量
		秤重	反當	平均	反當	秤重	反當	平均	反當	
元肥施用	全部元肥トス	二六	九七	九四	一〇〇	二五	四〇	一〇〇	四八	堆肥三〇、硫酸五、輔粕二〇
一回追肥	木灰、堆肥、骨粉、元肥、其他ハ一 中元肥他半追肥	一〇〇	九七	九七	一〇〇	二〇	四〇	一〇〇	二五	骨粉五、豆粕五、過機三
二回追肥	元肥同其他ハ三分元肥追肥二回 堆肥半量、木灰、骨粉、元肥其他 三分ノ一ヲ元肥他ハ酸酵追肥	九〇	九三	九三	一〇〇	二五	四〇	一〇〇	九二	木灰三〇、
酸酵追肥		九〇	九三	九三	一〇〇	二五	四〇	一〇〇	八八	

區別	無機配合		同石灰加用		有機配合		同石灰加用		混用配合		備考
	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	
子實重	二六	二七	二五	二五	二二	二八	三三	二七	一八	一五	肥料ハ窒三、燐三、加二、ニテ無機ハ硫酸、過機
最後三年平均	二六	二七	二五	二五	二二	二八	三三	二七	一八	一五	硫酸、有機ハ堆肥、下肥、豆粕、米糠ナリ

子實重	標準(過機酸)		參考(無機酸)		アンモホス		特許燐安		硫酸アンモニア		硝酸石灰	
	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥	陸稻	大麥
四ヶ年平均	二二	二二	一九	一九	二七	二七	二六	二六	二九	二九	二七	二七
比	一〇〇	一〇〇	八八	八八	一二五	一二五	一二五	一二五	一二五	一二五	一二五	一二五

五、新窒素肥料肥効試験

(第四年目、畑五千分ノ一反、無底ボット、二區平均) 完結
 近時市場ニ顯レタル新窒素肥料ノ肥効ヲ比較シ之カ土性ニ及ホス影響ヲ試驗セントス

六、新磷酸質肥料肥効試験

(第四年目、水田有底ボット、二區平均)
 成績適要……前記新窒素肥料ノ肥効ハ陸稻ト大麥ヲ平均シ、燐安ニ比シ、アンモホス及硝酸石灰ハ一割餘
 肥効高ク、硝酸アモニアハ四分肥効低ク、特許燐安ハ肥効二割餘低シ。各年同一ノ傾向ナルヲ以テ本試驗ハ
 此成績ヲ以テ完結トス

七、肥料肥効増進試験

(第四年目、畑無底ボット、二區平均) 完結
 流亡性礦物肥料ノ肥効ヲ増進スヘク、吸收材料ヲ混加施用シ、有機質肥料ノ肥効ト差異ナキヤ或ハ有機肥ノ
 代用トナシ得ルヤヲ試驗セルモノニシテ、吸收材料トシテハ黒灰(木炭末)及堆肥ヲ用イ、之ニ水溶液トシタ
 ル供試肥料ヲ吸收セシメ現狀トナシタルモノヲ施用シタリ、肥料ハ反當窒素三貫ヲ各肥料ニテ施給シ、磷酸
 加里ハ各四貫トシ不足分ハ補助肥料(過機酸、硫加)ニテ施用シタリ。本年度作物ノ生育ハ不良ナリシヲ以テ
 平均ヨリ除外シ、三ヶ年平均成績ヲ比較シ見ルニ次ノ如シ、(各肥料ノ施用量等ハ前年度業務功程ニ詳ナリ)

試驗區別	陸稻三年平均率		大麥三年平均率		平均	成	蹟	適	要
	標準(過機酸)	參考(無機酸)	標準(過機酸)	參考(無機酸)					
豆 粕(標準)	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇				
燐安十黒灰	一〇五	一〇三	一一三	一一一	一一〇				
燐安十堆肥	一〇九	一〇七	一一六	一一四	一一二				
燐安十黒灰	一一三	一一一	一二〇	一二〇	一二〇				
燐安十堆肥	一一三	一一一	一二〇	一二〇	一二〇				
燐安十黒灰	一一三	一一一	一二〇	一二〇	一二〇				
燐安十堆肥	一一三	一一一	一二〇	一二〇	一二〇				

右成績ニ據レハ磷安ハ吸收材料ノ加用ニ依テ大麥ニ於テハ豆粕ノ四割ノ肥効増進ス。今アモニア性窒素一貫四圓、有機性窒素一貫七圓、トスレハ豆粕一枚(二圓八十錢)ニ代用シ得ヘキ無機速効肥ノ代價ハ一圓五十錢ニ過キス、之ニ堆肥ヲ吸收材料トスルモ其價格三十錢ニシテ豆粕施用ニ比シ遙ニ經濟的ナルヲ見ルヘク、今後有機肥料ノ價格無機肥ニ比シ益々騰貴スルニ於テハ吸收材料混加ノ方法ニヨリ之ヲ有機肥ニ代用スルヲ可トセン。本試驗ハ之ヲ以テ完結トセン

八、大豆三要素適量試驗 (第五年目、畑無底ポット、二區平均、裏作ハ綠肥) 完結

大豆ニ對スル三要素ノ適量ヲ査定セントスルモノニテ、反當窒素一、磷酸三、加里三、石灰三十貫ヲ標準肥料トシ區ニ依テ加減シタリ、平均ハ最後三ケ年ヲ採リタリ

區別	子實重		比	區別	子實重		比	區別	子實重		比
	三年平均	三年平均			三年平均	三年平均			三年平均	三年平均	
無施用	1.5	1.5	100	無施用	1.5	1.5	100	加里	1.5	1.5	100
一貫	1.5	1.5	100	一貫	1.5	1.5	100	加里	1.5	1.5	100
二貫	1.5	1.5	100	二貫	1.5	1.5	100	加里	1.5	1.5	100
三貫	1.5	1.5	100	三貫	1.5	1.5	100	加里	1.5	1.5	100

成績結論……窒素ハ收量増加ニ効顯レス、磷酸ハ一貫二貫必要ナリ、無施用ハ程多ク子實少シ、加里ハ收量ニ最モ關係多ク無施用區ニ比シ加里二貫施用區ハ二倍四分、加里三貫區ハ三倍一分ヲ增收セリ。要スルニ大豆ハ反當加里三貫、磷酸二貫内外ヲ適量トス。本試驗ハ毎年同一傾向ナルヲ以テ此試驗ニテ完結トス

九、大豆肥料配合法試驗 (第五年目、畑無底ポット、二區平均、裏作綠色) 完結

大豆ニ適スル肥料ノ配合ヲ驗知セン爲施行ス、(初年成績ハ殘留地内ニヨリ除外ス)成績次ノ如シ

區名	肥料配合	配合量 (反當貫)	收量	四ヶ年平均均實收量	反當收量	收量比
無肥料栽培	無肥料栽培		1.5	1.5	1.5	100
有機配合	堆肥一〇貫、磷安二(追)骨粉五、過磷酸三、木灰一五、石灰三〇		2.5	2.5	2.5	167
無機配合	過磷酸七、木灰二〇、石灰五〇		2.5	2.5	2.5	167
堆肥配合	堆肥二五〇、骨粉五、過磷酸七、木灰一五、石灰三〇		2.5	2.5	2.5	167
骨粉區	骨粉五、木灰二〇、石灰二〇		2.5	2.5	2.5	167

成績結論……收量最モ多キハ無機配合ニシテ無肥料區ニ比シ約二倍ノ收量アリ、之ニ次ク有機混用配合トシ、堆肥配合ハ連作スルニ從ヒ其効果ヲ増大シ第五年目ニハ無肥料栽培ノ二倍以上ノ收量ヲ見タルモ最初一二年度ハ反テ肥料分多キ爲減收シタリ、骨粉區ノ如ク全部塩基性肥料ヲ施用セル區ハ反テ減收シタリ、此配合ニ於ケル收量ヲ前記三要素適量試驗收量ニ比スルニ損色アリ、之ニ依テ察スルニ大豆ニ對シテハ磷酸質肥料トシテハ過磷酸ヲ可トシ、加里肥料トシテハ硫酸加里ヲ可トスルカ如シ。要スルニ大豆ハ無肥料ニテ栽培スルハ收量甚タ少キヲ以テ適當ナル配合ヲ施用スルヲ要シ、其配合ハ堆肥ノ少量ト過磷酸、硫酸加里及ヒ少量ノ石灰等ヲ配合スルヲ以テ適當トセン。本試驗ハ其傾向毎年同一ナルヲ以テ完結トス

一〇、トリウム肥効試驗 (第三年目、畑有底ポット、二區平均) 完結

硝酸トリウムノ刺戟的効果ヲ驗セムタメ施行セリ。肥料ハ普通用量ヲ驗シタル上供給セリ

試驗區別	第一年大豆作		陸稻		大豆		收量比總平均
	子實	比	子實	比	子實	比	
標準(無施用)	1.5	100	1.5	100	1.5	100	100
トリウム反當十五加用	1.5	100	1.5	100	1.5	100	100
トリウム反當二十加用	1.5	100	1.5	100	1.5	100	100

成績結論……硝酸トリウムヲ刺戟肥料トシテ施行セルニ大豆ニ於テハ減收シ、陸稻ニハ僅少ノ增收ヲ示シ大麥ニハ殆ト增收ヲ呈セス、總平均ニ於テハ其刺戟的効果ハ認ムル能ハス、尙各年ノ收量ヲ見ルニ增收ノ傾向一定セス依テトリウムノ刺戟的効果ハ僅少ナリト認メサルヲ得ス。本試験ハ完結トス

一、促肥素効能試験 (第三年目、畑水田有底ポット、三區平均) **完結**

促肥素(旭硝子株式會社製品)肥効ノ有無ヲ驗セン爲メ反當一貫ヲ施用セリ、(外ニ普通肥施用)

試験區別	水		稻		大豆收量比		陸稻		大豆		收量比總平均
	子實	二年平均	比	比	比	子實	比	子實	比		
標準(無施用)	三六	三五	100	100	100	二〇	100	三〇	100	100	
促肥素區	三五	三五	100	100	100	一八	100	三〇	100	100	

成績結論……促肥素ヲ三ヶ年間各種作物ニ施用セル結果ヲ見ルニ其肥効表レス、各年略同一ノ結果ナルカ故ニ本試験ハ完結トスヘシ

一、二、グアノ肥効試験 (第三年目、畑及水田有底ポット、三區平均) **完結**

グアノノ肥効ヲ過磷酸ト比較セルモノニテ各要素三貫久ヲ施用試験セリ

試験區別	陸稻		水		大豆		水		陸稻		總平均
	子實	二年平均	子實	二年平均	子實	三年平均	陸稻	水	陸稻	水	
標準(過磷酸)	三三	三三	三六	三五	二七	二六	100	100	100	100	100
グアノ區	三五	三五	三六	三五	二七	二六	100	100	100	100	100

成績結論……グアノト過磷酸ハ肥効ニ於テ大差ナシ、故ニ市價安キヲ選ムヲ可トス、但シ稻作ニハ肥効遲

キ爲メカ肥効ヨク表レス、本試験ハ肥効ニ大差ナク毎年傾向略等シキヲ以テ完結トスヘシ

一三、磷酸アモニア類肥効試験 (第二年目、水田狀態有底ポット、三區平均)

各種磷酸アモニア類ノ肥効ヲ比較セシ爲メ施行セルモノナリ、設計ノ大要ハ前年度業務切程ニ詳ナリ

區別	標準(過磷酸)		アンモホス區		混合機安一號		混合機安二號		特許機安六號		特許機安一號	
	本年大麥收量	二ヶ年平均	本年大麥收量	二ヶ年平均	本年大麥收量	二ヶ年平均	本年大麥收量	二ヶ年平均	本年大麥收量	二ヶ年平均	本年大麥收量	二ヶ年平均
標準(過磷酸)	三〇	三〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
アンモホス區	三〇	三〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三

一四、石灰窒素除害試験 (第二年目、畑狀態、有底、三區平均)

石灰窒素ノ有害性ヲ減シ普通肥ト同様ニ施用シ得ル處理方法ヲ驗知セン爲メ行フ、設計前年ト同様

區別	標準區普通肥料		直チニ元肥トシテ施用區		土裏ト混合放置後施用		炭粉ト混合放置後施用		一週同前施用		米糠及尿未加用		他肥料ト混合放置後施用	
	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量	陸稻收量	大麥收量
標準區普通肥料	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元
直チニ元肥トシテ施用區	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元

一五、分蘖速進試験 (新設、水田、五千分ノ一無底ポット、二區平均)

本試験ハ水田ノ分蘖ヲ速進セシムルニハ如何ナル施肥法ヲ採ルヘキヤヲ驗知セン爲メ施行セルモノニシテ水田狀態ニ於テ五千分ノ一反無底ポットヲ使用シ標準肥料ニハ窒素三貫(硫安)磷酸三貫(過磷酸)硫加三貫(硫加)ヲ施用シ、一ポット四株ヲ植付ケタリ、裏作ニハ大麥ヲ栽培シタルモ目的ニ非ザル故調査ハ簡單ニ行ヘリ

區別	施肥方法	水稲ノ部 (一ポント量)					草丈	穗數	千實	大麥ノ部		
		七月十日	七月十五日	七月二十日	七月二十五日	八月十日				八月十五日	三月五日	五月五日
標準無肥料	無肥料	二〇	二二	二四	二六	二八	二〇	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
對照普通肥料	豆粕五十貫、過磷酸五貫	二二	二四	二六	二八	三〇	二二	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
元肥全量區	硫酸一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
空素前施肥區	硫酸一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
二回分施肥區	硫酸一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
三回分施肥區	硫酸一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
加里多施肥區	加里一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
加里多施肥區	加里一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
加里多施肥區	加里一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
加里多施肥區	加里一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	
加里多施肥區	加里一五、過磷酸一五、磷加六貫	二四	二六	二八	三〇	三二	二四	一〇〇	三	一〇〇	一〇〇	

一六、蔬菜肥料試驗 (第二日目、畑狀態無底ポット、二區平均)
 蔬菜ニ對スル肥料効果ノ程度ヲ驗知セル爲メ施行セリ、設計ハ前年度業務功程ニ記載シアリ

肥料區	普通肥料區	多肥料區	ケアノ區	促肥素區	アルミナ	スアンモホ	備考
甘藷 收量 二年平均	二二	二二	二二	二二	二二	二二	促肥素區ノポットガ特ニ毎年増收セルハ土壤ノ爲メナラン
茄子 收量 二年平均	二六	二六	二六	二六	二六	二六	普通肥料區ノポットモ其傾向アリ

一七、種子通電試驗 (豫備試驗第三年、畑狀態ポット、二區平均)

種子ニ電氣ヲ通シ、或ハ特殊電氣ヲ作用セシメ作物ヲ增收シ得ルヤ、及ヒ之カ實用的價值ニ關シ試驗セントスル豫備試驗ナリ、其方法等ニ關シテハ前年度業務功程ニ記載アリ、成績次ノ如シ

試驗區別	大麥		小麥		陸稻		大豆		胡瓜	
	莖數	子實	莖數	子實	莖數	子實	莖數	子實	草丈	收量
紫光線放射	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	八〇	八〇
高周波通電	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	八〇	八〇
感應電流	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	八〇	八〇
標準(無通電)	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	二〇	三〇	八〇	八〇

種子ニ通電スレハ收量ニ影響アリ、其程度ハ冬作ニ大ニシテ夏作ニ少ク、紫光線ニ大ニシテ高周波ニ少シ

一八、電氣ト作物生育トノ關係試驗 (豫備試驗)

甲、關接電氣影響試驗、種子ニ關接ニ電流ヲ通シ生育ニ影響アルヤ及此カ實用的價值如何等ニ關スル試驗ニシテ食塩及硝酸加里ノ一%液ニ既ニ浸種シタル種子ヲ漬ケ此液ニ百ボルト交流ヲ通電シ播種セリ、大豆、胡瓜、陸稻等ハ發芽良好、收量稍多シ
 乙、電燈ト作物生育關係試驗、作物ノ生育期間中夜間点燈ノ實用價值ヲ驗セントセルモノニシテ、夜間ノミ五十燭光晝光色電燈下ニ曝シタルモノト然ラサルモノトノヲ比較セルニ大豆、陸稻、アサガホ、胡瓜、茄子、等何レモ生育ヲ二割以上促進セリ、尙繼續試驗セン

一九、經濟的施肥量查定試驗

(第二年目、圃場、一區六步、水田表裏兩作)

稻及麥ニ對スル三要素ノ適量ヲ生産的及經濟的ニ永久ニ亘リ調査シ施肥標準ノ確定ニ資セントスルモノニシテ肥料ハ硫安、過磷酸、硫加ノ三者ヲ以テ反當各要素三貫ヲ標準トシ外ニ石灰三十貫ヲ施用シ一般法ニヨリ栽培シタリ、番外列ヲ除キタル調査區ハ稻四步、大麥二步ナリ

區別	無肥無空			無磷無加			窒素						磷酸						加里					
	料	素	無	酸	無	加	一貫	二貫	三貫	四貫	五貫	六貫	一貫	二貫	三貫	四貫	五貫	六貫	一貫	二貫	三貫	四貫	五貫	六貫
稻(玄米(反))	一九二	一九六	一九七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七
稻(二年平均)	一九六	一九七	一九七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七	二〇七
大麥(反)	〇七六	〇七八	〇七八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八
大麥(二年平均)	〇七六	〇七八	〇七八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八	一〇八

二〇、新綠肥裏作試驗

(第三年目、本年設計變更圃場、水田裏作)

ザイトウイツケンヲ裏作トスル場合、播種量、播種法等如何ニ處理セルカ最モ收量多キカヲ試驗セルモノニシテ、施用肥料ハA號(過磷酸七貫、硫磺加里三貫ヲ水肥トシ播種後稻刈後施用ス)及B號(硫安一貫、硫加三貫、過磷酸五貫ヲ水肥トシ追肥ス)トシ播種量ハ三升トス。收量成績ハ播種當時雨天多ク播種期遅レ又稻刈取後レタルタメ發芽不良ナリシト中途腐敗シタルモノ多イ爲メニ收量著シク減シタリ、然レトモ參考ノ爲メ收量ヲ掲記スヘシ。(供試面積一區十坪)

試驗種別	試驗區	播種期	播種	肥料	反當收量		備考
					生草	同素量	
反三升播種區	同	十月十六日	條播	A號	三五〇	二四六	播種遲レタル爲メ收量少シ、前年ハ九月
反五升播種區	同	十月十六日	條播	A號	三五〇	二四六	播種遲レタル爲メ收量少シ、前年ハ九月

播種法試驗	刈取後畦立播種	播種區	播種期	播種	肥料	反當收量		備考
						生草	同素量	
點播	刈取後畦立	同	十月十六日	三升	B號	二八五	一、九四	稻倒伏シ且刈取遲レタルタメ點播區ノ成績優シ、昨年ノ成績ト反對ナリ
撒播	刈取後畦立	同	十一月十二日	三升	B號	一九五	一、三	稻刈後畦立作リテ播種セルカ直播後冬作ヲ切リタルニ優ル
條播	刈取後畦立	同	十一月十三日	五升	B號	二〇〇	一、三	

二一、新綠肥裏作栽培法試驗

(第三年目、本年設計變更、水田圃場)

水田ノ裏作トシテザイトウイツケンヲ栽培スルニ適當ナル方法ヲ驗知センカ爲メ施行セルモノナリ、本縣ニ於テハザイトウイツケンハ冬期ニ於テ根部ヲ損傷シ翌春細菌ノ寄生ヲ受ケテ枯死スルモノ多キ故其豫防ニ關シ特ニ試驗セルモノナリ、肥料ハ前項ト同様ニテ播種ハ反三升トス

試驗方法	概要	反當收量	備考
稻作間ニ條播シ刈取後冬作ヲ切り北ヲ高クシ北風ヲ避ケタルモノ	稻作間ニ條播シ刈取後十二月ニ到リ根本ニ十分覆土シ保護セルモノ	三〇〇	播種十月十三日ニテ遅カリシタメ減收
三月中旬畦立ヲ行ヒ浸種セル種子ヲ五升播下ス	十二月ニ到リ地上部ヲ摘心シ風ノ當ルヲ防キ翌春芽ヲ伸長セシム	二〇〇	同
苗床ニ秋蒔シ苗ヲ作り置キタルモノヲ四月中旬植付ク		三三〇	發芽迄ニ日數カ、減收

二二、新綠肥採種試驗

(第五年目、圃場試驗)

各種新綠肥ノ採種ニ適スル栽培法ヲ驗知センカ爲メ繼續試驗中ニ屬スルモノナリ
(イ)ウーリーベツチ、本年ハ設計ヲ少シク變更シ十月初旬、畦巾二尺五寸、株間二尺トシ三四粒反五勺ヲ播下シ肥料ハ、元肥ニ石灰灰各十貫、追肥ニ下肥二十貫ヲ施用シ普通栽培トナシタルニ生育旺盛ニ過キ、生草量ハ反千八百貫ヲ得タルモ、種子ハ僅カニ八升ヲ得タルニ過キス依テ更ニ異リタル栽培ニヨリ種子量ノ増

加ラ圖ラントス

(ロ) サイトウイツケン、栽培法ヲ前項ト同様トシタルニ前同様生草繁茂著シク反千五百貫ノ生草量ヲ得タルモ種子ハ約三斗ヲ得タルニ過キス、依テ更ニ異リタル栽培ヲ行ハントス

(ハ) 黒千石大豆、普通大豆ノ栽培ノ際四尺殊ニ二粒宛黒千石ヲ追播シ、普通大豆ノ收穫ノ際黒千石ハ未タ青草ナルカ故ニ之ヲ取殘シ結實セシメタルモノハ比較的成績良好ニシテ反收量一斗八升(此外普通大豆約一石)ヲ得タリ、一本ニ着セル種子四勺五才ニ及ヘリ。更ニ結果良好ナリシハ果樹ノ間作トセルモノニシテ、五月一日、栗林ノ間作トシ畦巾四尺株間三尺反當一升二合播下シ過燐酸七、硫酸加里四ヲ施用セルモノハ、子實收量九斗ヲ得タリ。生育良好ニテ一本ノ生草量一貫三百匁草丈一丈ニ及ヒ着實良好ノモノハ一本ニテ四合ヲ得タル程ナリ

(二) 其他、カナダ豌豆、虎爪豆等ノ採種ヲ試ミタルモ子實殆ト着生セザリキ

二三、新緑肥見本栽培

新緑肥數種ヲ試作シ見本トシタリ。主ナルモノハ、セラデラ、スイートクロバー、大苜蓿、クロタラリヤ、リスナス、黄色大豆、虎ツメ豆、カナダ豌豆、ウインタールベツチ、マンゲル等ナリ

二四、糞糞促熟試験 (繼續第三年)

糞糞ノ腐熟ヲ促進シ併セテ窒素ヲ防止スヘキ有利ナル方法ニ關シ試験セルモノシテ糞糞ニ材料ヲ混加シテ二ヶ月半貯藏ス其成績次ノ如シ

區別	摘要	所含全窒素	窒素損失	大正十三年	大正十一年	平均
原 糞	各區共糞糞粒六百匁採ル	六、六	一、八	同	同	同
其儘貯藏區	原糞ニ水ヲ加ヘス其儘器物ニ入ル	四、九	三、八	同	同	同
				原糞ニ對スル	同	同
				窒素損失歩合	同	同
				割	割	割
				三、六	三、六	三、六
				割	割	割
				一、一	一、一	一、一
				割	割	割
				二、〇	二、〇	二、〇
				割	割	割
				三、〇	三、〇	三、〇
				割	割	割
				一、二	一、二	一、二
				割	割	割
				一、六	一、六	一、六
				割	割	割
				三、一	三、一	三、一
				割	割	割

普通 醱 區 糞糞ニ同量ノ水ヲ加ヘ溜トス
 過燐酸混加區 糞糞ニ過燐酸五%ヲ混加ス
 アノ混加區 普通區ニアノ五%ヲ混加ス
 燐酸アルミナ混加 同燐酸アルミナ五%混加
 大豆粉混加區 普通區ニ大豆粉五%混加

二五、穀類加工試験 (繼 續)

穀類ニ加工シ販賣用若シクハ自家用ニ供シ其價格ヲ増進シ若シクハ余剩勞力ヲ利用シテ粗收入ヲ大ナラシムル方法ヲ驗知セン爲メ前年ニ引續キ施行セルモノニシテ主トシテ大麥ノ價格増進、大豆ノ利用、加工ニヨル勞力ノ利用、自給自足ニヨル生活費ノ節約等ニ關スル事項ニ就テ試験セリ

(イ) 麥利用ニ關スル試験、麥ノ市價ノ低落ハ本縣ノ如キニ毛作地ニ於テハ農家ノ收入ニ及ホス影響大ナルヲ以テ、之ヲ可及的ニ食糧トシ節米ノ方法ヲ講シ以テ利用上ニ於ケル價值ヲ増進シ市價低落ニ對抗スル策ヲ樹ツルハ必要ナル事項ナリ。然レトモ麥飯トシテ食スルヲ嫌忌スル、現在農村ノ趨向ナルカ故ニ他方面ニ之ヲ求メルカ爲メ試験ヲ施行セリ

一、餛飩ニ關スル試験、餛飩ハ農家食糧中米ニ代ルヘキ最良ノ麥利用方法ナレトモ製造ニ勞力ヲ要スル爲メ平常ノ食膳ニ供シ得サル憾アリ。干餛飩ハ本縣農村ニ於テ百五十萬圓内外ノ消費アレトモ食味不良ニテ加フルニ價格不廉ナレハ餛飩ノ簡易ナル製造ニ依テ其購入ヲ節スルノ要アリ。簡易ナル餛飩製造ノ方法ヲ驗知セシ爲メ製麵試驗ヲ施行シタリ、其結果ニ依レハ市販輕便製麵機(一臺十圓乃至十五圓)ヲ使用スルヲ最良トス、同機三十分ノ功程ハ四升ノ小麥粉ヲ製麵トナシ得ヘク飯食ヨリモ輕便ナリ

尙同機ヲ使用シ小麥粉ニ大麥粉、蕎麥粉、雜穀粉等ヲ加用シ麵類ノ製造並ニ其混和限界等ニ關シテハ試驗中ニ屬ス

二、製麵麩ニ關スル試驗、養蠶期及其他ノ農繁期ニ於テ輕便ナル食事ノ方法トシ、且燃料節約米等ノ要求ヲ滿サムカ爲メニ之ニ當フル食糧トシテ食麵麩ノ簡易製造方法ニ關スル試驗ヲ施行セリ。前年ニ於テハ各種製パン法ノ優劣ニ就テ試驗セルニ何レモ好適セル方法ナカリキ、依テ本年ハパン種ノ優劣ヲ更ニ各種ノ材料ニ就キ試驗セルニ製品最モ可良ニシテ且輕便ナルハフレシマン、イーストナリ。同酵母ニ據ルトキハ製造容易ナルノミナラス、製品ノ品質ハ無經驗ノモノニテモ、ヨク市販品ニ優レルモノヲ得ヘシ。同酵母ヲ使用シ製パンスル方法及分量ニ關シ試驗セル良好ナルモノ結果ヲ舉クレハ次ノ如シ

小麥粉六〇〇(六斤燒量) 微温湯八合、イースト(フレシマン)十二匁、ヲ主原料トシ之エ砂糖十五匁塩九匁、ラード九匁ヲ副原料トシタルモノ製品可良ナリキ、(イーストハ十匁ニテモ可、ラードハ使用セサルモ外見ニ變化ナシ且食味ハ劣ル。小麥粉ハ上等粉程製品ノ品質良好ナリ)

製法ハ前割合ニ混合捏ネタルモノヲ八十度内外ノ所ニ二時間内外貯藏ス、(冬ハ加温スル必要アリ)膨脹セルモノハ瓦斯抜ヲ行ヒ更ニ一乃至半時間貯藏ス、後適宜ノ大サトシ器物ニ納メテ燒クナリ、(燒器ハ當場ニテ簡易ナルモノヲ考案シ希望者ニ實費配布セリ)

製パンノ際小麥粉ニ對シ一部分大麥粉、諸粉、雜穀粉等ヲ混用シ製品ノ品質如何、其混入限界、經濟調査等ニ關シテハ引續キ試驗中ニ屬ス

(ロ)大豆利用試驗、地力増進上大豆作ハ必要ナル故其利用用途ヲ増シ價値ヲ増大スル方法ヲ驗知シ大豆作ノ收益ヲ關接ニ大ナラシメムトス

一、味噌改良醸造試驗、本縣農村ニ於ケル從來ノ味噌ハ品質、食味、共ニ劣ルカ故ニ之ヲ改良スルト同時ニ將來各口製產品ヲ集メ生産檢査ヲ行ヒ共同販賣品トスヘキ基礎ヲ作り、尙大麥ノ量ヲ増加シ食味劣ラサル經濟的製品ヲ得ヘキ方法等ニ關シ試驗セントスルモノニシテ本年ハ次ノ試驗ヲ行ヘリ

大豆(生)	米麩(生)	食塩用量	種湯	製品	品質	熟成期間	製品概評
-------	-------	------	----	----	----	------	------

標準區	三升	三升五合	六合	一、二〇〇	第二位	五月一日—七月一日	實品ヨリモ遙ニ味ヨシ
減塩區	三升	同	四合	六〇〇	第四位	五月一日—六月十五日	少シク臭味ナリ
増糖區	二升	同	五合	一、一〇〇	第一位	五月一日—六月二十日	甘味強シ
加熱區	三升	同	五合	一、〇〇〇	第三位	五月一日—六月一日	過熟ノ兆アリ

右醸造ニ於テ大豆ハ煮熟後一夜留釜トシ煮水ヲ除キ搗ク種湯ニハ食塩ヲ加フ、米麩ハ種湯百二十度トナリタル時混合シ一夜放置ス、加熱區ハ塩ヲ一合湯ト麩ニ加ヘ搗キタル豆ニ加ヘ釜ニテ七時間一〇度ニ加温ス、後鹽ノ五合ヲ加用ス。何レモ二万分ノ一ボットニ仕込ミ輕キ重石ヲナシ上蓋ヲ施シ室温ニ保チタリ

製品ハ何レモ極メテ美味ニシテ在來ノ味噌ヨリ味良ナルハ勿論市販味噌ヨリモ遙ニ美味ナリ、蓋シ麩ノ生氣アルモノヲ使用シタル爲メナランカ、麩ノ量ヲ増加スルハ量ヲ減シ得ルヲ以テ反テ經濟的ナリ

麥味噌、特種麥味噌、土用味噌等ニ關スルモノハ目下試驗醸造中ニ屬ス

(ハ)自家用醬油改良試驗、麥及豆ノ加工法トシテ自家用醬油ハ本縣一般ニ實行スル處ナレ共之ヲ更ニ改良シ風味ノ優良ト早熟トヲ兼ネシムルニハ如何ナル方法ヲ探ルヘキカニ就テ試驗セリ。概要次ノ如シ

標準區	醬油麩四升五合	食塩一升五合	水三升	普通法ニ仕込一ケ年所藏	五月微温湯	色稀薄	香	良	品質四
減塩區	同	同	同	同	同	同	同	同	同
米麩加用區	同三升	同	同	同	同	同	同	同	同
加温區	同四升五合	同	同	同	同	同	同	同	同

此成績ニヨレハ米麩加用最モ良好ニテ減温區之レニ次キ、加温區更ニ之レニ次キ、標準最モ劣ル、方法ニ依テ醸造期間モ短縮シ得ルヲ知リ得タリ、依テ自家用醬油ノ品質ヲ改良スルニハ食塩ノ量ヲ約一割減スルカ貯

藏所ニ留意シ陽光又ハ室温ニヨリ保温ノ方法ヲ工風スルヲ可トス。米麴ヲ一部加用スル方法ハ經濟上良好ナラス

(二) 雜穀類及碎穀利用試驗、雜穀並ニ碎穀等ヲ有用化スルニハ如何ナル方法ヲ採ルヘキカニ就テ試驗セントスルモノニシテ、先ツ其利用法トシテ之ヲ麴に製造スル事項ニ就テ試驗セントシ其豫備試驗トシテ製麴ノ簡易法ヲ驗知スヘク着手セリ

(ホ) 簡易製麴試驗、從來農家ニ於テハ自家ニテ製麴シタルモ其原理ノ明ナラサルト、種麴ノ優良ナルモノヲ使用セサル爲メ製麴概シテ不良ニテ日數ヲ多ク要シ、從テ之ヲ用ウル味噌等モ品質不良ナルヲ免レ得サリシヲ以テ最モ簡易ニ製麴シ然モ優品ヲ得ル方法ニ關シ試驗シタリ、今二三ヲ述ヘム

簡易製麴法試驗、原料ヲ蒸シ百二十度ニ冷却シ種麴(日本醸造株式會社製品、月、雪、花及醬油專用四種共用)ヲ加ヘ籠籠ニ蒸ヲ敷キタルモノニ盛リ八十度ノ室内ニ保ツ、品温百十度ヲ起シタルトキ(盛込後約廿時間)ハ手入ヲ行ヒ、五六時間經過後再ヒ昇温スルヲ以テ再手入ヲ行フ、三日目ニ白花ヲ見、四日目ニ至リ黃色トナル、麴ニヨリ適當ナル状態ニテ出麴トス、此方法最モ簡易ニシテ成績可ナリ

麴室試驗、簡易ナル麴室ハ如何ナルモノヲ適當トスルカニ就テ(1)紙行燈型、(2)硝子戸圍型、(3)木箱型、(4)藁圍ヒ型、(5)平床式、(6)電熱式、等ニ就テ試驗シタリ、(1)ヨリ(4)迄ハ内部ニ棚ヲ設ケ籠籠ヲ差込ミ得ル如ク、裝置シ埋火ヲ以テ保温シタリ、(5)ハ在來式ヲ改良シ湯タンポニテ保温シタルモノ、(6)ハ電熱保温ナリ、今試驗ノ成績ヲ畧記センニ

(1) 紙行燈型、周圍ハハドロンノ二重張りナル故裝置ハ簡單ナレトモ保温困難ニシテ炭火ヲ要スルコト多ク又乾燥ニ失シ易シ、秋ハ十一月中春ハ四月以後ナレハ製麴可良ナルモ寒時ニハ製品不同トナリ易シ
(2) 硝子戸圍型、裝置ニハ多少設備費ヲ要スルモ保温稍可良ナル故長ク使用スル場合ニハ反テ經濟的ナリ。温氣ヲ帶ヒ易キ故排氣戸ノ關閉ニ注意ヲ要ス、醬油麴ハ稍困難ナルモ米、麥麴ハ結果良好ナリ

(3) 木箱型、周圍全部木製ニテ戸棚様ノモノナレハ製作モ容易ニ保温亦良ケレ共室温ノ上部ト下部ニ差ヲ生シ易シ、壁部ニ温氣ヲ吸收シタルタメ米麴ノ製麴後段ニ於テ粘氣ヲ生スル虞アリ

(4) 藁圍型、周圍ハ藁ノ束トシ内部ニハ竹ヲ以テ段ヲ作ル、之ニ籠籠ヲ差込ム。温度乾温共ニ適度ゴテ製麴良好ナレトモ火氣ヲ使用スル際火災ノ虞アルヲ欠点トス、設備費ハ最モ廉ナリ

(5) 平床式、保温完全ナラス、面積ヲ要ス、製麴ハ寒時ニハ不良ナリ

(6) 電熱式、外圍ヲ板内圍ヲ硝子トシタル二重張りテ内部ニハ電燈ト電熱ヲ裝置シ急劇ナル温度ノ上昇ニハ電熱ヲ、保温ハ電燈ヲ以テス排氣ノ必要ナク製麴最モ良好ナルモ設備困難ナリ

以上ノ内農家ノ實用トシテハ醬油麴ハ藁圍型、米麥麴ハ木箱型(戸棚ヲ代用シテ可)ヲ可トセン

二六、果實加工試驗 (繼續)

過剩生産ノ場合ニ於ケル處理法トシ又ハ品質劣等豊産種ノ品質改善方法トシ、尙又廢果疵果ノ處分法トシテ果實ニ加工シ貯藏可能ノ形態トスヘキ簡易ナル方法ヲ驗知スヘク着手セルモノナリ。元來本縣ノ果樹栽培ハ其企模小ニシテ主トシテ生果販賣ニ重キヲ置ケルモ近來各地ニ栽培者増加シタルタメ將來ハ其一部分ヲ加工ニ任スルニ非サレハ經營困難ヲ極ムヘク、特ニ廢果ト疵果ハ比較的多量ニ産スルカ故ニ其處分法ヲ講スルハ果樹園經營上重要ナル事項ナリ、依テ簡易ナル加工法ヨリ先ツ試ミタリ

(イ) 果實衛生罐詰製造試驗

果實ノ最モ簡易ニシテ且有利ナル加工ハ砂糖漬ノ罐詰製造ナリ、而テ罐詰ハハンタ附罐ハ衛生上ニ欠点アルノミナラス工程亦遅キヲ以テサニタリ罐ヲ採用シタリ。此罐ハ蓋附ニ卷縮機ヲ使用セサルヘカラサルヲ以テ簡易ナル卷縮機ニ就テ其實用上ノ價值ヲ試驗セリ

一罐卷縮所要時間 卷縮部ノ状態 裝 作 一臺單價
ホームシュー型 二十秒乃至四十秒 外觀稍粗ナルモ密着セリ 稍困難ナリ 百十圓内外

卷縮機比較試驗 神 谷 式 三十秒乃至五十秒

外觀ノ体裁良シカラズ
巻縮少シク粗

容易ナルモ
運シク

六十圓内外

右ニヨレハ簡易罐詰トシテハホームシマー型ニテ差支ヘナク、尙小企模ノ場合ニハ神谷式ヲ採用スルモ可ナリ。

外観良好巻縮部完全ナリ

容易ナリ

内容ヲ詰メ冷却ノ儘巻縮メ殺菌ス

内容ヲ詰メ加熱後脱氣シ殺菌ス

内容ヲ詰メ加熱後脱氣シ殺菌ス

右ニヨレハ内容ヲ詰メ加熱スルカ或ハ豫メ加熱セル材料ヲ填充シ後巻縮ムルハ製作ニ多少ノ困難ハ伴フモ手

次ニ一封度一號罐ニ填充スヘキ内容ニ就テ調査シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

衛生罐ノ價格ハ時ニヨリ異ルモ會社渡シ一罐六錢。運賃荷造料加算一個七錢五厘位ナリ

以上ニ依テ果實罐詰ハ簡易ナル巻縮機ヲ使用スレハ桃、梨等ハ一封度罐十三錢、杏、キンカン等ハ一封度罐

約十五錢ニテ製造スルヲ得ヘシ

右ニヨレハ内容ヲ詰メ加熱スルカ或ハ豫メ加熱セル材料ヲ填充シ後巻縮ムルハ製作ニ多少ノ困難ハ伴フモ手

數ヲ要スルコト尠ク廢罐亦多カラス、特ニ脱氣等ヲ行フノ必要ナキカ如シ

次ニ一封度一號罐ニ填充スヘキ内容ニ就テ調査シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

衛生罐ノ價格ハ時ニヨリ異ルモ會社渡シ一罐六錢。運賃荷造料加算一個七錢五厘位ナリ

以上ニ依テ果實罐詰ハ簡易ナル巻縮機ヲ使用スレハ桃、梨等ハ一封度罐十三錢、杏、キンカン等ハ一封度罐

約十五錢ニテ製造スルヲ得ヘシ

右ニヨレハ内容ヲ詰メ加熱スルカ或ハ豫メ加熱セル材料ヲ填充シ後巻縮ムルハ製作ニ多少ノ困難ハ伴フモ手

數ヲ要スルコト尠ク廢罐亦多カラス、特ニ脱氣等ヲ行フノ必要ナキカ如シ

次ニ一封度一號罐ニ填充スヘキ内容ニ就テ調査シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

衛生罐ノ價格ハ時ニヨリ異ルモ會社渡シ一罐六錢。運賃荷造料加算一個七錢五厘位ナリ

以上ニ依テ果實罐詰ハ簡易ナル巻縮機ヲ使用スレハ桃、梨等ハ一封度罐十三錢、杏、キンカン等ハ一封度罐

約十五錢ニテ製造スルヲ得ヘシ

右ニヨレハ内容ヲ詰メ加熱スルカ或ハ豫メ加熱セル材料ヲ填充シ後巻縮ムルハ製作ニ多少ノ困難ハ伴フモ手

數ヲ要スルコト尠ク廢罐亦多カラス、特ニ脱氣等ヲ行フノ必要ナキカ如シ

次ニ一封度一號罐ニ填充スヘキ内容ニ就テ調査シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

衛生罐ノ價格ハ時ニヨリ異ルモ會社渡シ一罐六錢。運賃荷造料加算一個七錢五厘位ナリ

以上ニ依テ果實罐詰ハ簡易ナル巻縮機ヲ使用スレハ桃、梨等ハ一封度罐十三錢、杏、キンカン等ハ一封度罐

約十五錢ニテ製造スルヲ得ヘシ

右ニヨレハ内容ヲ詰メ加熱スルカ或ハ豫メ加熱セル材料ヲ填充シ後巻縮ムルハ製作ニ多少ノ困難ハ伴フモ手

數ヲ要スルコト尠ク廢罐亦多カラス、特ニ脱氣等ヲ行フノ必要ナキカ如シ

次ニ一封度一號罐ニ填充スヘキ内容ニ就テ調査シタルニ次ノ結果ヲ得タリ

衛生罐ノ價格ハ時ニヨリ異ルモ會社渡シ一罐六錢。運賃荷造料加算一個七錢五厘位ナリ

ニ比シ著シク少ク農家ノ副業ニ適セス。果汁ノ製造ハ之等ノ点ニ顧慮ヲ要セスシテ便利ナリ、依テ其生産量

製造法等ニ關シ試驗セリ

葡萄粒(レデーワシントン)四貫ヲ破碎壓搾シ液汁六升ヲ得タリ。粕ニ糖液(水一升、白糖末百々ヲ溶解ス)三

升ヲ加用シ煮沸シ搾リテ其液ヲ前液汁ト合併シ加熱濾過シテ瓶詰シタリ。其容量八升五合ナリ。更ニ二ヶ月

貯藏清澄ノ後詰換ヲ行ヒタルニ液量七升五合ニ減セリ

果汁製法比較試驗

(A)ハ淡白ニシテ淡ノ濃度低シ、(C)ハ糖液ノ甘サヲ減シ酸味ヲ施スモ風味加ハル、(B)ハ淡濃厚ニテ風味モ相當

得タリ

各種果實サンタリ一罐詰試驗

梅桃、和梨、枇杷、蜜柑、桃(トライアンフ)等ニツキ巻縮罐ヲ使用シ、内詰シタルモノニ熟糖湯ヲ注入シ直

チニ五分間蒸籠ニテ加熱シ家庭巻縮機ヲ用ヒ巻縮ヲ行ヒ十五分間加熱シ殺菌シ廢罐ノ有無ヲ損シタルニ廢罐

ハ巻縮ヲ丁寧ニ行ヒタル場合ニ於テハ殆ト無シ、依テ農家ニ於テモ此簡便ナル方法ニヨリ販賣用ニ供シ得ヘ

キ罐詰ヲ製造シ得ヘシ。尙糖液ノ濃度ト食味ノ關係、及廢罐率トノ關係及繼續調査中ニ屬ス

二七、蔬菜加工試驗 (繼續)

蔬菜類ノ過剰生産ノ際ニ於ケル處分方法トシ又ハ價格向上ノ一方法トシテ蔬菜類ニ加工ヲ行ヒ貯藏ヲ可能ナ

ラシメ收益ヲ増加スル方法ヲ驗セン爲メ施行セルモノニシテ簡易ニ實行シ得ルモノニ就テ試驗ヲ施行セリ

(イ) 漬物試驗、普通農家ニ於テ蔬菜類ヲ漬物トシ販賣用トナシ得ヘキ程度ノ製品ヲ得ル方法ニ關シ試驗シ

得タリ

併せて經濟關係ヲ試驗センカ爲メニ施行セルモノニシテ各種ノ野菜ヲ通シテ次ノ漬方ニ付キ施行セリ

(A) 福神漬 第一回第二回共淺漬セルモノハ市販賣品ヨリモ食味可良ナリ、然レトモ原料稍高價ナリシヲ以テ尙漬方ヲ改良シ廉價ニ製造スル方法ヲ驗知セル爲試驗中ナリ

(B) 奈良漬 チャヨヲヲ以テ淺漬シタリ、食味可良ナルモ更ニ廉價ニ製造センカ爲メ設計ヲ變更シ、又酒粕ニ代フルニ擬酒粕ヲ以テ製造スル方法ヲモ併せて試驗中ナリ

(C) 其他 味淋漬、麴漬、万年漬等ニ關シテハ試驗中ナリ

(ロ) 蔬菜罐詰試驗、蔬菜ヲ衛生罐詰トシ販賣用ニ供シ得ヘキ程度ノモノヲ廉價ニ製造スヘキ方法ニ關シテ試驗セルモノニシテ次ノ蔬菜ニ就テ行フ、先ツ沸湯ニ拾五分間(但シ大形ノモノハ軟トナルマテ)茹テ水浸シタル後一封度罐ニ詰メ薄塩湯ヲ注加シ五分間加熱ノ後巻締ヲ行ヒ二十分乃至四十分殺菌シ直チニ水浸冷却セリ、脱氣ハ行ハス、廢罐率ハ少シ、供試蔬菜次ノ如シ

青豌豆、 落、 寒土當歸、 蕨、 野蜀葵、 曹類、 荀、 隱元

何レモ製品ノ品質優良ナリ、其價格ハ内容品ノ時價ニ依ツテ異ルヲ以テ概説シ得サルモ一封度空罐代七錢外裝費、工費ヲ合併シ二錢、之ニ内容約六十匁ノ價格ヲ加フレハ可ナリ、寒土當歸ヲ三月ニ罐詰シタルニ内容約三錢ニシテ合計一罐十二錢ナリキ、落、野蜀葵等ハ十一錢、荀ハ五月ニ於テ一罐十五錢ニテ製造シ得タリニ進テ外觀試驗及色留試驗ヲ施行シタリ

(ハ) 蔬菜瓶詰試驗、貯藏ニヨリ蔬菜ノ價值ヲ増進スル方法トシテ瓶詰法ノ可否ハ前年試驗シタリ本年ハ更ニ進テ外觀試驗及色留試驗ヲ施行シタリ

一、青豌豆色留試驗 十五分間沸湯中ニテ茹テ水ハ浸漬シタリ、其沸騰水中ニ硫酸銅(一万分ノ一)明礬(二%)硫酸鐵(三%)色素等ヲ各別ニ加用シテ色留ノ如何ヲ試驗セルニ硫酸鐵區及色素區ノ外觀最モ良好ナリ

二、落及蕨ノ色留試驗 前者ト同様ノ區ヲ設ケ試驗セルニ硫酸鐵區及色素區ノ外觀最モ良好ニシテ其他ノモノハ中途黒變シ易シ

(ニ) 蔬菜貯藏試驗 瓶詰等ノ密封法ニ據ラスシテ蔬菜ヲ貯藏スル方法ニ關シ驗知センカ爲メ、淡塩藏、塩藏、塩糖藏、共漬、砂藏等ヲ落、蕨、ウド、豌豆等ニ試ミタルニ何レモ其結果良好ナラス、更ニ繼續試驗セントス

(ホ) 苳糖藏試驗 苳ノ加工法トシテ苳罐詰及苳蜜ノ製造試驗ヲ行ヒタリ、前者ニ對シテハ加用スヘキ糖分ノ量ヲ各種ニ變更試驗シ、後者ニ對シテハ加フヘキ水ノ量ニ就テ試驗シタリ、更ニ繼續試驗セントス

(ヘ) 蔬菜味付罐詰製造試驗 各種蔬菜ニ就テ之ヲ味付シ罐詰スルノ可否及製品ノ品質ニ就テ試驗セルモノニシテ目下試驗繼續中ニ屬ス

二八、販賣肥料價格廉否調査 (繼續)

金肥ノ施用期(稻肥、麥肥、桑肥)ニ於ケル市價ヲ調査シ之ヲ當場肥料試驗成績ト比較シ廉否ヲ算定シ通俗出版トナシ各郡市町村ニ配布シ一般營業者ノ參考ニ資シツ、アリ

施肥標準調査

一、梗 概 本調査ハ土壤ノ原地調査及原地栽培試驗ヲ施行シ其ノ成績ニヨリ各地ニ於ケル施肥ノ標準ヲ樹テ營業者ニ周知セシメ以テ農作物ノ增收ト肥料ノ經濟ヲ圖ラシムカ爲メ大正六年度着手シ毎年増設シ目下繼續施行中ニ屬ス而シテ六年度分ハ十年度ニ於テ調査完結シ既ニ施肥標準調査成績第一編及附圖第一及第二トシ印刷發表セリ尙大正七、八年度着手町村二十二ヶ町村ハ調査完結セルヲ以テ本年度ニ於テ之カ成績ノ概要ヲ印刷シ發表シタリ、今年ノ業務概要ヲ表示スレハ次ノ如シ

大正十三年度施肥標準調査事業概要 (繼續第八年目)

調査事項	調査町村數	事項	備考
------	-------	----	----

水 碓				樂 甘 北				野 多											
東 橫 野	白 井	九 十九	岩 野 谷	小 野	福 島	額 部	新 屋	吉 田	平 井	美 土 里	入 野	駒 寄	室 田						
鷺 宮	小 竹	高 暮	小 日向	同 殿	野 殿	大 谷	岩 井	相 野	君 川	南 五 箇	金 井	南 蛇 井	白 石	上 大 塚	馬 庭	小 串	漆 原	上 室 田	
田	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
共	共	本	本	共	共	本	本	本	本	本	共	共	本	本	本	共	本	共	本
新 井 金 太 郎	茂 木 實 五 郎	土 屋 兼 五 郎	浦 野 兼 五 郎	大 塚 葛 造	須 藤 西 八	井 上 喜 兵 衛	花 岡 良 太 郎	小 學	寺 出 光 太 郎	額 部 村 農 會	金 井 農 事 改 良 組 合	神 戶 今 朝 一	高 橋 庫 之 助	吉 江 克 己	高 麗 琴 次 郎	三 木 正 勝	青 木 金 六	高 橋 太 作	一
一	二	二	二	三	四	四	四	二	二	三	四	四	一	二	三	三	一	一	一

佐				根 利				妻 吾											
三 鄉	茂 呂	玉 村	采 女	久 呂 保	桃 野	川 場	伊 參	坂 上	名 久 田	東 久 田	東 橫 野	東 橫 野	東 橫 野						
波 志 江	今 泉	布 留 治	伊 與 久	川 額	森 下	月 夜 野	同 地	谷 地	五 反 田	岩 本	本 宿	藤 生	赤 坂	平 坂	箱 島	五 町 田	立 郷	立 郷	
田	田	田	田	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
本	本	本	本	共	本	本	共	本	共	本	本	共	共	本	共	本	本	本	本
細 井 政 壽	星 野 開 治	小 村 學 由 平	高 橋 國 雄	板 橋 伊 藏	中 島 榮 一 郎	木 村 儀 三 郎	宮 出 直 次 郎	高 山 留 重 郎	田 村 平 吉	森 田 吉 郎	中 井 俊 一	一 場 權 三 郎	小 林 角 三 郎	劍 持 四 郎	篠 原 榮 一	佐 藤 甲 三	島 田 福 太 郎	島 田 福 太 郎	島 田 福 太 郎
一	二	三	四	一	一	二	四	四	一	一	二	二	三	四	三	四	一	一	一

多 勢				郡					
宮 城	桂 萱	富 士 見	敷 嶋	北 橋	郡	町	村		
鼻 ヶ 石	苗 ヶ 島	大 前 田	東 片 貝	田 島	小 暮	津 久 田	狩 野	真 壁	大字
桑 田	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑
郡	本	共	本	本	共	本	郡	郡	地 目 經 營
北 爪	星 野	後 藤	石 倉	角 田	須 田	池 田	狩 野	石 田	擔 當 者
安 衛	三 次	駒 雄	清 太 郎	庄 太 郎	要 太 郎	庄 之 助	仲 太 郎	伊 十 郎	年 數
三	三	三	四	四	四	四	三	三	郡
室 田	溢 川	塚 澤	久 留 馬	金 古	桃 井	東 町	東 町	東 町	東 町
中 室 田	溢 川	江 木	鎗 瀬	本 郷	愛 岩	諏 訪	長 岡	花 輪	大字
田	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	畑	地 目 經 營
本	本	本	共	本	本	共	本	本	本
石 井	長 谷 川	原 萬 次 郎	小 暮 彌 平	中 嶋 孝 臣	鈴 木 留 吉	八 木 直 一	岩 田 森 次 郎	金 子 覺 太 郎	擔 當 者
一	二	二	三	四	四	四	三	三	年 數

二、原地依託試驗地場所及擔當者

一、本年調査着手町村		二、前年繼續調査中		三、栽培成績	
本場經營	一〇	本場經營	四二	郡町村經營	ホット試験
探集終了	五	栽培試驗並ニ土壤分析施行中	一	前年繼續	ナ
群馬二、多野一、碓氷一、吾妻一、利根一、佐波二、新田一、邑樂一、佐波五		勢多五、群馬六、多野二、北甘樂六、碓氷三、吾妻四、利根二、佐波四、新田二、山田二、邑樂六、勢多一		本年度新設	シ
		十四ヶ所(田七、畑七)		前年繼續	
		五十八ヶ所(田三一、畑二七)		本年度新設	
		五ヶ所(田三、畑二)		前年繼續	
		二ヶ所(畑二)		本年度新設	
		ナ		前年繼續	
		十八ヶ町村(田九、畑一〇)一ヶ町村十五ホット			

ハ一反歩當壹百五圓ニ達セリ
第二、水稻及裏作大麥
 新田郡ト同シク大正十一年以來引續キ三ヶ年ニ亘リ多野郡神流村關根長三郎ヲシテ表裏作通シ本田一反歩ヲ擔當セシメ耕種法ハ凡テ營場ノ指示ニ依リ水稻愛國六號、大麥半芒八號ニ就キ米麥作ノ指導ヲ行ヘリ其成績左ノ如シ

年次並作物	支		出		部		主		入		部		差引損益
	土地資本	公租公課	種子代	勞銀代	肥料代	小計	數量	金額	副產物	小計			
大正十一年	水	三,000	六,000	九,000	二,500	一〇,500	八,000	四,000	五,000	六,000	八,000	一,000	八,000
	陸	九,000	二,000	一,000	二,500	一〇,500	八,000	四,000	五,000	六,000	八,000	一,000	八,000
合計	12,000	8,000	10,000	5,000	21,000	16,000	8,000	10,000	12,000	14,000	2,000	12,000	
大正十二年	水	三,000	六,100	九,500	二,500	一二,000	八,500	四,500	五,500	六,500	八,500	1,000	八,500
	陸	九,000	二,000	一,000	二,500	一〇,500	八,000	四,000	五,000	六,000	八,000	1,000	八,000
合計	12,000	8,100	10,500	5,000	21,500	16,500	8,500	10,500	12,500	14,500	2,000	12,500	
大正十三年	水	三,000	六,300	九,800	二,500	一二,300	八,800	四,800	五,800	6,800	8,800	1,000	8,800
	陸	九,000	二,000	一,000	二,500	一〇,500	八,000	四,000	五,000	6,000	8,000	1,000	8,000
合計	12,000	8,300	10,800	5,000	22,800	16,800	8,800	10,800	12,800	14,800	2,000	12,800	
三ヶ年平均	水	3,000	6,300	9,767	2,500	12,167	8,767	4,767	5,767	6,767	8,767	1,000	8,767
	陸	9,000	2,000	1,000	2,500	10,500	8,000	4,000	5,000	6,000	8,000	1,000	8,000
合計	12,000	8,300	10,767	5,000	22,667	16,767	8,767	10,767	12,767	14,767	2,000	12,767	

前表ニ據レハ大正十二年播大麥ニアリテハ反當收量少ナク、麥價安カリシ爲、損失ヲ示シタルモ大正十一年

播四圓五拾五錢、大正十三年播四拾九錢ノ收益ヲ見タリ。而シテ表裏作ヲ綜合スレハ土地資本利子、人夫賃等ヲ收メ公租公課其他ノ經費ヲ支拂タル上ニ大正十一年度ニ於テ拾參圓九錢大正十二年度ニ於テ七圓九拾五錢大正十三年度ニ於テ八拾圓八拾九錢ノ收益ヲ見タリ。尙三ヶ年ノ平均ニ於テハ水稻ノ收益參拾五圓九拾錢ニ達セルヲ以テ裏作大麥ニ於テ壹圓九拾參錢ノ損失アレトモ差引參拾參圓九拾七錢ノ收益ヲ示シ其他肥料代種子代、公租公課等ヲ支拂ヒタル以外ニ勞銀代六拾壹圓、土地資本利子貳拾貳圓ヲ收メ得タルニヨリ擔當者ノ所得ハ一反歩壹百拾六圓九拾七錢ニ達セリ

第三、陸稻及裏作大麥

大正十一年邑樂郡三野谷村川島藤重ヲシテ畑一反歩ヲ擔當セシメ陸稻作ノ指導ニ着手シタルモ擔當者ノ都合ニ依リ裏作大麥ノ栽培ヲ中止セリ、依テ大正十二年以後二ヶ年間邑樂郡多々良村木村金藏ヲシテ表裏作ヲ通シ畑一反歩ヲ擔當セシメ耕種法ハ凡テ營場ノ指示ニ依リ陸稻長柄早生浦二六號、大麥關取田二號ニ就キ米麥作ノ指導ヲ行ヒタルニ大正十三年度ニ於テハ近年稀ナル大旱魃ニ遭遇シタル爲陸稻作ノ大減收ヲ來セルモ全期間ヲ通覽スレハ相當ノ結果ヲ收メ得タリ、其成績左ノ如シ

年次並作物	支		出		部		主		入		部		差引損益
	土地資本	公租公課	種子代	勞銀代	肥料代	小計	數量	金額	副產物	小計			
大正十一年	水	10,000	2,500	6,000	2,500	11,000	2,000	11,000	1,000	12,000	1,000	11,000	1,000
	陸	10,000	2,500	6,000	2,500	11,000	2,000	11,000	1,000	12,000	1,000	11,000	1,000
合計	20,000	5,000	12,000	5,000	22,000	4,000	22,000	2,000	24,000	2,000	22,000	2,000	
大正十二年	水	10,000	2,500	6,000	2,500	11,000	2,000	11,000	1,000	12,000	1,000	11,000	1,000
	陸	10,000	2,500	6,000	2,500	11,000	2,000	11,000	1,000	12,000	1,000	11,000	1,000
合計	20,000	5,000	12,000	5,000	22,000	4,000	22,000	2,000	24,000	2,000	22,000	2,000	

(イ) 甘 藍

○位置及擔當人 北甘樂郡富岡町

黒澤善次郎

○土質第四紀古層植質壤土○面積五畝步○品種豊田早生サクセツション○苗本數

○栽植十二月二十五日○栽植距離畦幅二尺五寸株間二尺○中耕及追肥二月十五日、三月廿一日、四月十一日

肥料		肥料名	堆肥	蛹	粕	大豆粕	過燐酸木	灰	石	灰	人糞尿	硫酸加里
施肥量	一五〇貫											
單價	一錢											
價格	一五〇錢											
總額	一五〇錢											

○作業調査、播種九月廿一日、假植十月二十日、定植十二月廿八日、中耕追肥二月廿五日、三月十五日、四月十日、收穫五月十五日ヨリ七月廿四日マデ

勞力調査		作業項目	整地	移植	定植	中耕追肥	虫取收穫	合計
所用人員	二人							二人
一人一日賃金	一五〇錢							一五〇錢
總額	三〇〇錢							三〇〇錢

收量調査		品種名	栽培坪數	個數	重量	平均量	備考
豐田早生	二畝	二、七五〇個			六三、〇〇〇	三〇〇匁	備考サクセツションハ冬期ニ枯死セルモノト花ノ咲キタルモノアリシ爲メ成績不良
サクセツション	三畝	一、三七〇個			六三、〇〇〇	六〇〇匁	

支出ノ部 (五畝步) 地代金拾圓五拾錢、種苗代金貳圓、肥料代金拾圓參拾四錢、勞銀代金拾圓五拾錢、合計金參拾七圓參拾四錢也

經濟調査

收入ノ部 (五畝步)		品種名	栽培面積	收量	單價	價額	反當
豐田早生	二畝	一畝、〇〇〇			一個七錢	金參拾圓	
サクセツション	三畝	一畝、四〇〇			一個八錢一四錢	金貳拾五圓	
差引純益						金五拾五圓	

(ロ) 葱 頭

○品種エ、ログローブダンバース○播種九月廿一日○發芽九月廿八日○栽植距離畦幅一尺(但シニ列播)株間五寸(千鳥)○播種量八合(四畝步當)

肥料 (反當)		肥料名	堆肥	大豆粕	蛹	燐	酸	人糞尿	木	灰	石	硫酸加里
施用量	三〇〇貫											
單價	一五錢											
價格	四、五〇〇											
總額	四、五〇〇											

○作業調査 播種九月廿一日、間引三月廿五日、追肥十二月一日、一月廿日、三月廿六日ノ三回、收穫日五月十五日至六月廿日

勞力調査 (四畝當)		作業項目	整地	肥料配合	播種	除草追肥	間引	收穫
所用人員	四人							二人
一人一日賃金	一五〇錢							一五〇錢
總額	六〇〇錢							三〇〇錢

○收量調査 個數壹千八百個、重量三百二十貫也 (四畝當)

支出之部		收入之部	
種	代	收	入
種薯	代	量	部
肥料	代	單	
勞		價	
銀		額	
地		量	
代		價	
合		額	
計		總	
備		計	
考			

第七、梨
 差引 純益金百貳拾貳圓八拾七錢(反當)
 〇位置及擔當人 勢多郡木瀬村大字下大鳥字唐崎 梅 澤 馨 重
 〇土質 第四紀新層砂質壤土
 〇面積 一反四畝(真餘六畝半、早生赤七畝半)
 〇品種 真餘(七十一本) 早生赤(六十九本) 〇樹齡 十三年
 〇肥料(一反四畝步當)

肥料名	堆肥	大豆粕	骨粉	石灰	人糞尿	硫酸加里	魚肥	グアノ	過磷酸	硫酸	安	磷	木	灰
元肥	700	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250	26,250
追肥	300	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125
單價	300	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125	16,125
總額	1,000	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375	42,375

〇追肥 第一回、真餘(四月廿八日)、人糞尿百三十貫、硫酸加里五貫、魚肥二十貫
 〇早生赤(五月十六日) 下肥七十五貫、グアノ七貫五百匁、過磷酸、七貫五百匁、大豆粕、十一貫二百五十匁、魚肥、五貫二百五十匁、硫酸加里、三貫七百五十匁、硫酸安

〇追肥第二回 早生赤(八月六日)、下肥七十五貫、過磷酸、五貫二百五十匁、硫酸加里、三貫七百五十匁、大豆粕、十五貫、磷酸アルミナ、五貫二百五十匁
 〇中耕、除草ハ五月上旬ヨリ十月上旬マテ適宜行フ、〇收穫、八月上旬ヨリ十月中旬迄
 (1)開花 真餘四月十六日、早生赤四月十八日 (2)摘花 真餘ハ行ハス、早生赤、四月廿一日 (3)袋掛 真餘ハ行ハス、早生赤ハ七月廿二日ヨリ廿六日迄 (4)三月廿八日酸曹液八倍ノモノ撒布 (6)基肥 一月十七日 (5)剪定 冬期剪定十二月上旬ヨリ下旬迄

勞力調査

作業項目	寄島臨除	摘果	袋掛	除草	整枝(柵造)	施肥	收穫	荷造及販賣	時定	計
所用人員	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
一人一日賃金	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
總額	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

〇收穫調査

早生赤		收穫回数	
第一回	第二回	第一回	第二回
個	個	個	個
層	層	層	層
重	重	重	重
計	計	計	計
層	層	層	層
量	量	量	量
計	計	計	計

眞 鍮		諸 雜 費	
第二回	第三回	種 別	備 考
二元	一元五	酸素液	一四四畝
一元五	一元	硫酸銅	同上
一元九	一元七	生石灰	同上
一元	一元	掃 竹	同上
一元	一元	繩	同上
一元	一元	針 金	同上
一元	一元	發 紙	同上
一元	一元	荷造用箱	同上
一元	一元	合 計	一〇六元

○經濟調査

支 出 之 部		收 入 之 部	
公租公課	土地資本及利子	品 種 名	早 眞 赤 計
八元	五元	栽培面積	一七六畝
二元	二元	總 收 量	一貫
九元	二元	平均單價	〇.五七強
三元	三元	備 考	前年より單價一割四分高出荷當時相場下落ス
三元	三元	合 計	三六元

差引純益貳百貳拾七圓拾貳錢

二、原種圃經營事項

◎原種圃耕種梗概

選 種	播 種 法	播 種 量	播 種 期	耕 作 物 名	
				水 稻	陸 稻
右糯梗 一、〇一八三 比重液ニテ	苗床ハ幅四尺長 サ適宜ニ整地シ 水ノ澄澄ニナリ タル時ニ播ク	小大坪 粒二、五合	四月下旬 八十八夜以前	苗 代 本 田	水 稻
糯 梗 一、〇八五	休閑地ハ整地後 地均ヲ行ヒ播作 ナリ元肥ヲ施 シ覆土ヲナセル 後列間距離四寸 粒間距離三寸ノ 二列一粒播トス 麥作間ハ條播ヲ ナシ後ニ間引ヲ 行フ	小大反 粒二升五合	五月下旬 乃至五月下旬	陸 稻	麥
小大 麥一、二三	陸 稻 二 同	小大反 麥一升五合	乃至十一月下旬	麥	甘 藷
形質良好中等大ナ ルモノ	苗床ハ落葉ト厩肥 トヲ等分ニ混シタ ルモノヲ入レ其ノ 時入糞尿ヲ半九貫 ヲ施シ踏込ナニ達 セタル時米糠ヲ周 圍ニ五合ヲ床ノ周 二尺ニ踏込ニホ トテ入レテ後種 種間ハ三寸ニ踏 後ニハ麥浮ヲ覆フ	三反 十 貫	三月下旬 乃至三月中旬	甘 藷	馬 鈴 薯
形質良好中等大ナ ルモノ	作條内一尺ノ距離 ニ種薯ヲ並置シ其 ノ中間ニ元肥ヲ施 シ覆土ス 種薯ノ大ナルモノ ハ繼斷シテ断面ニ 木灰ヲ附ケテ栽植 ス	五反 十五 貫	春 植 三月上旬 秋 植 七月下旬	馬 鈴 薯	大 豆
平盆選ニテ粒形 ノ正シキモノ	播條ヲ作リ元肥 ヲ施シタル後ニ 小粒五寸、大粒 七寸ノ距離ニ二 列一粒播トナス	小大粒 粒三升	休閑地五月上旬 麥作間五月中旬	大 豆	

移植期	畦幅	株間	肥料	追肥	中耕	除草	其ノ他ノ管理
六月中下旬	一尺	四寸二分八厘	堆肥三〇〇貫 人糞尿一八〇貫 強過燐酸七貫			適宜	圃場ヲ巡視シテ 雜病害虫株等ヲ 抜キ取ル事
	二尺	列間四寸	堆肥二〇〇貫 大豆粕一四貫 強過燐酸五貫 人糞尿一八貫	人糞尿三六貫 六月中旬七月 旬ノ二回ニ分 ス	六月上旬七月 旬ニ十回チナ ハルヤウニシ テ行フ	六月上旬、七月 中旬、七月下 旬	同
	二尺	列間四寸	堆肥二〇〇貫 大豆粕一〇貫 強過燐酸一八貫	人糞尿三六貫 十二月二日ノ 同ニ分施ス	十二月中旬二月 ハ日向三月ニ ハ日陰中耕チ 行フ	適宜	土入チ四月ニ 至二月、三月、 四月、五月、 六月、七月、 八月、九月、 十月、十一月、 十二月、踏 キ取ル事
	二尺五寸	一尺	堆肥二〇〇貫 大豆粕一〇貫 強過燐酸三貫	木灰一〇貫 第一回、中耕時 ニ施ス	六月下旬	適宜	蔓返シ 七月下旬 八月上旬八月下旬 異品種ヲ除去ス
	二尺	一尺	堆肥二〇〇貫 大豆粕五貫 強過燐酸一五貫	人糞尿七二貫 四月下旬五月 旬又九月下旬 旬ノ二回ニ 分施ス	春植 五月上旬 秋植 八月中旬	適宜	除莠チ幼芽四、五 寸ニナリタル時 ニ花蕾ヲ摘除シ、 又ハ花蕾ヲ摘除 ス、異品種 病害虫株ヲ 除去
	二尺	小粒五寸 大粒七寸	堆肥土木灰一〇貫 強過燐酸一五貫 強過燐酸五貫		六月中旬 七月上旬	適宜	異品種病虫株ノ 除去

第一、水稻原種圃 (大正十三年配布)

品種名	調査項目	出穂	成熟	稈長	穗長	粒數	粒重	芒色	稈色	粒ノ大小	粒形	品質	種重	玄米反	備考
改良愛國一四號	中	九、二	九、二	一〇、〇	長	多	二、六	赤褐	淡紫褐	最小	中	中	二、六	二、六	最近最豊盛凶チ除ク 五ヶ年平均
愛國六四號	中	八、七	九、〇	一〇、〇	長	多	二、五	赤褐	淡紫褐	最小	中	中	二、五	二、五	同
國富一四號	中	八、三	九、〇	一〇、〇	長	多	二、五	赤褐	淡紫褐	最小	中	中	二、五	二、五	同
大森早生	早	八、三	九、〇	一〇、〇	中	中	二、五	黄白	淡黄	中	中	中	二、五	二、五	同
東郷二四號	早	八、三	九、〇	一〇、〇	中	中	二、五	黄白	淡黄	中	中	中	二、五	二、五	同
福龜九二號	中	八、三	九、〇	一〇、〇	中	中	二、五	黄白	淡黄	中	中	中	二、五	二、五	同
選一、二七號	晚	九、三	九、三	九、三	中	中	二、五	黄白	淡黄	最小	中	中	二、五	二、五	同
選一、七九號	中	九、三	九、三	九、三	中	中	二、五	黄白	淡黄	最小	中	中	二、五	二、五	同
關取廣一五號	中	九、一	九、一	九、一	中	中	二、五	黄白	淡黄	最小	中	中	二、五	二、五	同
關取新三四號	中	九、一	九、一	九、一	中	中	二、五	黄白	淡黄	最小	中	中	二、五	二、五	同
關取金八號	晚	九、七	九、七	九、七	中	中	二、五	黄白	淡黄	最小	中	中	二、五	二、五	同
玉錦高七號	晚	九、三	九、三	九、三	中	中	二、五	紫褐	淡紫褐	最小	中	中	二、五	二、五	同
太耶兵衛	早	八、三	九、〇	一〇、〇	中	中	二、五	紫褐	淡紫褐	最小	中	中	二、五	二、五	同

三、大正十三年度陸稻原種郡市別配布數量

郡市名	勢多	群馬	多野	北甘樂	碓氷	吾妻	利根	佐波	新田	山田	邑樂	前橋	高崎	桐生	合計
配布數量	1,700	1,925	1,925	1,100	1,525	1,700	1,350	1,000	1,000	1,100	1,000	—	—	—	15,525

四、陸稻原種圃配布先別數量

- 一、採種圃へ配布セルモノ 五、三八一六
- 一、直接農家へ配布セルモノ 七、六八五
- 合計 六、一五〇〇

第三、麥原種圃

一、麥原種特性 (大正十三年配布)

一、大麥

品種名	調査項目	出穂期	成熟期	莖數	稈長	稈ノ細太	一株穂重	穂長	芒長	一升重量	品質	反當平均收量	備考
白麥 六號		4/20	6/10	23	3.18	4.9	2.0	1.2	2.5	3.8	上	4,575	收量三年
牛芒 八號		4/25	6/10	22	3.57	5.8	2.3	1.2	1.5	3.3	上	5,380	同
備前 早生		4/27	6/9	27	3.64	5.5	2.5	1.2	1.9	2.9	上	5,000	同
竹林 一號		4/23	6/7	26	3.5	4.6	2.6	1.2	1.4	3.3	中	5,120	同
關取田 二號		4/22	6/5	24	3.5	5.0	2.6	1.2	1.3	3.2	中	5,120	同
在來大麥三種平均												4,000	

二、小麥

品種名	調査項目	出穂期	成熟期	莖數	稈長	細稈太	穂一重	穂長	芒長	一升重量	品質	反當平均收量	備考
新田 早生		4/30	6/13	21	3.53	4.0	1.5	2.8	1.2	3.5	上	2,520	收量三年
だるま		5/3	6/18	26	3.94	5.1	1.7	2.5	1.0	3.9	中	3,820	同
赤坊主 高三四號		5/11	6/26	24	3.16	5.2	1.7	2.6	0.9	3.0	上	3,080	同
白坊主 美四一號		5/11	6/26	24	3.16	5.2	1.7	2.6	0.9	3.0	中	3,210	同
スネキリ 一五號		4/20	6/15	19	3.47	4.1	1.5	2.7	0.7	3.0	中	2,600	同
在來小麥三種平均												2,460	

二、麥原種品種別總收量反當數量及原種トシテ配布セル數量

品種名	大	小	合計
白麥 六號	5,700	—	5,700
牛芒 八號	7,620	—	7,620
備前早生 五號	2,563	—	2,563
竹林 一號	2,558	—	2,558
關取田 二號	5,800	—	5,800
新田 早生	—	3,336	3,336
だるま	—	1,489	1,489
赤坊主 三四號	—	1,507	1,507
合計	19,655	—	19,655

三、大正十三年麥原種郡市別配布數量

郡市名	勢多	群馬	多野	北甘樂	碓氷	吾妻	利根	佐波	新田	山田	邑樂	高崎	前橋	桐生	合計
配布數量	2,700	3,625	1,135	1,525	1,925	1,507	1,200	1,000	2,563	1,053	2,000	—	1,089	1,056	19,655

四、麥原種配布先別數量

一、採種圃ニ配布セルモノ
 一、直接農家ニ配布セルモノ
 合計

一九、八六五
 二〇、八〇〇
 二〇、〇七三五

第四、甘藷原種圃

原種圃 特性	品種		葉柄長	同色	葉脈色	形	塊重	外皮	肉色	肉質	食味	反當量
	早	晩										
紅赤	太	細	五、八	濃紫	紫	紡錘	一五、〇	深紅	肉色	密	上	五、八、〇〇〇
太	早	太	九、〇	濃紫	紫	紡錘	一五、〇	深紅	肉色	密	上	七、八、〇〇〇
三度	中	稍太	七、〇	濃紫	紫	紡錘	二五、〇	深紅	肉色	密	上	五、八、〇〇〇
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

二、原種圃收量及配布數量

種諸ニテ	品名	總收量	反當收量	精選量	原種トシテ配布セル數
紅	赤	四、二、九〇〇	四、二、九〇〇	一、五〇、〇〇〇	一〇
白	赤	一〇、七、〇〇〇	一〇、七、〇〇〇	五、一〇、〇〇〇	一〇
合計	計	一四、九、九〇〇	一四、九、九〇〇	六、六〇、〇〇〇	二〇

第五、馬鈴薯原種圃

薯原種 特性	品種名	早晩	莖	葉	薯	反當量	數量					
								太サ	長サ	色	太サ	色
アメリカーンウオンド	アメリカーンウオンド	中	短	淡綠	中	淡綠	白	白	密	偏圓	上	六、九、〇〇〇
アメリカーンウオンド	アメリカーンウオンド	中	短	淡綠	中	淡綠	白	白	粗	圓	中	六、六、〇〇〇
合計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

二、馬鈴薯原種圃收量及配布數量

品種名	春薯收量	秋薯收量	總收量	春薯反當收量	秋薯反當收量	精選量	原種トシテ配布セル數量
アメリカーンウオンド	一、五、〇、〇〇〇	三、六、〇〇〇	五、一〇、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	三、六〇、〇〇〇	一、六、〇〇〇	一〇
アメリカーンウオンド	一、五、〇、〇〇〇	三、六、〇〇〇	五、一〇、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	三、六〇、〇〇〇	一、六、〇〇〇	一〇
合計	一、五、〇、〇〇〇	三、六、〇〇〇	五、一〇、〇〇〇	一、五〇、〇〇〇	三、六〇、〇〇〇	一、六、〇〇〇	二〇

備考 配布ノ量ノ精選量ヨリ少キハ收穫後配布期迄ノ貯藏期間中乾燥セルニヨル、然シテ重量ハ減少セ
 ルモ粒數量ニハ相違ナシ
 三、大正十三年度馬鈴薯原種圃市別配布數量
 大正十三年度ニ於テ採種圃ニ對シ配布セル數量ヲ郡市別表示セハ次ノ如シ

品別	郡別	數量
アノリローズ	勢多郡	三〇
	群馬郡	三〇
	多野郡	一
	北甘樂郡	一
	碓氷郡	一
	吾妻郡	一〇
	利根郡	一〇
	佐波郡	一
	新田郡	一
	山田郡	一
	邑樂郡	一〇
	合計	計

五、肥料土壤分析鑑定事項

一、依頼分析	八四點	成	分	一七二件
二、場用分析及鑑定調査	一四點	成	分	三〇件
肥料分析	五點	成	分	二七件
鑑定分析	二〇點	成	分	四〇件
研究分析	二四點	成	分	五九四件
土壤分析	二一八〇點	成	分	八七二〇件
收穫物鑑定及調査				

六、成績報告書並印刷物配布

試驗成績報告其ノ他注意事項ヲ印刷配布シタルモノ左ノ如シ				
大正十二年度業務功程	一〇〇〇部	稻肥の話		二〇〇〇部
麥肥の話	八〇〇部	桑肥の話		一〇〇〇部
農産加工の話	五〇部	野鼠窒扶斯菌使用注意		一〇〇〇部
米麥採種圃擔當者心得	一、二〇〇部	雜穀採種圃擔當者心得		五〇〇部

七、場員出張

A 管内	三五〇件	講話	四三	調査	九一	視察	二八
講習	二一	指導	九八	其ノ他	二四		
審査	四四						
B 管外	一						

八、鑑定及質問應答

農具鑑定	二五件	質問應答	二三七件
------	-----	------	------

九、文書往復件數

收受	一〇七七件	發送	八二五件
----	-------	----	------

一〇、來觀人員

總計	二三、七九四人
----	---------

一一、大正十二年度經費豫算額

歲出 經常部

農事試驗場費

三、二九九〇

第一目 俸 給 一、〇四八八

◎產業技師二人年俸平均金千九百圓此金參千八百圓◎產業技手六八月月俸平均七拾八圓此金五千六百十六圓◎產業主事補二人月俸平均金五拾參圓此金千二百七十貳圓

第二目 雜 給 七、二五八

◎助手一人月俸金參拾五圓此金四百貳拾圓◎旅費金貳千八拾壹圓◎諸備給金四千六百拾圓ノ内◎常農夫二人月給平均五拾八圓此金千參百九拾貳圓◎小使二人日給平均壹圓拾貳錢此金八百拾七圓六拾錢◎備人料延貳千四百八一人金壹圓此金貳千四百圓◎賞與金百四拾七圓

第三目 場 費 六、三七一

◎備品費金百四拾四圓◎消耗品費金五百五拾七圓◎圖書印刷費五百八拾八圓◎通信運搬費金百八拾參圓

○賄費金百九拾九圓○試驗費金參千百九拾八圓○作物改良指導地委託費金貳百八拾圓○家畜費四百八圓
○種苗養成費七百九拾參圓○雜費金貳拾壹圓

第四目 米麥原種圃費 三、七六九

○助手一人月俸金四拾圓此金四百八拾圓○旅費金百參拾九圓○備人料延千七百三十三人一人金壹圓此千七百參拾參圓○賞與金貳拾圓○備品費金八拾四圓○消耗品費金四百八拾圓○借地料金七百五十圓○雜費金八拾七圓

第五目 施肥標準調查費 三、二二五

○助手一人月俸金五拾圓此金六百圓○旅費金六百六拾九圓○備人料男延七十二人一人金壹圓此金七拾貳圓女延二百九十五人一人金八拾錢此金貳百參拾六圓計金參百八圓○賞與金貳拾四圓○備品費金百八十四圓○消耗品費金百四十五圓○通信運搬費百四拾五圓○委託試驗費金八百參拾圓○印刷費金參百貳拾圓

第六目 雜穀甘藷馬鈴薯原種圃費 一、三六七

○旅費金百七拾八圓○備人料延五百五十八人一人金壹圓此金五百五拾八圓○備品費金四拾八圓○消耗品費金貳百九拾壹圓○圖書及印刷費金貳拾七圓○通信運搬費金八拾參圓○借地料金百八拾貳圓

第七目 麥作病豫防試驗費 一、二〇〇

○備人料八十二人一人金壹圓此金八拾貳圓○旅費金七圓○備品費金貳拾壹圓○消耗品費金貳拾八圓○賠償費金六拾圓○雜費金貳圓

第八目 修繕費 三、二二二

普通修繕費金貳百七拾貳圓小破修繕費金四拾圓

附 錄

群馬縣立農事試驗場經營概況

一、沿革 大畧

明治二十八年四月本場ヲ前橋市岩神村ニ分場ヲ碓氷郡磯部村及新田郡鳥之鄉村ニ設置シ以テ事業ヲ經營セシ
モ明治二十九年ニ至リニヶ所ノ分場ハ郡事業ニ移シテ全ク一ヶ所ノ試驗場トナセリ明治三十一年ニ至リ前橋
市下河原ニ桑園ヲ設置シ桑樹ニ關スル試驗ヲ開始シ明治三十三年ニ至リ前橋市前代田ニ土地ヲ購入シ明治三
十四年ニ於テ事務室其ノ他ノ家屋建築ヲ完了シ事務所ヲ移轉セリ明治三十六年養蠶室ヲ新築シテ養蠶業ニ關
スル試驗ヲ開始シ明治三十八年畜産部ヲ設ケテ養禽養豚ノ種付並ニ種禽種豚ノ配布ヲ始メ尙野鼠室扶斯菌培
養配布ヲ行ヒ野鼠驅除ヲ督勵シ更ニ各郡ニ委託試驗ヲ開始セリ、明治四十年ニ至リ水田ヲ擴張シ採種田及農
商務省委託ノ稻田養蠶試驗ヲ開始シ又農商務省指定桑園ヲ前橋市字天川ニ選定シ二町四反歩ヲ増設ス明治四
十一年ニハ本場隣設地ニ果樹園三反三畝歩ヲ擴張シ明治四十五年ニ至リ舊果樹園ヲ原蠶種製造所ニ讓リ下河
原果樹園ヲ擴張シ同時ニ蠶業ニ關スル試驗ハ原蠶種製造所ニ於テ行フコト、ナリ大正五年ニ於テ農商務省指
定桑樹試驗ノ完了ト共ニ廢止シ大正六年ニ至リ米麥原種圃一町歩ヲ新設シテ原種ノ配布ヲナシ尙同年ヨリ鶏
舍豚舍ノ増築ヲ行ヒ育雛種豚繁殖並ニ果樹苗木ノ養成ヲ擴張シ更ニ施肥標準調査ヲ新設開始シ大正八年ニ陸
稻原種圃三反歩ヲ増設シ大正九年度群馬縣種畜場ニ養禽養豚ノ試驗及畜産事業ニ要スル土地建物ヲ讓リ同時
ニ雜穀、甘藷、馬鈴薯ノ原種圃ヲ一町歩設置シ以テ甘藷、馬鈴薯ノ原種配布ヲ行ヒ大正十二年鐵製網室並ニ
硝子温室ヲ建設シ農藝化學及園藝ニ關スル各種試驗ノ擴張ヲ行ヘリ

二、土地及建物

年 度	經 常 費	追 加	臨 時 費
明治二十八年 度	三、四八七〇〇	八四九〇	
同 二十九 年度	四、六二九〇二	二九四八	
同 三十 年度	四、四七〇八二		
同 三十一年 度	四、三〇八二七		
<p>田 試 驗 地 九段六畝九步</p> <p>畑 試 驗 地 九段九畝步</p> <p>果 樹 園 一町一反步</p> <p>甘藷馬鈴薯原種圃 一町步</p> <p>道路及水路敷 七段二畝十九步</p> <p>米麥原種圃 一町步</p> <p>陸稻原種圃 三反步</p> <p>果樹苗木養成圃 三反步</p> <p>果樹苗木敷地 三反五畝二十八步</p> <p>合 計 六町七反三畝二十六步</p>			
<p>二、建 物</p> <p>事 務 室 六〇坪 分 析 室 一四坪</p> <p>倉 庫 一〇坪 小 使 室 一七坪五合</p> <p>肥 料 舍 一二坪五合 種 苗 研 究 室 二四坪</p> <p>物 置 四坪 溫 室 三〇坪</p> <p>果樹園調查室 九坪 園 藝 小 屋 六坪</p> <p>鐵製網室 四〇坪 甘 藷 貯 藏 窖 三坪</p> <p>農具陳列室 三〇坪 合 計 四〇四坪三合</p> <p>病 蟲 室 一四坪</p> <p>作 業 室 四五坪</p> <p>米麥原種製調室 三〇坪</p> <p>便所廊下其他 二一坪三合</p> <p>果樹園番小屋 二五坪</p> <p>果樹園堆肥舍 九坪</p>			
<p>三、創立以來各年度經費豫算</p>			

年 度	經 常 費	追 加	臨 時 費
同 三十二 年度	五、二四一六三		五、七八六〇五
同 三十三 年度	六、九〇四五四		
同 三十四 年度	一〇、七四六六六		八、七四五二二
同 三十五 年度	九、七三三九九		
同 三十六 年度	一一、五〇四六五		
同 三十七 年度	一二、一四七六二〇		一一、六九九三〇
同 三十八 年度	一一、七九九六二〇		
同 三十九 年度	一一、三七五七二〇		
同 四十 年度	一三、二四三〇五〇		
同 四十一 年度	一四、一九三九〇		
同 四十二 年度	一四、八一七六九〇		
同 四十三 年度	一五、六六二二〇		
同 四十四 年度	一六、四六六一三〇		
同 四十五 年度	一七、二五三三四〇		
大 正 二 年 度	一一、七九〇〇〇		
同 三 年 度	一四、五五〇〇〇		五三〇〇〇〇
同 四 年 度	一三、三三〇〇〇		
同 五 年 度	一七、一六一〇〇		二、二八八〇〇
同 六 年 度	一八、〇一九〇〇		一、〇〇四八七〇
同 七 年 度	一九、二八〇〇〇		一、三六三〇〇

同	同	同	同	同	同	同
八年度	九年度	十年度	十一年度	十二年度	十三年度	同
三,〇二五,〇〇〇	二四,九三三,〇〇〇	三二,九四四,〇〇〇	三五,二四二,〇〇〇	三三,三三四,〇〇〇	三二,七九〇,〇〇〇	
四三九,〇〇〇	五,一九三,四四〇	二,三〇六,〇〇〇	一,二八六,〇〇〇		九三〇,〇〇〇	
						一,四五二,〇〇〇
						二,八〇三,〇一〇

四、職員

場長 農業化學部主任 長
 種藝部主任 種藝部主任
 雜穀甘藷馬鈴薯園藝部主任
 原種園主任 園藝部主任
 病蟲部主任 園藝部主任
 米麥原種園主任 園藝部主任
 種藝部主任 園藝部主任
 農藝化學部主任 園藝部主任
 施肥標準調查係 園藝部主任
 園藝部 園藝部主任
 庶務會計主任 園藝部主任

產業技師 久保貞次郎
 產業技師 高橋武雄
 產業技師 折原左手又
 產業技師 中島二三雄
 產業技師 岩山新二
 產業技師 木村寅太郎
 產業技師 小代無名人
 產業技師 羽生田均次郎
 產業技師 齋藤助市

庶務會計 產業主事補 橫堀常雄
 氣象觀測囑託 測候技師 赤井敬三
 農藝化學調查部 助 六本木昇
 施肥標準調查部 助 角田勝明
 米麥原種園 助 手 大澤義夫
 園藝部 助 手

1421
315

大正十五年二月二十日印刷
大正十五年二月二十五日發行

群馬縣立農事試驗場

印刷者 土肥安馬

群馬縣前橋市堅町甲二番地

印刷所 開文舎印刷所

群馬縣前橋市堅町甲二番地
電話 五九七番

終

